

宮城県文化財調査報告書第223集

# 北小松遺跡ほか

—田尻西部地区ほ場整備事業に係る平成19年度発掘調査報告書—

平成22年3月

宮城県教育委員会

# 北小松遺跡ほか

—田尻西部地区ほ場整備事業に係る平成19年度発掘調査報告書—

## 序 文

ゆとりと豊かさを目指すことが重要になってきたなかで、地域住民の間では身近な地域の個性豊かな風土や歴史的な文化財の保護・活用の取り組みへの気運が高まっています。

しかし、その一方で道路建設や住宅造成など都市化の波が地方にも押し寄せ、大規模なほ場整備などの各種事業も年を追うごとに激化しており、文化財は年々破壊され、消滅の危機にさらされることが多くなってきております。なかでも、土地との結びつきの強い埋蔵文化財は、各種の開発により常に破壊される恐れがあることから、当教育委員会では開発部局等に遺跡の所在を周知徹底するとともに、開発との関わりが生じた場合には重要な文化財を積極的に保護することに努めてきております。

本書は平成19年度に、大崎市田尻西部地区におけるほ場整備事業に伴う水路と農道建設工事に先立って実施した北小松遺跡・宮沼遺跡・愛宕山遺跡・諫訪遺跡の発掘調査報告書です。

北小松遺跡・宮沼遺跡・愛宕山遺跡・諫訪遺跡は縄文時代と古代の遺跡として知られていますが、今回の調査により、遺跡の性格をより解明する貴重な成果が得られました。こうした成果が広く県民の皆様や各地の研究者に活用され、地域の歴史解明の一助になれば幸いです。

最後に、遺跡の保護に理解を示され、発掘調査に際して多大なるご協力をいただいた関係機関の方々、さらに実際の調査にあたられた皆様に対して、厚く御礼申し上げる次第です。

平成22年3月

宮城県教育委員会

教育長 小林伸一

## 例　　言

1. 本書は、北部地方振興事務所と江合川沿岸土地改良区との協議に基づき実施した、ほ場整備事業（水路・農道建設工事）に伴う北小松遺跡・宮沼遺跡・愛宕山遺跡・諏訪遺跡（以下、北小松遺跡ほかとよぶ）の発掘調査報告書である。
2. 調査は宮城県教育委員会が主体となり、宮城県教育庁文化財保護課が担当した。
3. 第1図は国土交通省国土地理院発行の「荒谷」「高清水」（1/25000）地形図を複製して利用した。
4. 測量原点の座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標第X系による。
5. 使用した遺構略号は、SD：溝　SK：土坑　SX：竪穴状遺構・焼面である。
6. 土色の記載にあたっては『新版標準土色帖1994年度版』（小山・竹原1994）を使用した。
7. 遺構・遺物の図の縮尺は原則として以下の通りである。  
　遺構：全体図1/200、遺構配置図1/100、平面・断面図1/100  
　遺物：土器・礫石器（1/3）、土製品（1/2）、石器・石製品（2/3）
8. 遺物観察表の寸法は一部から復元したものには数値に（）を付けた。また、遺物の製作過程が分かる場合は、その順序を→で示した。
9. 図版1-1の空中写真は「国土画像情報（昭和50年撮影カラー空中写真：CTO-75-27-C5c-6）国土交通省」を一部加工して転載した。
10. 遺物の写真撮影はアートプロフィールに委託した。
11. 遺物写真的縮尺は土器（立面：任意・俯瞰：1/3）、礫石器（1/3）、土製品・石器・石製品（2/3）である。
12. 本書の作成業務は（職員）農村幸宏・西村力・志間貞治・久保井裕之・伊藤啓之・生田和宏・小野章太郎・村上裕次・青山隼人・初鹿野博之、（臨時職員）大沼美代子・加藤明日香・亀山昭子・木村奈保実・熊倉静子・佐藤せい子・瀧澤恵子・只木一美・千田敦子・中島敦子・長沼雅子・森幸子・與名本京子で行い、調査を担当した各調査員の協議を経て、執筆はV章1（1）①は生田・初鹿野、他の執筆と編集は生田が行った。
13. 発掘調査と資料整理・報告書作成にあたり、下記の方々からご指導、ご協力を賜った（敬称略）。  
　松本秀明（東北学院大学教授）、須藤隆（東北大名誉教授）、藤沼邦彦（前弘前大学教授）、阿子島香・菅野智則・宮本毅・市川健夫（東北大）、小井川和夫（前宮城県多賀城跡調査研究所長）、柳沢和明・相原淳一（東北歴史博物館）
14. 自然科学分析について、土器付着炭化物の放射性炭素年代測定（AMS測定）は（株）加速器分析研究所、土器付着赤色顔料・漆の分析は（株）パレオ・ラボ、花粉・珪藻分析と樹種・種実同定は古代の森研究室に委託した。その成果は平成20・21年度調査分の分析とあわせて、今後に報告する予定である。
15. 調査成果は、現地説明会や宮城県遺跡調査成果発表会、宮城県文化財調査報告書第216集『北小松遺跡ほか－平成19年度発掘調査概報－』などでその内容の一部を公表しているが、本書と内容が異なる場合は、本書がこれらに優先する。
16. 調査の記録や出土品は宮城県教育委員会が保管している。

## 調査要項

遺跡名：北小松遺跡（宮城県遺跡地名表登載番号No.38005、遺跡略号UO）

愛宕山遺跡（宮城県遺跡地名表登載番号No.38047、遺跡略号RJ）

諏訪遺跡（宮城県遺跡地名表登載番号No.38096、遺跡略号RI）

宮沼遺跡（宮城県遺跡地名表登載番号No.38046、遺跡略号RK）

所在地：大崎市田尻諏訪岬ほか

調査原因：経営体育成基盤整備事業田尻西部地区

調査主体：宮城県教育委員会

調査担当：宮城県教育庁文化財保護課

佐久間光平 西村力 志間貞治 尾形祐之 千葉直樹 生田和宏 小野章太郎

初鹿野博之

調査期間：平成19年5月21日～11月2日

調査面積：7,961m<sup>2</sup>（事前調査区：2,469m<sup>2</sup> 確認調査区：5,492m<sup>2</sup>）

調査協力：大崎市教育委員会・宮城県北部地方振興事務所・江合川沿岸土地改良区



## 目 次

第Ⅰ章 遺跡の環境.....	1
第Ⅱ章 調査の方法と経過.....	1
1. 調査の経緯と経過.....	1
2. 調査方針と方法.....	3
3. 報告に際しての特記.....	5
(1) 各調査区の記載方法.....	5
(2) 土層の記載方法.....	5
(3) 遺物の記載方法.....	5
第Ⅲ章 地形と層序.....	6
1. 調査対象区内にある遺跡と地形の現況.....	6
2. 層序.....	6
(1) 層の位置とその特徴.....	6
(2) VI層の特徴.....	9
① 位置と深度.....	9
② 堆積状況と含まれる遺物の分布.....	9
3. 層の形成要因と地形の変遷.....	9
第Ⅳ章 発見された遺構と遺物.....	10
1. 縄文時代の遺構と遺物.....	10
(1) A区.....	10
A-1区・A-20区・A-25区・A-28区・A-29区・A-34区	
(2) B区.....	29
B-10区・B-11区・B-28区	
(3) C区.....	49
C-2区・C-21区	
(4) D区.....	52
(5) その他の縄文時代の遺物.....	52
① その他の調査区のVI層出土遺物.....	52
② I～V層出土の縄文時代の遺物.....	53
2. 弥生時代以降の遺構と遺物.....	54
(1) A区.....	57
A-6・8区・A-29・34区・A-30区	
(2) D区.....	60
D-2区・D-30区	

(3) 弥生時代以降の遺物	60
第V章 総括	62
1. 縄文時代	62
(1) 遺物	62
① 土器・土製品	62
② 石器・石製品	68
③ 動植物遺存体	68
(2) 遺構・遺物包含層	68
① VI層の時期・その遺物の分布と出土量	68
② 遺構の時期とその分布	69
(3) 遺物包含層・遺構の形成環境	70
① 廃棄の場の位置	70
② 集落の立地と周辺環境	70
2. 弥生時代以降	71
(1) 遺物	71
(2) 基本層・遺構	71
(3) 遺物の分布と遺構の形成環境	71
第VI章 まとめ	72
引用・参考文献	73
図版	83
抄録	

## 図面目次

第1図	遺跡の位置と周辺の遺跡	2	第35図	B-10区東部VI層出土石器・石製品（2）・SK10出土土器	36
第2図	調査区配置図	3	第36図	SK10出土土器（1）	37
第3図	沖積低地部の層序	6	第37図	SK10出土土器（2）	38
第4図	VI層と遺物の分布	7	第38図	B-11区平面・断面図	39
第5図	A-1区平面・断面図	10	第39図	B-11区Vlc.b層出土土器	40
第6図	A-1区Vle,d層出土土器	11	第40図	B-11区Vlb層出土土器	41
第7図	A-1区Vlc,b層出土土器	12	第41図	B-11区Vlb,a層出土土器	42
第8図	A-1区Vla層出土土器	13	第42図	B-11区Vla,VI層出土土器・土製品	43
第9図	A-20区平面・断面図	14	第43図	B-11区VI層出土石器・石製品	44
第10図	A-20区VI層出土石器・石製品	14	第44図	B-28区平面・断面図	45
第11図	A-20区VI層出土土器	15	第45図	B-28区Vld,c,a層出土土器	46
第12図	A-25区平面・断面図	16	第46図	B-28区Vla層出土土器・土製品	47
第13図	A-25区VI層出土土器・土製品	17	第47図	B-28区VI層出土石器	48
第14図	A-25区VI層出土石器	17	第48図	C-2区平面図	49
第15図	A-28区平面・断面図	19	第49図	C-2区断面図	50
第16図	A-28区VI層出土土器・土製品	19	第50図	C-2区VI層出土石器	50
第17図	A-28区VI層出土石器	20	第51図	C-2区北部VI層出土土器	51
第18図	A-29区造構配置図・断面図	21	第52図	C-2区南部VI層出土土器（1）	51
第19図	A-29区VI層出土土器・土製品	24	第53図	C-2区南部VI層出土土器（2）	52
第20図	A-29区VI層出土石器	24	第54図	C-21区平面・断面図	53
第21図	SK3・6平面・断面図・SK7断面図	25	第55図	C-21区VI層出土土器	54
第22図	SK3出土土器・石器	26	第56図	その他の区のVI層出土土器・土製品	55
第23図	SK5出土土器	26	第57図	その他の区のVI層出土石器・石製品	55
第24図	SX4断面図	27	第58図	I～V層出土石器・石製品	56
第25図	SX4出土土器・石器	27	第59図	A-6・8区造構配置図・SD1001断面図	57
第26図	A-34区平面・断面図	28	第60図	A-29・34区造構配置図	58
第27図	A-34区VI層出土土器	29	第61図	A-30区造構配置図・SD1003断面図	58
第28図	B-10区東部造構配置図・断面図	30	第62図	D-2区造構配置図・SD1005断面図	59
第29図	SK10平面・断面図	30	第63図	D-30区造構配置図・SX1000断面図	59
第30図	B-10区東部Vld,c,b層出土土器	31	第64図	弥生時代以降の出土遺物	61
第31図	B-10区東部Vlb層出土土器・土製品	32	第65図	復元土器の器高と口径	62
第32図	B-10区東部Vla層出土土器（1）	33	第66図	深鉢・浅鉢の種類	63
第33図	B-10区東部Vla層出土土器（2）	34	第67図	壺・蓋の種類	64
第34図	B-10区東部VI層出土石器・石製品（1）	35	第68図	土製品の種類	64

第69図 工字文・変形工字文の種類	67	図版29 VI層出土土器（9）	113
第70図 遺構とVI層の重複関係	69	図版30 VI層出土土器（10）	114
		図版31 VI層出土土器（11）	115
		図版32 VI層出土土器（12）	116
<b>表目次</b>		図版33 VI層出土土器（13）	117
附表1 調査状況一覧	75	図版34 VI層出土土器（14）	118
		図版35 SK・SX出土土器（1）	119
<b>図版目次</b>		図版36 SK・SX出土土器（2）	120
図版1 北小松遺跡ほかの遠景	85	図版37 VI層出土土製品（1）	121
図版2 A-1区	86	図版38 VI層出土土製品（2）	122
図版3 A-20区	87	図版39 漆容器・弥生時代以降の出土遺物	123
図版4 A-25区	88	図版40 石器（1）（石鏃・尖頭器・石匙・石劔）	124
図版5 A-28区	89	図版41 石器（2）（石劔・楔形石器・不定形石器）	125
図版6 A-29区（1）	90	図版42 石器（3）（不定形石器・石斧）	126
図版7 A-29区（2）	91	図版43 石器（4）（不定形石器・磨石）	127
図版8 A-34区	92	図版44 石器（5）（磨石・凹石・砥石・石皿）	128
図版9 A-8・21・23・24・26・30区	93	図版45 石器（6）（石皿・敲石）・石製品（1）	
図版10 B-10区	94	（石刀・円盤状石製品）	129
図版11 B-11区	95	図版46 石製品（2）（石刀・石棒）・剥片	130
図版12 B-22区	96		
図版13 B-28区	97		
図版14 B-1・2・3・9・20区	98		
図版15 C-2区	99		
図版16 C-21区	100		
図版17 C-1・7・8・12・13・14区	101		
図版18 C-15・16・17・20・32・33区	102		
図版19 D-2・7・15・21・30区	103		
図版20 北小松遺跡ほか出土の縄文土器	104		
図版21 VI層出土土器（1）	105		
図版22 VI層出土土器（2）	106		
図版23 VI層出土土器（3）	107		
図版24 VI層出土土器（4）	108		
図版25 VI層出土土器（5）	109		
図版26 VI層出土土器（6）	110		
図版27 VI層出土土器（7）	111		
図版28 VI層出土土器（8）	112		

## 第Ⅰ章 遺跡の環境

北小松遺跡や諏訪遺跡などは大崎市田尻諏訪地区とその周辺に所在し、江合川と鳴瀬川の沖積作用で形成された東西約13km、南北約17kmの大崎平野の北寄りに位置する。大崎平野の四周は主に丘陵で、東は広瀬丘陵が南北に、南と北はそれぞれ三本木丘陵、清滝丘陵が西から東へ延びる。遺跡はこの清滝丘陵から樹枝状に派生した低丘陵の縁辺とそれらに囲まれた沖積地にある。遺跡の標高は約16.0～36.0mで、現在は宅地や水田・畑地などとなっている。

大崎市田尻の縄文時代の遺跡として、縄文時代後期末葉から晩期前葉の貝塚である国史跡中沢目貝塚や国指定重要文化財の遮光器土偶が出土した恵比須田遺跡が著名であるが、本遺跡周辺にも縄文時代の遺跡が多く点在する（第1図）。そのうち宮沢遺跡では、縄文時代晩期末葉の大型土坑と遺物包含層や多くの遺物が発見されており、本遺跡と同じ時期の本格的な発掘調査例として特筆される（宮城県教育委員会1980）。

北小松遺跡は低湿性の遺物包含層・貝層が広がる遺跡として注目されてきた。昭和28年に発見され、「宮城県史1」の遺跡地名表には縄文時代晩期の大洞B C～A式土器の出土する遺跡として紹介された（伊東1957）。また昭和32年の開田工事では、「泥炭層」や「貝層」から縄文時代の抜歯人骨やシジミ・タニシなどの貝類、多数の縄文土器も発見されている（興野1959・須藤1986）。地元の人々からの聞き取りによると、その場所は東側微高地の南にある水田付近にあたるという。その後は、平成8年に隣接する宮沼遺跡で町道拡幅工事に伴う発掘調査が旧田尻町教育委員会によって行われたが、縄文時代晩期の土器がわずかに出土したのみであった。

一方、この調査では古墳時代の土坑と土師器壺も発見されたように、北小松遺跡は古代の遺物が散布することでも知られていた。特に奈良・平安時代の遺物は、遺跡東方の丘陵部に位置し『続日本紀』記載の「新田柵」にも比定されている新田柵跡（城柵跡）が営まれていた時にあたるものとして、その関連が注目される。

## 第Ⅱ章 調査に至る経過と調査方法

### 1. 調査の経緯と経過

縄文時代晩期や古代の遺跡として注目されてきた北小松遺跡であるが、本格的な発掘調査は行われておらず、その実体はいまだ不明な点が多いのが現状であった。この状況の中、近年、北小松遺跡や諏訪遺跡などとその周辺で田尻西部地区の場整備事業が計画されることとなった。そこで、その計画区内での遺構・遺物の分布や密度、それらが検出される深さなどを把握するため、平成16年度に宮城県教育委員会、平成16・17年度に旧田尻町教育委員会によって確認調査が実施された。本報告に関するその結果を要約すると、北小松遺跡の西にある微高地の北・南・西の調査区では、水成堆積層の下で地表下約0.2～2mにあたる位置から、縄文時代晩期から弥生時代前期の遺物を多く含む層が検出され、その微高地上には集落が営まれていたと考えられること（宮城県教育委員会2005）、諏訪遺跡の南にある水田内と東にある微高地上の調査区では、遺構や遺物包含層は検出されず、古代の遺物がわずかに発見されたのみであったことである。



No.	道 路 名	立 地	種 別	時 代	No.	道 路 名	立 地	種 別	時 代
1	北小松道路	丘陵、冲積平野 （泥炭層）	礎文地		21	巨隕尾跡	丘陵尾根	散布地	純文地・古代
2	宮内道路	丘陵	散布地	礎文・古代	22	大寺道路	丘陵	散布地	純文地・中世
3	愛宕山道路	丘陵	散布地	礎文・古代	23	大木本沢田道路	段丘	集落、塚	純文地・古代・中世
4	源品道路	丘陵	散布地	礎文・古代	24	河野道路	段丘	集落、散布地	純文地・古代・中世
5	新川道路	丘陵	古墳・城壁・集落	礎文・後生・古墳・古代・中世	25	御前沢道路	段丘	集落	純文地・古墳・奈良・中世
6	新江口道路	丘陵	散布地	礎文地	26	鶴・返り丸城垣道路	段丘	集落	純文地・古代・中世・近世
7	国領跡、百沢道路	丘陵	官衙	礎文地・佛生・奈良・平安	27	中ノ茅草跡	丘陵	集落	純文地・古代・中世・近世
8	いもり塙跡這道路	丘陵麓	散布地	礎文地	28	見附石道跡	段丘	寺院、散布地	純文地・古代・中世・近世
9	長者原D道路	丘陵斜面	散布地	礎文	29	東高六里道路	段丘	散布地	純文地・古代・中世・近世
10	上郷町道路	丘陵斜面	散布地	礎文	30	北高 A 道路	段丘	散布地	純文地・古代・中世・近世
11	京の道跡	丘陵	散布地	礎文	31	卯の道跡	丘陵	散布地	純文地・古代
12	長者原 A 道路	丘陵	散布地	礎文地・奈良	32	高瀬神社道路	丘陵	散布地	純文地・古代
13	長者原 B 道路	丘陵斜面	散布地	礎文	33	四ノ増尾道路	丘陵	散布地	純文・古代
14	長者道路	丘陵	散布地	礎文	34	天狗堂道路	丘陵斜面	集落	純文・奈良・平安
15	化女沼道路	丘陵斜面	散布地	礎文	35	御令跡、木戸瓦室跡	丘陵	空跡	奈良
16	馬鹿道路	沖積平野	散布地	礎文・古代	36	星石崎頭道路	丘陵斜面	散布地	純文・古代
17	十六小沢道路	丘陵麓	散布地	礎文地・古代	37	お崎子山道路	自然環境	散布地	純文地・古墳前・古代
18	梅之木道路	丘陵斜面	散布地	礎文・古代	38	田代小字松西道路	自然環境	散布地	純文地
19	萩生道路	段丘	集落	礎文地・後生・古代・近世	39	猪子山西道路	沖積平野	散布地	純文地
20	半島道路	丘陵斜面	散布地	礎文地					

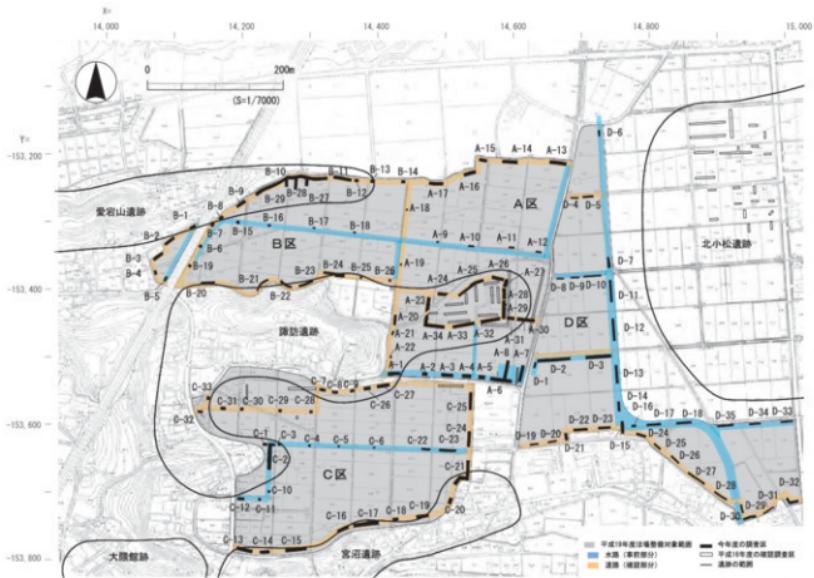
第1図　遺跡の位置と周辺の遺跡

この調査を受け、工事の遺跡に与える影響を最小限に抑えるための協議を重ね、その設計を検討した後に、平成19年度から発掘調査が実施されることになった。本調査はその1年目にあたり、調査対象区域は、ほ場整備事業が実施される範囲（約257,000m<sup>2</sup>）のうち水路予定地（12,800m<sup>2</sup>：事前対象）と農道予定地（20,900m<sup>2</sup>：確認対象）である（第2図）。

そして後述するような調査の方針や方法を踏まえた後、広大な調査対象区域を現道や現地形によって便宜的にA～D区に4分割し、平成19年度の発掘調査を5月21日から開始した。また9月14日から26日には、今後の暗渠排水工事を考慮し、水田予定区域で遺構の広がりが予想されるB区について追加の確認調査（B-27～29区）もあわせて行った。その後、10月2日に花粉分析・珪藻分析用の資料採取を行い、10月6日には現地説明会（参加65名）を開催し、11月2日に調査を終了した。最終的な調査区の総数は131箇所で、各調査区は長さ3～113m、幅2～4.5m、調査深度0.2～3m、全ての調査面積は7,961m<sup>2</sup>（事前調査：2,469m<sup>2</sup>、確認調査：5,492m<sup>2</sup>）となった。

## 2. 調査方法

平成16・17年度の確認調査では弥生時代以降の遺構は検出されず遺物もわずかであったこと、縄文時代の遺物包含層（VI層）や遺構・遺物が多く発見されたことから、事前調査・確認調査とともに縄文時代の遺物包含層（VI層）の分布・堆積状況・遺物の含まれ方・遺構・遺物の分布や堆積状況、それらの時期などを把握することを調査の方針とした。そして調査の安全が確保される限りにおいて、



第2図 調査区配置図

工事によってそこまで掘削が及ぶ事前調査区ではそれらを精査の後に完掘し、そこまで掘削が及ばない確認調査区ではそれらを必要に応じて一部掘り下げて精査することとした。

調査方法は、まず、重機で表土を除去し、弥生時代以降の遺構検出面と考えられたスクモ層（IV層）や水成堆積層（V層）の上面で遺構・遺物の有無を確認し、必要に応じてその精査や記録を行う。次に、重機による部分的な掘り下げやボーリング調査によって、その下層にある遺物包含層（VI層）の深度をできる限り把握し、原則として安全に調査できると判断した①地表下2m未満の調査区と、調査が危険と判断した②地表下2m以上の調査区とで調査方法を区別する。そして①は段掘りなどによって調査の安全を確保した後、遺構や遺物包含層（VI層）を検出し、その精査や記録とともに土壌サンプルの採取もあわせて行うこととした。一方②は遺構や遺物包含層（VI層）の検出は行わずその深度を記録するに留め、その上層で古代の遺構面にあるスクモ層（IV層）や水成堆積層（V層）を調査面とした。さらに、丘陵斜面などでその検出面の深さが、浅い地点と深い地点で大きく異なることが予想される調査区は①・②の方法を使い分けることとした。ただし実際の調査では、①でも調査が危険と判断したものは②、②でも安全が確保されたと判断したものは①と判断した場合もあった。

なお、調査区や遺構・遺物包含層（VI層）などの平面図作成には電子平板を使用し、その断面図は1/20で作成した。また写真撮影には、6×7モノクロフィルム・カラーリバーサルフィルム、デジタルカメラを使用した。また動植物遺存体には、調査の際に取り上げたものと土壌サンプルを水洗して抽出したるものがある。その水洗には大型遺物は4mmメッシュ、微細遺物は4・2・1・0.5mmメッシュを用いた。



A-28 区調査風景（北東から）



ボーリング調査



分析土壤の採取

### 3. 報告に際しての特記

#### (1) 各調査区の記載方法

記載の順序について、平成20・21年度調査やそれ以降も行われる追加調査・隣接地区的調査によって、さらに遺跡の範囲が変更される可能性があるため、ここでは調査開始時に設定した調査区域であるA～D区の順に記載した。その131箇所の各調査区の位置と平面図は第2・4図、遺跡との対応や調査面、そこで発見された遺構や遺物の概要などは附表1にまとめた。以上の調査区のうち、さらに遺構が検出された調査区と、遺物包含層（VI層）が検出されかつ遺物が比較的多かった調査区について、調査区ごとに詳細な遺構や遺物包含層の平面・断面図と細分層の注記などを記載した。

#### (2) 土層の記載方法

各層の堆積状況のほか、遺物包含層（VI層）検出深度・標高値や遺物出土状況の概要を附表1にまとめた。この遺物包含層（VI層）の検出深度は、調査時における表土からの深度を示している。また検出深度と標高について、遺物包含層（VI層）の傾斜の緩急がわかるようにその最大・最小値を掲載した。その傾斜の緩急は上面と下面で異なる場合もあるが、後述するように、下面と上面の傾斜はほぼ同じで、上面と下面の緩急はほぼ対応するとみなせるので、より調査例の多い上面の値を掲載した。ただし最大・最小値にあまり差がない場合は最大値のみとした。また各層の特徴は第Ⅲ章2で詳しく述べた。なお、遺物包含層（VI層）のうち、a・b・c…と付した細分層のほとんどが、厚さ0.1～0.2mの非常に薄い自然堆積土であるため、その特徴を抽出し、各調査区間の対応関係を把握することができなかった。したがって各調査区の細分層は各々異なる層である。

#### (3) 遺物の記載方法

上記で述べた遺構と遺物包含層から出土した遺物は、その出土した層の下層から上層の順に掲載した。また下層と上層の破片が接合した個体は、観察表に「○層+△層」と記した。ただし、その個体が製作・使用・廃棄された時期に最も近いのは下層の「○層」が形成された時期と考えられるので、「○層」の個体として掲載した。なお、上記の調査区以外から出土したVI層の特筆すべき遺物は第56・57図、I～V層出土の縄文時代の遺物は第58図、弥生時代以降の遺物は第64図にまとめた。

遺物の分類について、平成20・21年度調査とそれ以降も行われる隣接地区的調査によって、さらに資料が増加するので、土器は深鉢・浅鉢・壺・注口土器・高坏など、石器は石鎌・尖頭器・石錐・石匙・石箋・楔形石器・不定形石器・洞片などの器種に分けるにとどめた。

また土器について、羊歯状文・雲形文・工字文・変形工字文などは、遺物の型式や時期を推定する指標とされる文様で（山内1930）、その内容もある程度、研究者間で共有されているので、ここでも用いた。さらに工字文は沈線または隆線で表現されることが知られ、縄文時代晩期後葉から弥生時代初頭にかけての土器の文様や型式の変遷や年代を検討する上で、重要な指標となっている（磯崎1964など）。そこで本書では、工字文のうち、沈線で表現したものを「沈線表現」、隆線で表現したものを「隆線表現」と細別して記した。また礫石器について、スクリーントーンと矢印は磨面の範囲を示している。

第Ⅲ章 地形と層序

## 1. 調査対象区内にある遺跡と地形の現況

調査区域の現況は、愛宕山・諏訪・宮沼遺跡がある低丘陵と北小松遺跡西部の微高地で囲まれた標高16.5～18.5mのほぼ平坦な水田地帯となっており、概ね丘陵裾部～沖積低地帯によって構成される。沖積低地へ延びる低丘陵や微高地の一部は、過去の開田や近年の水田整備によって大きく削平されている。なお、この遺跡の範囲は後述する今回の調査成果を反映したものとなっている。

A区は調査対象範囲の中央部で、諏訪遺跡中央部の小丘陵（A-1・20~22区）と、その東部の微高地（A-23~34区）、その北と南で遺跡外の沖積低地（A-2~19区）で構成される。この水田面より1~1.5mほど高い微高地は、後述するように本来、小丘陵から派生したものとみられる。

B区は調査対象範囲の北西部で、愛宕山遺跡東部の小丘陵（B-1・8~13・27~29区）と、諏訪遺跡北部の小丘陵の北裾部（B-20~25区）、その間で遺跡外の沖積低地（B-2~7・14~19・26区）で構成される。

C区は調査対象範囲の南西部で、諏訪遺跡中央部の小丘陵（C-7~9・26・27・32・33）と、その南部の小丘陵（C-1~3区）、宮沼遺跡の小丘陵の北裾部（C-13~21区）、この2つの遺跡の間で遺跡外の沖積低地（C-4~6・10~12・22~25区）で構成される。

D区は調査対象範囲の東部で、諏訪遺跡・宮沼遺跡の小丘陵と北小松遺跡西部の微高地との間で遺跡外の沖積低地（D-1～35区）にある。南辺には宮沼遺跡から派生する微高地がのびている。

2. 略序

### (1) 層序とその特徴

丘陵裾部と低地部では層序に違いがあるが、堆積土の状況が良好な低地部では表上から地山岩盤まで、10層に大別できた（第3図）。

I 層：表土層。

II層：スクモ層。厚さ0.1~0.5m。A~D区の低地部に分布。

III層：灰白色火山灰層（十和田a火山灰（ $T_{10-a}$ ））。最も厚い地点で

厚さ0.4m。A～D区の低地部に分布。

IV層：スクモ層。最も厚い地点で厚さ1m以上。A～D区の低地部

に分布。細文・弥生・古代の遺物がわずかに含まれる。

V層：黄褐色粘土・シルト～砂層。厚さは0.1～3m以上。地下水由来

の水成堆積か。縄文・弥生時代の遺物がわずかに含まれる。

VII層：黒色粘土層～砂層。厚さ0.1～0.8mで、地表下約0.3～3.4mの

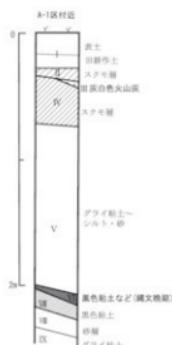
標高約14~18mで検出。数層に細分。縄文時代の遺物が多く

含まれる遺物包含層で「泥炭層」もここに含まれる。

VII層：黑色粘土～砂層（無遺物層）。

VII层：暗褐色砂层。

IX層：黄褐色粘土～シルト層。



第3図 沖積低地部の層序



第4図 VI層と遺物の分布

X層：基盤の凝灰岩層。

ほとんどの遺物はVI層から出土した。VII～X層はいわゆる地山層で、遺物は出土していない。縄文時代の遺構はVI層またはVII層を掘り込んでいる。

## (2) VI層の特徴

### ①分布状況

地表下約0.3～3.4mの標高約14～18mで検出された層である。その傾斜について、VI層上面の標高値の等高線をみると、15～17mの各等高線は現在の4つの低丘陵の周囲に沿って配されている。この値は丘陵から沖積地低地へと離れるにつれて小さくなっている。その中央付近にあたるD～7区付近では最小値を示すと考えられる。すなわち、VI層は現在の丘陵部から沖積地低地へ向かって次第に深くなっている。おおむね15mで底に達すると考えられる。なお、沖積低地の標高値はすべて15mとなっているので、この底の形状はおおむね平坦であったとみられる。したがってIV・V層の検出で留めたA～C区のVI層上面の標高も15mほどとみてよいであろう。ただしB-13区の1箇所だけその標高は14mで少し低くなっている。その底には多少の起伏があったと考えられる。

### ②堆積状況と含まれる遺物の分布

VI層は丘陵から沖積低地へ緩やかに傾斜する地山に沿って0.1～0.8mの厚さで、その上面と下面はほぼ同じ傾斜で堆積している。堆積土には丘陵や微高地から流入したとみられる土砂や磨耗の少ない遺物が含まれており、その多少でさらに層は細分される。その各細分層の厚さは0.1～0.2mである。

VI層に含まれる遺物は細分層の各層の上面に張り付くような状態で、丘陵に近い緩斜面の範囲に多く分布するという傾向がみられる。ただしそのほとんどが破片で、全体を復元できる個体やその破片が密集した場所などはみられなかった。したがってこれらは、廃棄された原位置を保ったものではなく、おそらく付近の丘陵や微高地などから廃棄されたものが土砂などとともに流されてきたものと考えられる。ただし、遺物の磨耗が少ないとから、それほど遠くから流れてきたものではないであろう。またA-25区東部のVIc層は、加工後にまとめて廃棄されたニワトコなどの種子が密集していたことから、食糧残渣の廃棄の場となっていたとの指摘がある（古代の森研究室2008b）。

## 3. 層と地形

前述したようにVI層の上面と下面はほぼ同じ傾斜となっているので、VI層上面の起伏は下面の起伏をほぼ反映したものと考えてよい。そこで第4図をみると、VI層上面の標高値の各等高線は現在の4つの低丘陵の地形に沿っている。つまり縄文時代と現在の地形の出入りはおおむね同じであったと考えられる。すなわち、VI層が検出された現在の低丘陵の斜面や裾部は、縄文時代にも低丘陵の斜面や裾部であった。さらに、諏訪遺跡中央部（A区）の低丘陵をめぐる15～17mの等高線は、東の微高地まで延びているので、この微高地は、縄文時代にはその低丘陵からやせ尾根状に派生した丘陵の一部とみられ、その後の開田などにより削平されたと考えられる。さらに、それらの丘陵や微高地の周囲には、湿地（A-1・28区）や湿地・沼沢地（B-28区）、水深2m以上の湖沼（B-10区東部）などが広がっていたとみられ、その後、河川などによって運ばれた土砂が厚く堆積し（V層）、再び沼地となったと考えられている（II～IV層）（古代の森研究室2008a・2009）。

## 第IV章 発見された遺構と遺物

縄文時代晚期の遺物包含層と遺構、近世以降の遺構が検出された。縄文時代晚期の遺構には、A区の竪穴状遺構1基・土坑4基・焼面5箇所・ピット7基、B区の土坑2基がある。弥生時代以降の遺構にはA区の溝4条・D区の溝2条・河川1条がある。

### 1. 縄文時代の遺構と遺物

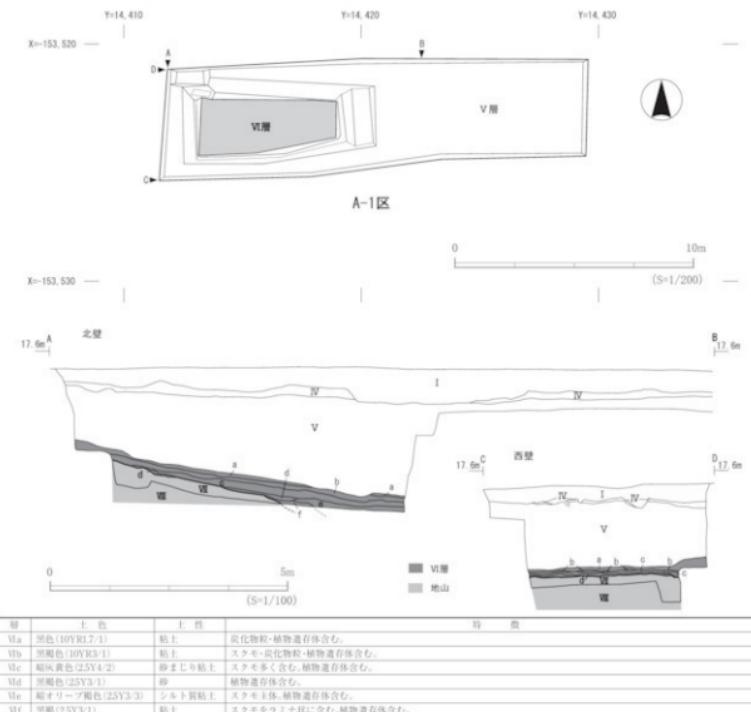
#### (1) A区

遺構には竪穴状遺構1基(SX4)・土坑4基(SK3・5~7)・焼面5箇所(SX1・2・8・9・12)とピット7基があり、多くはA-29区で検出された。

A-1区(平面・断面図: 第5図・遺物: 第6~8図、図版2・21・28)

#### 【VI層】

〔遺物〕 a層とb層が比較的多い。土器は深鉢・浅鉢・壺、石器は石皿・剥片がある。土器はe層の深鉢(第6図1・2)、d層の深鉢(第6図4)・口縁部に羊齒状文がある浅鉢(第6図3)・体部に



第5図 A-1区平面・断面図

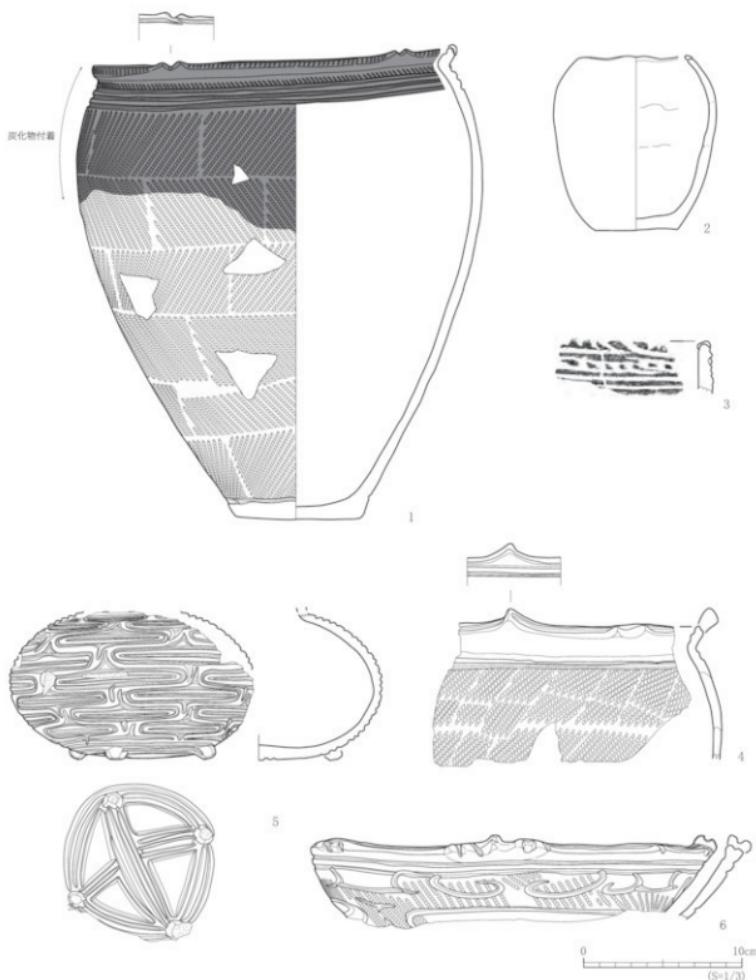


図	区名	遺物・期	器種	特　徴	登録	写真
1	A-1	Vte層 + b層	深鉢	DH約25cm、底径約8cm、三形変起溝足、口沿部入り、平行沈縫と弱いLRLの波状縫文、内外面に炭化物多量	R192	21-1
2	A-1	Vte層	深鉢	DH約7.2cm、底径5.2cm、器高11.0cm、小液凹縫、内部に炭化物、輪積み痕残る	R197	21-4
3	A-1	Vte層	浅鉢少	口縫部に平衡状文	R195	28-3
4	A-1	Vte層 + b層	深鉢	山形突起、LRL縫文→平行沈縫、外外面に炭化物	R182	28-1
5	A-1	Vte層	壺(四脚付)	丁字文5單位9段(縫縫表現)、底部(口)×丁字文(縫縫表現)	R189	21-3
6	A-1	Vte層	浅鉢	DH(25.6cm)、先起付3口縫(大突起4、小突起4)、丁字形(口縫文)LRL縫文→沈縫→部分的に磨削	R190	28-2

第6図 A-1区 Vte.d層出土土器

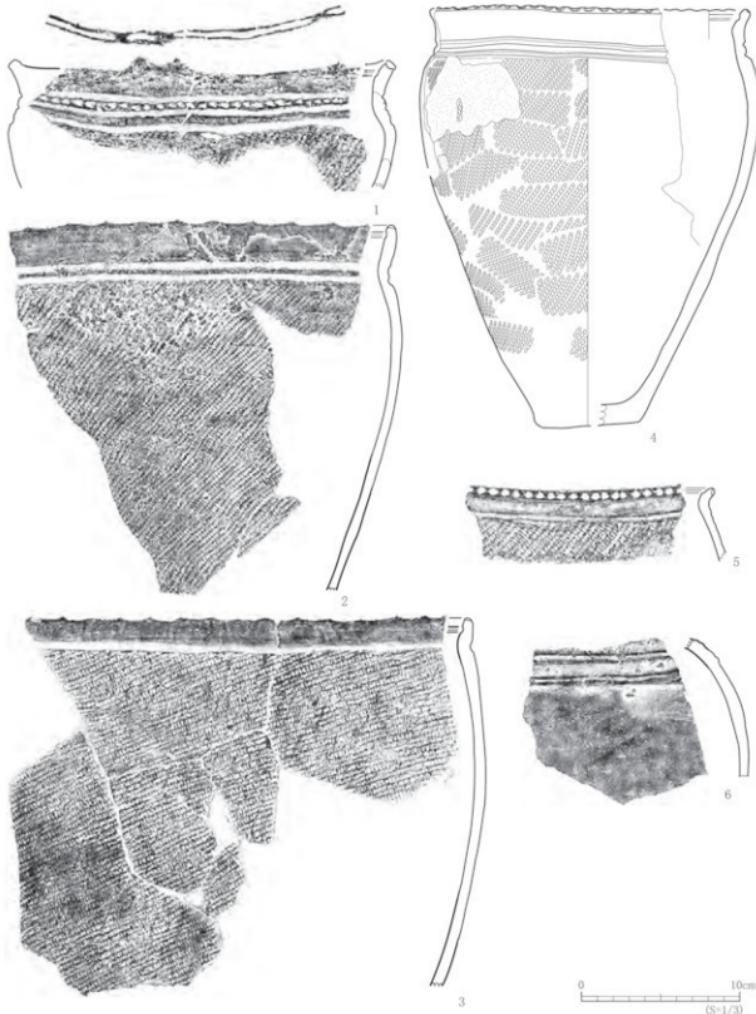
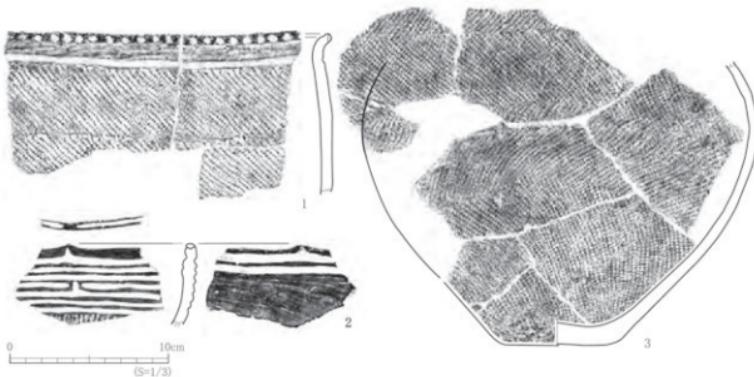


図	区名	遺構・期	器種	特　徴	登録 年月	写真
1	A-1	Vlc層	深鉢	口径24.4cm、山形突起、平行沈線と連續鉤突、LR縦文、外面上に炭化物	R180 28.4	
2	A-1	Vlc層	深鉢	小波状縁、平行沈線、LR縦文、外面上に炭化物	R181 28.6	
3	A-1	Vlc層	深鉢	小波状縁、沈線、LR縦文	R183 28.7	
4	A-1	Vlb層+a層	深鉢	口径19.8cm、底径3cm、高さ26.5cm、小波状縁、平行沈線、LR縦文、内外面上に炭化物、鉢底孔1ヶ所	R173 21.2	
5	A-1	Vlb層	深鉢	平縁(刷みあり)、沈線、LR縦文、外面上に炭化物	R185 28.5	
6	A-1	Vlb層	壺	2本口付の背縁2条、外面上に黒漆と赤漆	R188 28.8	

第7図 A-1区 Vlc,b層出土土器



第8図 A-1区Vla層出土土器

雲形文がある浅鉢（第6図6）・体部に工字文がある壺（第6図5）、c層の深鉢（第7図1～3）、b層の深鉢（第7図4・5）・壺（第7図6）、a層の深鉢（第8図1）・口縁部に工字文がある浅鉢（第8図2）・壺（第8図3）を図示した。

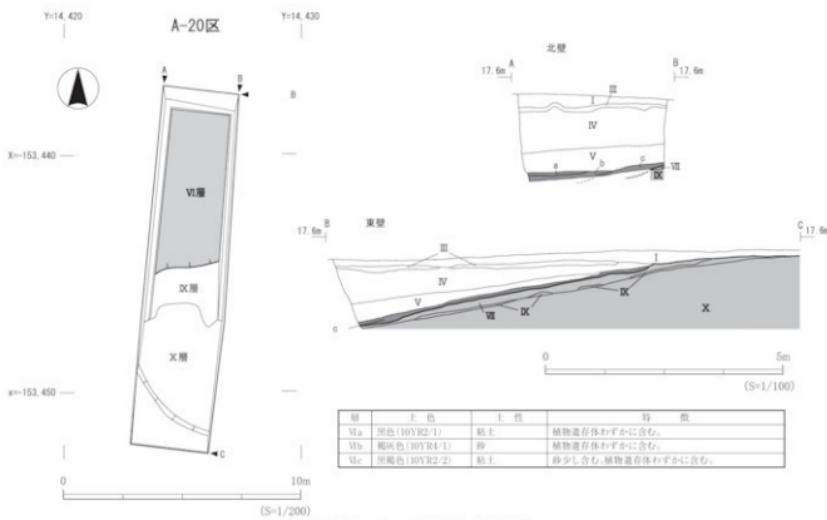
〔年代〕出土土器の時期から縄文時代晩期後葉と考えられる。

A-20区（平面・断面図：第9図・遺物：第10・11図、図版3・22・28・29・40・45）

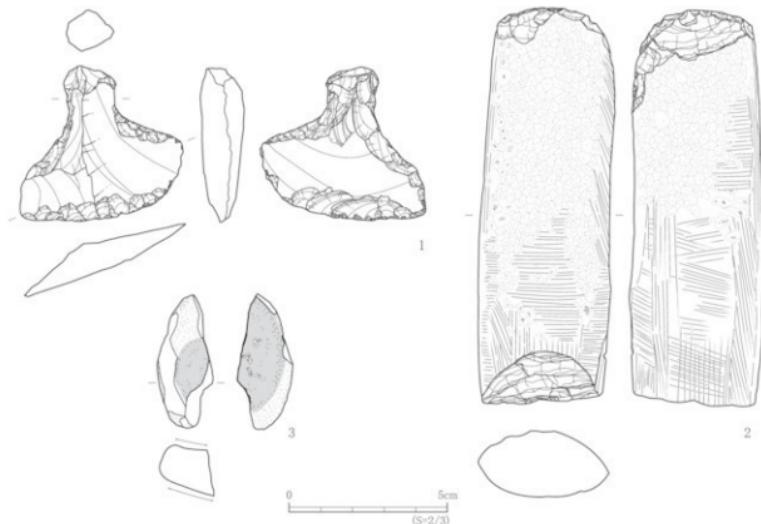
#### 【VI層】

〔遺物〕土器は深鉢・浅鉢・壺、石器は石匙・石皿、石製品は石刀がある。土器はc層の深鉢（第11図1～3）・口縁部に工字文がある浅鉢（図版28-14）・体部に工字文がある深鉢（第11図4）・浅鉢（第11図5）、a層の底部に木葉痕がある深鉢（第11図6）、石器はVIc層の石匙（第10図1）・石皿（第10図3）がある。他に石刀（第10図2）を図示した。

〔年代〕出土土器の時期から縄文時代晩期後葉と考えられる。



第9図 A-20区平面・断面図



回	区名	遺構・層	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石材	備考	登録	写真
1	A-20	VIc層	石斧	43.0	56.0	13.0	21.6	絆貫石質		石22	40-17
2	A-20	VI層	石斧	123.0	41.0	21.0	163.2	粘板岩	石刀を再加工	石127	45-5
3	A-20	VIc層	石核	84.0	36.0	35.0	908.8	安山岩	破片	石111	45-2

第10図 A-20区VI層出土石器・石製品

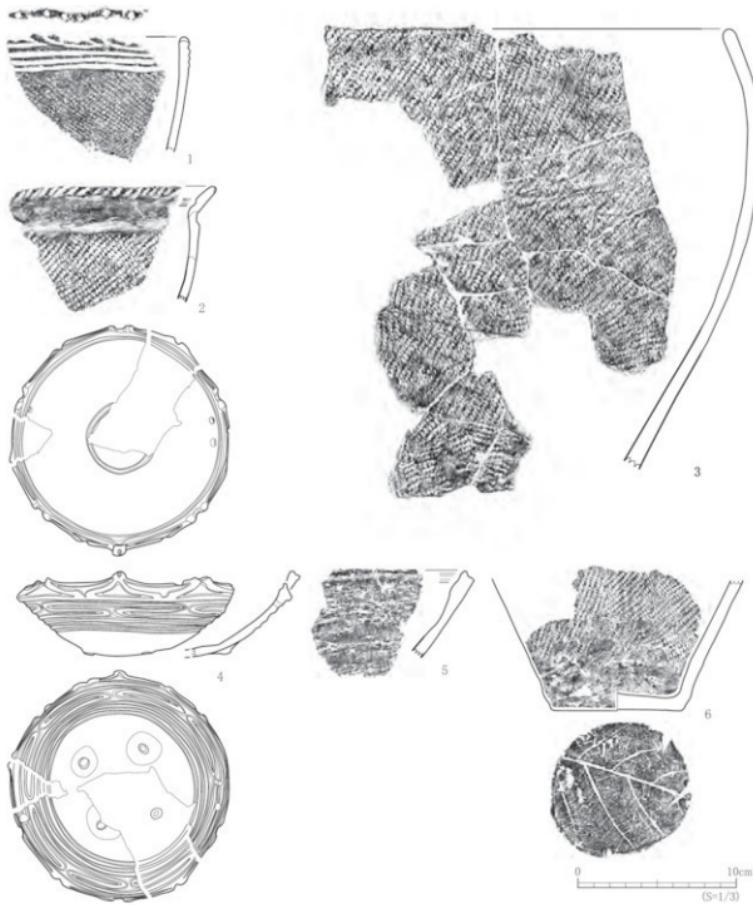


図	区名	遺構・層	器種	特徴	登錄	写真
1	A-20	Mc層	深鉢少	平縁(組みあり)。平行沈縁。LR, RL唇状突起	R146	28-11
2	A-20	Mc層	深鉢	平縁(組みあり)。LR彫文、胎土に礫石多い	R142	28-12
3	A-20	Mc層	深鉢	平縁、LR彫文、胎土に礫石多い	R150	29-1
4	A-20	Mc層	浅鉢(西脚付)	平縁(1cm、基部1cm、底部地足・大型足・小型足)。実際に連なる二枚物の發掘。丁子支口足(済蓋未完)、外周に素縁、粗筋2+直	R152	22-1
5	A-20	Mc層	深鉢	平縁、無文	R145	28-13
6	A-20	Ma層	深鉢	底径9.0cm、LR彫文、内外面に炭化物、底部木炭痕。胎土に礫石多い	R154	29-2

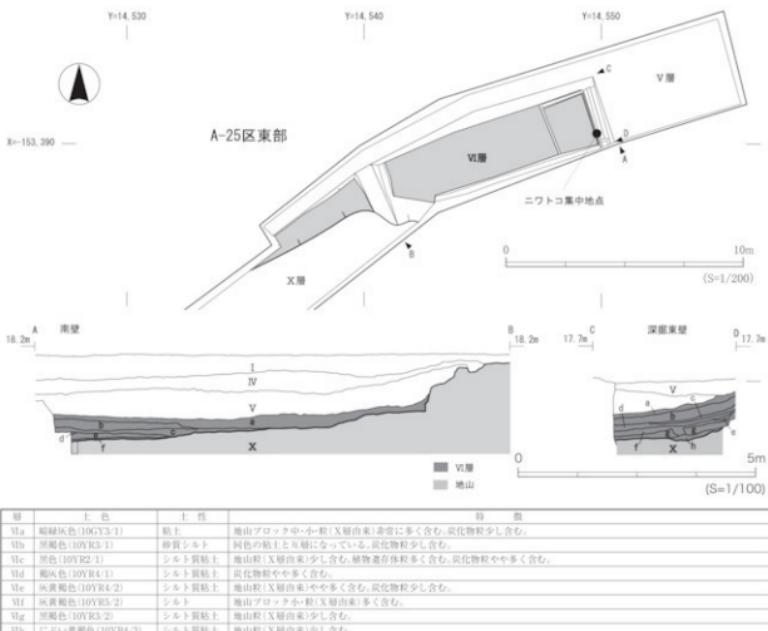
第11図 A-20区VI層出土土器

A-25区（平面・断面図：第12図・遺物：第13・14図、図版4・22・29・37・40・42）

【VI層】

〔遺物〕土器は深鉢・浅鉢・壺、土製品は土偶、石器は石錐・不定形石器・磨製石斧・磨石・石核・剥片、石製品は石刀がある。土器はg層の深鉢（第13図1）、c層の口縁部から体部に工字文がある浅鉢（第13図2・3）、内面に粘土積み上げ痕がある壺（図版29-10）、b層の深鉢（第13図4・5）・口縁部から体部に工字文がある浅鉢（第13図6～9）・壺（第13図10）・土偶の脚部（第13図11）、a層の口縁部から体部に工字文がある浅鉢（第13図12）、石器はb層の石錐（第14図1）・不定形石器（第14図2）・剥片（図版46-4）を示した。なお、動植物遺存体としてc層からニワトコなどの種実、b層からシカの桡骨が出土した。なお、c層の種実について、加工後にまとめて廃棄された可能性が指摘されている（古代の森研究室2008b）。

〔年代〕出土土器の時期から縄文時代晩期後葉と考えられる。



第12図 A-25区平面・断面図

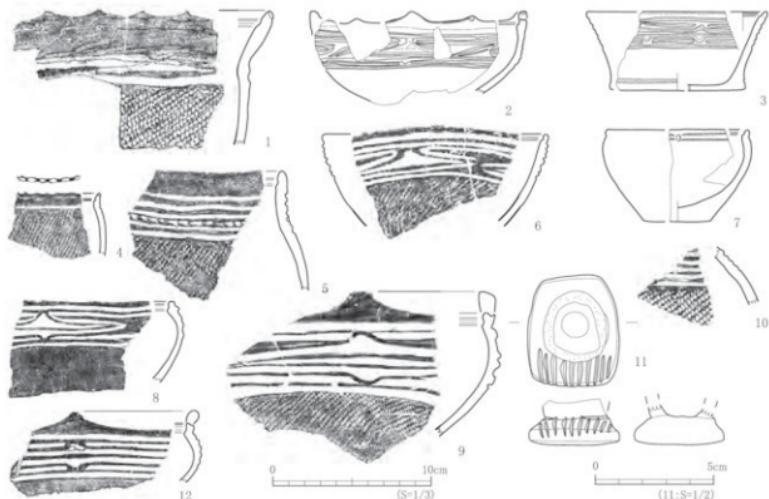


図	区名	遺物・型	器種	特徴	参考	登録	写真
1	A-25	Msb層	深鉢	小底深鉢、平行深鉢、工字縦文、船上に赤色粘合む	R102	29.8	
2	A-25	Msb層+b層	浅鉢	丁口14.0cm、山形突起、工字縦文、沈面表現、船上に骨片-赤色粘合む	R127	29.4	
3	A-25	Msb層+b層	浅鉢	丁口11.3cm、山形突起、工字縦文、沈面表現、船上に骨片-赤色粘合む	R087	22.2	
4	A-25	Vlb層	深鉢	小底深鉢、LR横文	R121	29.6	
5	A-25	Vlb層	浅鉢	平底、平行丸輪と垂直斜列、LR横文	R085	29.5	
6	A-25	Vlb層	浅鉢	丁口14.4cm、平底、工字縦文、沈面表現、LR横文	R136	29.8	
7	A-25	Vlb層	浅鉢	丁口18.8cm、底径4.4cm、船高9.5cm、平底、工字縦文(沈面表現と斜窓)	R113	22.3	
8	A-25	Vlb層	浅鉢	平底、工字縦文(沈面表現)	R132	29.9	
9	A-25	Vlb層	浅鉢	山形突起、LR横文→工字縦文、表面に赤漆	R105	29.7	
10	A-25	Vlb層	壺	工字縦文、LR横文、外面に赤漆	R116	29.11	
11	A-25	Vlb層	土偶(脚部)	頭部を沈面の本で表現、脚部は中空	R114	37.1	
12	A-25	Msb層	浅鉢	山形突起、工字縦文、沈面表現	R00	29.12	

第13図 A-25区 VI層出土土器・土製品

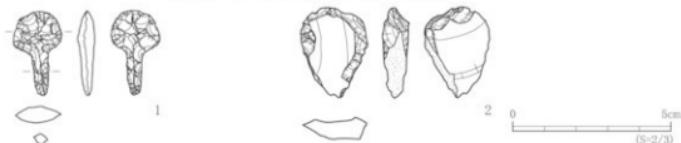


図	区名	遺物・型	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石材	備考	登録	写真
1	A-25	Vlb層	石鏃	26.2	15.1	5.7	1.3	珪質頁岩		石16	40.13
2	A-25	Vlb層	不定形石器	29.0	21.0	8.0	4.0	黑曜石		石35	42.4

第14図 A-25区 VI層出土石器

A-28区（平面・断面図：第15図・遺物：第16・17図、図版5・22・29・37・40・43・44）

#### 【VI層】

〔遺物〕土器は深鉢・浅鉢・壺、土製品は土偶、石器は石鏃・尖頭器・石鎧・不定形石器・磨石・石皿・剥片がある。土器はb層の深鉢（第16図1）、a層の深鉢（第16図2）・口縁部に入組文がある深鉢（第

16図6)・口縁部に工字文がある浅鉢(第16図3)・浅鉢(第16図4)・壺(第16図5)、口縁部に穿孔がある壺(図版29-20)、土偶(第16図7)、石器はa層の尖頭器(第17図1)・不定形石器(第17図2)・磨石(第17図3・4)を図示した。

〔年代〕出土土器の時期から縄文時代晚期後葉と考えられる。

【SX1焼面】(平面図:第15図、図版5)

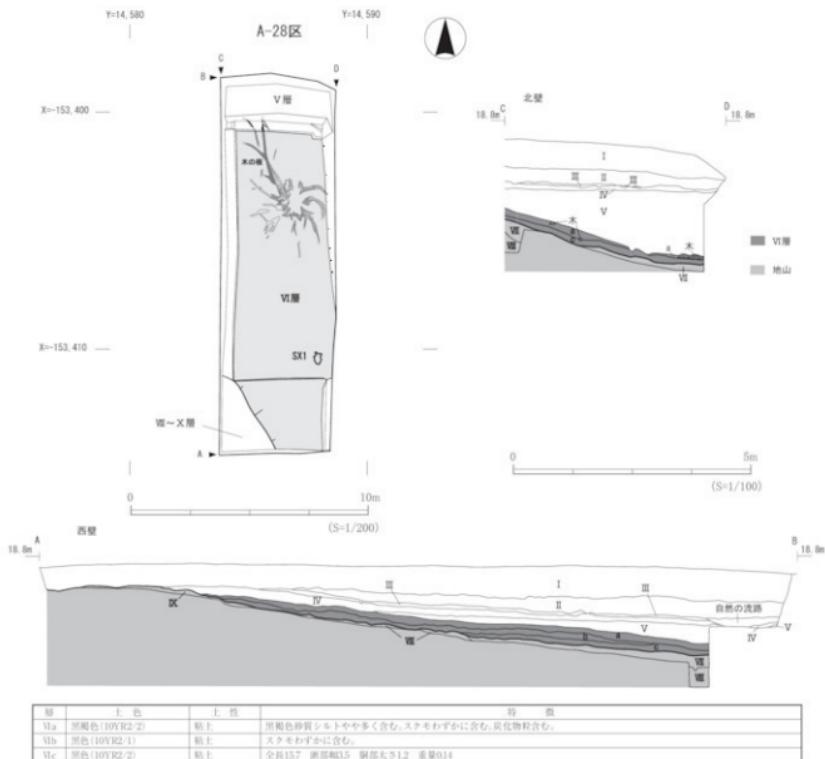
〔位置・検出面〕調査区南部のVIa層上面で検出した。

〔規模・平面形〕東西約0.3m、南北約0.5mの不整円形である。

〔遺物〕なし。

〔年代〕不明確だが、IV層に覆われることや堆積土の特徴から縄文時代晚期後葉とみられる。

【樹木】(平面図:第15図、図版5)



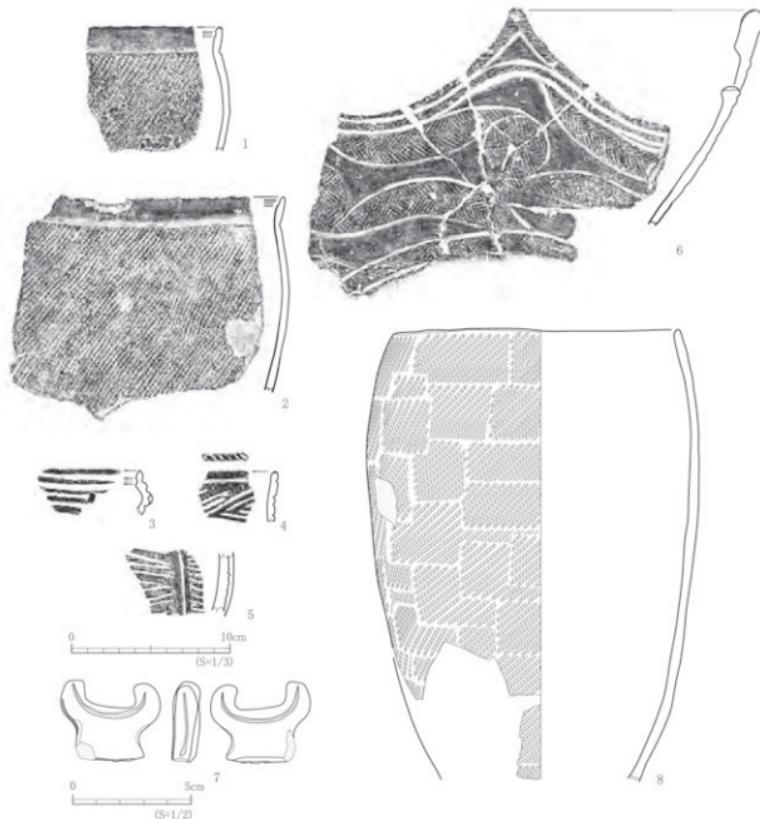
第15図 A-28区平面・断面図

〔位置・検出面〕 調査区北部のVIa層上面で、株とそこから放射状に広がる根のほぼ全体を検出した。

〔規模〕 株の径0.7m、根の長さは1.2~3mである。

〔樹種〕 オニグルミである（古代の森研究会2008b）。

〔年代〕 V層に覆われるので縄文時代晚期後葉とみられる。



ID	区名	遺構・層	器種	特徴	登録	写真
1	A-28	Ubb層	深鉢	小浅狀縁、LJR縁文、外面に灰化物、胎土に骨粉含む	R463	29.14
2	A-28	Vla層	深鉢	小浅狀縁、LR縁文、内面擦耗済	R50	29.15
3	A-28	Vla層	浅鉢	工字文（沈継出現と軸上貼付）	R58	29.17
4	A-28	Vla層	浅鉢小	平縁（削みあり）、網目文	R54	29.18
5	A-28	Vla層	壺小	網状縁帯と横引き縁	R48	29.19
6	A-28	Vla層	深鉢	波状縁、口沿は肥厚し、内側ぎ状、口縁部に網文帶、沈継による入縁文→LRRLR波状縁文	R59	29.16
7	A-28	Vla層	土偶（頭部）	角状の突起、表・裏・側面に沈継と赤漆	R62	37.5
8	A-28	Ulb	深鉢	口沿（18.0cm）、平縁、LR縁文	R140	22.4

第16図 A-28区VI層出土土器・土製品

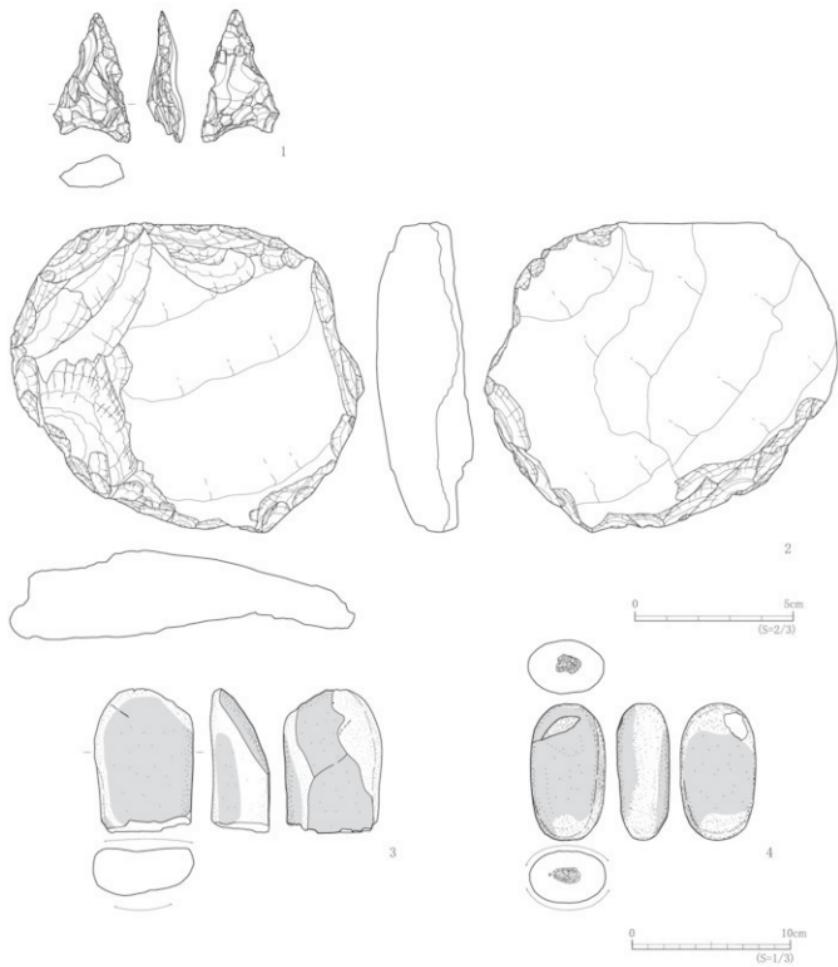


図	区名	遺構・層	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石材	備考	登録	写真
1	A-28	VIa層	尖頭器	40.5	24.0	11.1	(6.0)	珪質凝灰岩	逆剥部欠 大型の石礫か	石14	40-9
2	A-28	VI層	不定形石器	98.0	112.0	28.0	328.3	粘板岩		石82	43-1
3	A-28	VIa層	碧石	(91.0)	73.0	34.5	(294.3)	安山岩	破片	石81	44-2
4	A-28	VIa層	碧石	123.0	71.5	49.5	798.0	安山岩		石80	43-5

第17図 A-28区 VI層出土石器

A-29区（平面図：第18図、遺物：第19・20図、図版6・7・22・23・30・38・40・42～44・46）

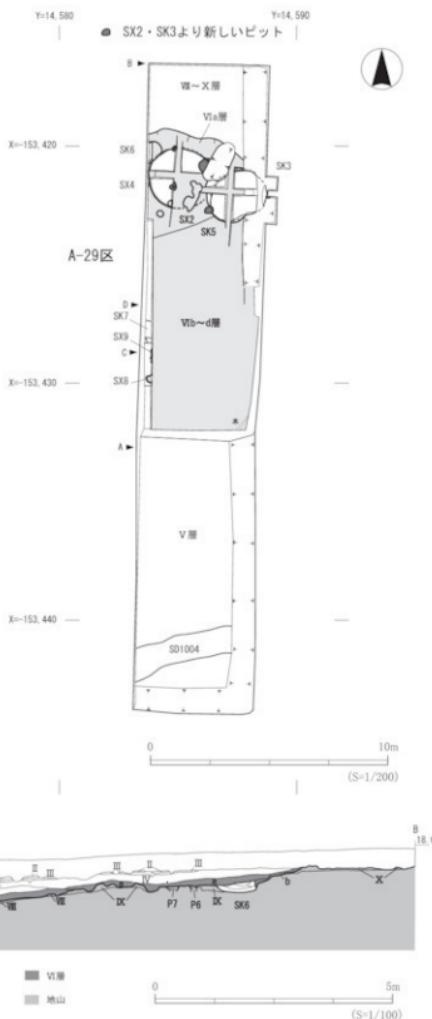
#### 【VI層】

〔遺物〕 a層とb層が比較的多い。土器は深鉢・浅鉢・壺、不明土製品、石器は石錐・石錐・不定形石器・石皿・磨石・剥片・石製品は石棒・石刀がある。土器はc層の浅鉢（第19図1）、工字文がある浅鉢（第19図2）、b層の深鉢（第19図3・4）、浅鉢（第19図5）、①層の浅鉢の突起（第19図7）・壺（第19図6）、VI層の土製品（第19図9）、石器はc層の石皿（図版44～12）・石刀（図版46～2）がある。他に石錐（第20図1）・石錐（第20図2）・不定形石器（第20図3）、石製品はc層の石刀（図版46～2）がある。他に石棒（図版46～1・3）を示した。

〔年代〕 出出土器の時期から縄文時代晚期後葉と考えられる。

【SK3土坑】（平面図・断面図：第21図、遺物：第22図、図版7～1・3）

〔位置・検出面〕 調査区北部のVib層上面で検出した。



第18図 A-29区遺構配置図・断面図

層	上色	上性	下色	下性
Vla	黒褐色(10YR2-2)	シルト	白色(10YR4-2)	白色シルト(10YR4-2)多く含む、炭化物種・焼土わずかに含む。
Vlb	黒色(10YR2-1)	粘土質シルト	地山(10YR4-1)	地山(10YR4-1)多く含む、炭化物種をわずかに含む。
Vlc	黒色(10YR2-1)	粘土質シルト	地山(10YR4-1)	地山(10YR4-1)を少し含む。
Vld	黒色(10YR2-1)	粘土		

〔重複関係〕 SX4と北西部で重複しこれより新しい。また、SK5と南西部で重複しこれより古い。

〔平面・断面形〕 平面形は不整円形で、断面形は逆台形状である。底面がややオーバーハングする。

〔規模〕 南北約2.2m、東西約2.4m。深さ約0.6m。

〔堆積土の状況〕 1～14層に細別できるが、上層の人为堆積土（1～9層）と下層の自然堆積土（10～14層）の大きく2層にまとめられる。上層はX層由来の地山ブロックを多く含むにぶい黄褐色シルト層・灰黄褐色粘土質シルト層、下層は黒色粘土層・黄褐色層である。

〔遺物〕 土器は深鉢・壺、石器は不定形石器・磨石・剥片がある。土器は底面の深鉢（第22図1）、瘤状の小突起がある深鉢（第22図2）、石器は下層の磨石（第22図3）、上層の不定形石器（第22図4）を図示した。

〔年代〕 1層上に堆積するVIa層やさらにその上に堆積する縄文時代晚期後葉のVI(1)層に覆われ、これらより古い。またSK5より古く、縄文時代晚期後葉のSX4より新しい。縄文時代晚期後葉と考えられる。

【SK5土坑】（平面図：第21図、遺物：第23図、写真7－5）

〔位置・検出面〕 調査区北部のIX層上面で検出した。

〔重複関係〕 SK3と北部で重複し、これよりも古い。

〔平面・断面形〕 平面形は円形で、断面形は皿形である。

〔規模〕 短径約0.3m、長径約0.3m、深さ約0.3m。

〔堆積土の状況〕 黒褐色粘土と地山ブロックとともに遺物がまとめて廃棄されていた人为堆積土である。

〔遺物〕 土器は深鉢・壺がある。土器は堆積土の深鉢（第23図2）・壺（第23図1）を図示した。

〔年代〕 縄文時代晚期後葉のSK3より新しい。VIa層に1層が覆われるので、これより古い。出土遺物からも縄文時代晚期後葉と考えられる。

【SK6土坑】（平面図・断面図：第21図）

〔位置・検出面〕 調査区北部のVIb層上面で検出した。

〔重複関係〕 SX4と南部で重複し、これよりも古い。

〔平面・断面形〕 平面形は円形とみられる。断面形は皿形である。

〔規模〕 東西約0.6m以上、南北約0.7m、深さ約0.2m。

〔堆積土の状況〕 4層に細別できるが、すべて自然堆積層である。

〔遺物〕 なし。

〔年代〕 VIb層の年代や、縄文時代晚期後葉のSX4より古いことから縄文時代晚期後葉と考えられる。

【SK7土坑】（平面・断面図：第21図）

〔位置・検出面〕 調査区中央部のⅧ層上面で検出した。

〔平面・断面形〕 平面形は円形とみられる。断面形は皿形である。

〔規模〕 東西約0.3m以上、南北約0.8m、深さ0.3m以上。

〔堆積土の状況〕 2層に細別できるが、すべて自然堆積層である。

〔遺物〕なし。

〔年代〕1層上に堆積するVIc層の年代や堆積土の特徴から、縄文時代晚期後葉頃と考えられる。

【SX4 堆積状遺構】(平面・断面図：第21・24図、遺物：第25図、図版7-4)

〔位置・検出面〕調査区北部のIX層上面で検出した。

〔重複関係〕SK3と南東部で、ピットと北部・中央部で重複しこれより古い。またSK6と北西部で重複しこれよりも新しい。

〔平面・断面形〕平面形は不整円形で、断面形は皿形である。

〔規模〕南北約2.5m、東西2.3m以上、深さ約0.2m。

〔堆積土の状況〕4層に細別できるが、すべて自然堆積層である。

〔遺物〕土器は深鉢・浅鉢・壺、石器は石鏃・磨石+凹石・磨石・剥片がある。土器は底面の深鉢（第25図1）、浅鉢（第25図2）・壺、堆積土の深鉢、石器は堆積土の磨石+凹石（第25図4）、遺構確認面の石鏃（第25図3）・磨石（第25図5）を図示した。

〔年代〕縄文時代晚期後葉のSK3より古く、縄文時代晚期後葉のSK6より新しい。縄文時代晚期後葉と考えられる。

【SX2焼面】(平面図：第21図)

〔位置・検出面〕調査区北部のVIa層上面で検出した。

〔重複関係〕SX4と南部で重複しこれよりも新しい。

〔平面形〕不整形である。

〔規模〕東西約0.2m以上、南北約1.2m。

〔遺物〕深鉢片がある。

〔年代〕縄文時代晚期後葉のSX4より新しい。不明確だがIV層に覆われることや堆積土の特徴から縄文時代晚期後葉とみられる。

【SX8焼面】(平面図：第18図)

〔位置・検出面〕調査区中央部のVId層上面で検出した。

〔平面形〕楕円形か円形になるとみられる。

〔規模〕東西約0.2m以上、南北約0.3m。

〔遺物〕なし。

〔年代〕VId層とVIc層の年代から、縄文時代晚期後葉とみられる。

【SX9焼面】(平面図：第18図)

〔位置・検出面〕調査区中央部のVId層上面で検出した。

〔平面形〕楕円形か円形になるとみられる。

〔規模〕東西0.4m以上、南北0.4m以上。

〔遺物〕なし。

〔年代〕VId層とVIc層の年代から、縄文時代晚期後葉とみられる。

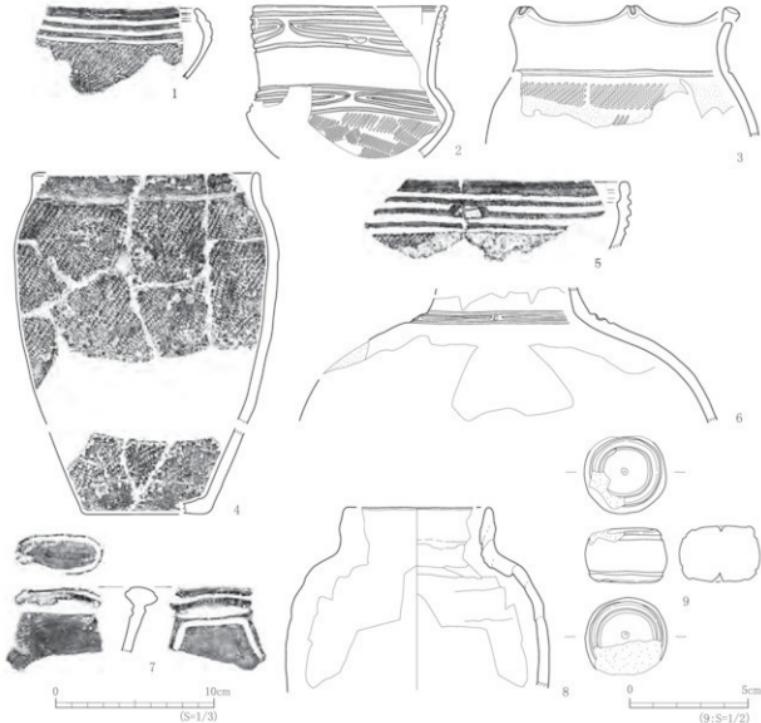


図	区名	遺構・層	器種	特徴	登録	写真
1	A-29	Mc層	浅鉢	平縁、LR彌文→平行波綻	R26	30-2
2	A-29	Mc層	浅鉢	平縁、丁字文(波綻表記)、LR彌文、植物花2ヶ所	R24	30-1
3	A-29	Vb層	深鉢	DHF12.6cm、内部突起部半円、浅縁、LR彌文、内面に炭化物	R139	23-1
4	A-29	Vb層	深鉢	平縁、D径14.2cm、底径10.0cm、器高21.5cm、LR彌文、外面削耗跡有	R18	22-5
5	A-29	Vb層	浅鉢	平縁、丁字文(波綻表記)、LR彌文→波綻、外縁に赤鉛	R20	30-3
6	A-29	VI層	壺	丁字文(波綻表記)、壁上に赤鉛含む	R3	23-2
7	A-29	VI層	浅鉢小	円形突起	R2	30-4
8	A-29	VI層	壺	DHF9.0cm、表面裏り出し、質面上に波綻、中央に両側から貫通しない孔を2つ	R39	30-5
9	A-29	VI層	不明土製品	DHF23.5cm、表面裏り出し、質面上に波綻、	R198	38-3

第19図 A-29区 VI層出土土器・土製品

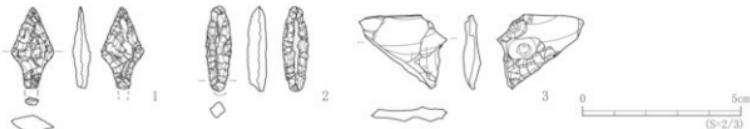
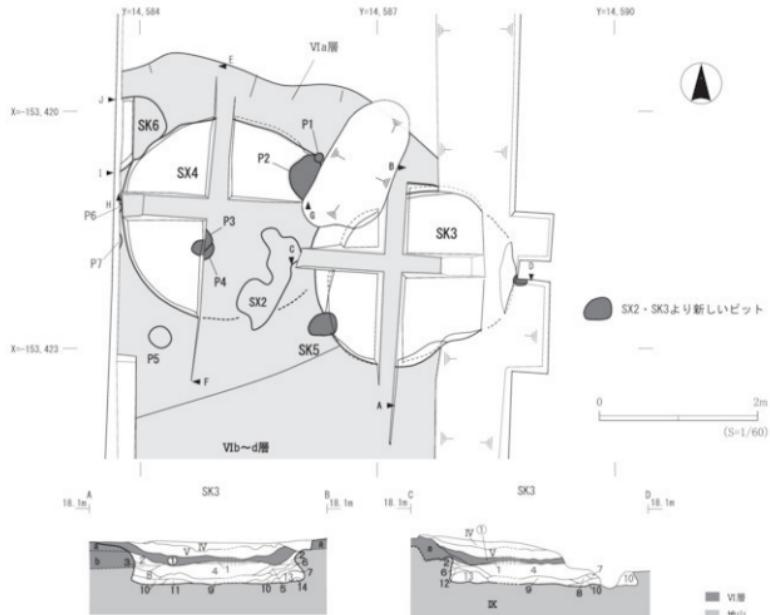
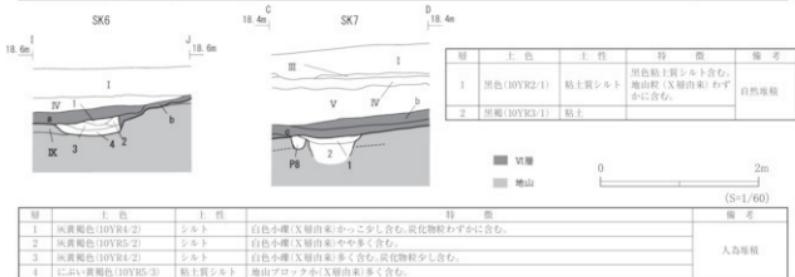


図	区名	遺構・層	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石材	備考	登録	写真
1	A-29	VI層	石器	(25.4)	13.5	5.3	(1.1)	珪質凝灰岩	基部欠	石4	40-4
2	A-29	VI層	石器	26.5	8.0	5.7	1.2	黑色頁岩		617	40-14
3	A-29	VI層	不定形石器	24.0	24.0	5.0	2.1	黑色頁岩	受熱	637	42-7

第20図 A-29区 VI層出土石器



層	上. 色	土. 性	特. 徴	備考
1	にい・黄褐色(10YR4/3)	シルト	地山層(X層由来)わずかに含む。	
2	にい・黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物粒含む。	
3	褐色色(10YR3/3)	シルト	地山層(X層由来)多く含む。	
4	灰黄褐色(10YR5/2)	粘土質シルト	地山層(X層由来)多く含む。	
5	褐色色(10YR3/3)	粘土質シルト	地山層(X層由来)少しある。炭化物粒わずかに含む。	
6	黒褐色(10YR2/2)	シルト	地山層(X層由来)や多く含む。地山ブロック小(X層由来)わずかに含む。	
7	黒褐色(10YR2/2)	シルト	地山層(X層由来)-地山ブロック小(X層由来)多く含む。	
8	灰黄褐色(10YR5/2)	粘土質シルト	地山ブロック小(X層由来)多く含む。	
9	灰褐色色(10YR5/2)	粘土質シルト	地山ブロック中-小(X層由来)多く含む。砂わざかに含む。	
10	黒色(10YR2/1)	粘土		
11	白色(10YR2/1)	粘土	地山ブロック中-小(X層由来)多く含む。	
12	灰黄褐色(10YR5/2)	シルト	地山ブロック小-粒(X層由来)多く含む。黒褐色シルトわずかに含む。	
13	にい・黄褐色(10YR6/3)	粘土	砂わざかに含む。	
14	褐色色(10YR6/3)	砂		



第21図 SK 3・6 平面・断面図・SK 7断面図

図	区名	遺構・層	器種	特徴				登録	写真
1	A-29	SK3H前	深鉢	平縁(削みあり), LR波文				R5	36-3
2	A-29	SK3 10号	深鉢	平縁, 沈縁上斜土貼付				R4	36-2

図	区名	遺構・層	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	材質	備考	登録	写真
3	A-29	SK3 11号	磨石	68.0	44.0	33.0	1140	麻灰岩		699	43-3
4	A-29	SK3 2号	4次形石器	63.0	36.0	12.0	85	粘質頁岩	石器未削出か	631	41-13

第22図 SK 3 出土器・石器

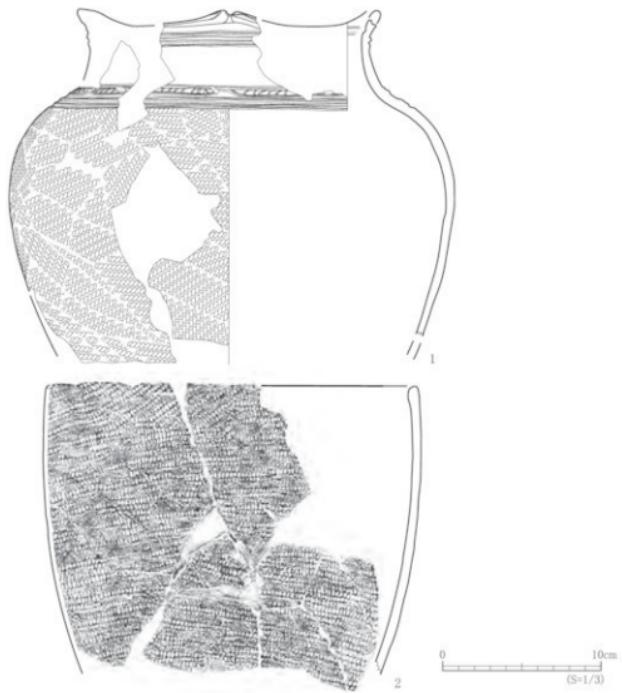
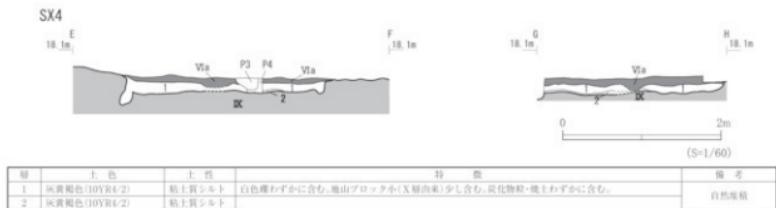


図	区名	遺構・層	器種	特徴				登録	写真
1	A-29	SK5H前上	壺	口径(19.2cm), 山形突起6単位, LR波文→U字文2単位(隠面表現+連續剥片)				R138	35-2
2	A-29	SK5H前上	深鉢	口径(23.4cm), 平縁, 波文表記+R付加条				R137	36-5

第23図 SK 5 出土土器



第24図 SX4断面図

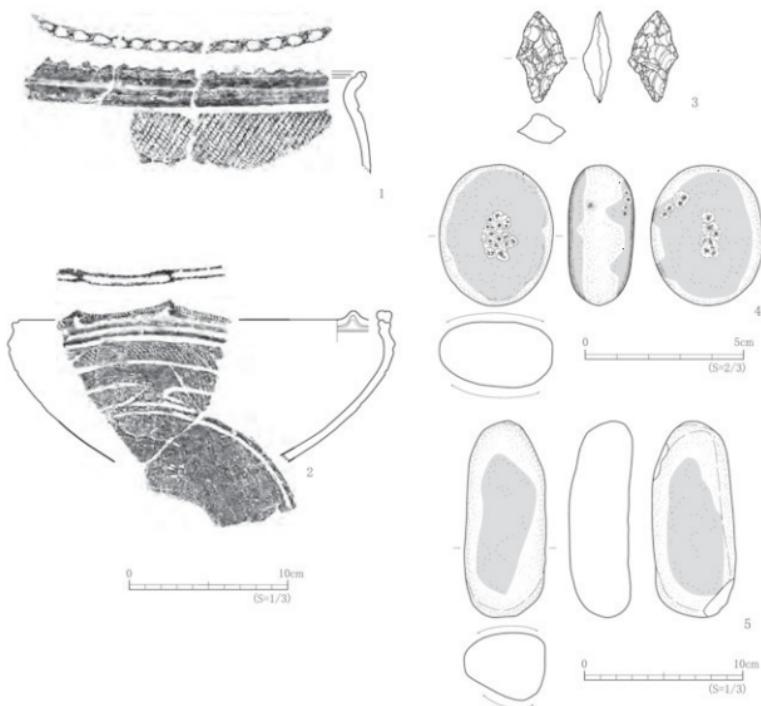


図	区名	遺構・層	器種	特徴	登録	写真
1	A-29	SX408.0mPa1	深鉢	小底状縁、浅縁→LR縁文	R13	36-4
2	A-29	SX408.0mPa2	浅鉢	口H(24.0cm)、山形突起(網みあり)、茎斜文、RL縁文、胎土に赤色を含む、無孔器者	R10	35-1
3	A-29	SX4遺構確認面	石盤		R3	40-6
4	A-29	SX4 1層	碧石・斑石	99.0 71.0 43.0 407.6 宝山岩	R86	43-4
5	A-29	SX4遺構確認面	碧石	124.0 51.0 41.0 402.4 宝山岩	R106	43-9

第25図 SX4出土土器・石器

A-34区（平面・断面図：第26図・遺物：第27図、図版8・23・30）

【VI層】

〔遺物〕 土器は深鉢・浅鉢、石器は磨石がある。深鉢（第27図1・2）・浅鉢（第27図5）・口縁部に工字文がある浅鉢（第27図3・4・6）を図示した。

〔年代〕 出土土器の時期から縄文時代晚期後葉と考えられる。

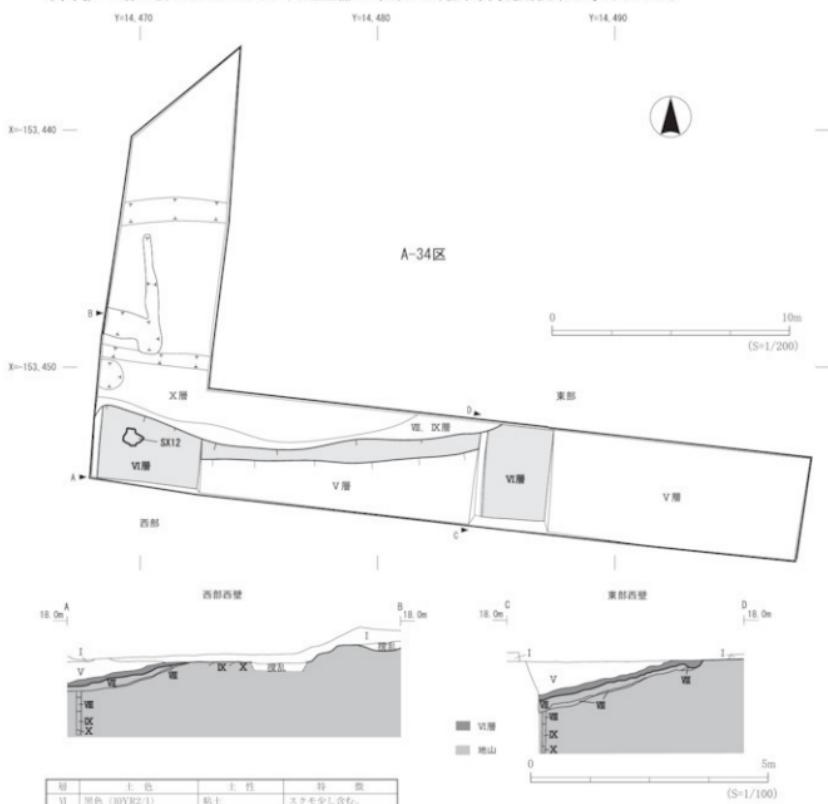
【SX12焼面】（平面図：第26図）

〔位置・検出面〕 調査区西部のVI層上面で検出した。

〔平面形・規模〕 東西0.9m、南北0.7mの不整円形である。

〔遺物〕 深鉢片がある。

〔年代〕 V層に覆われることや、出土土器の時期から縄文時代晚期後葉と考えられる。



第26図 A-34区平面・断面図

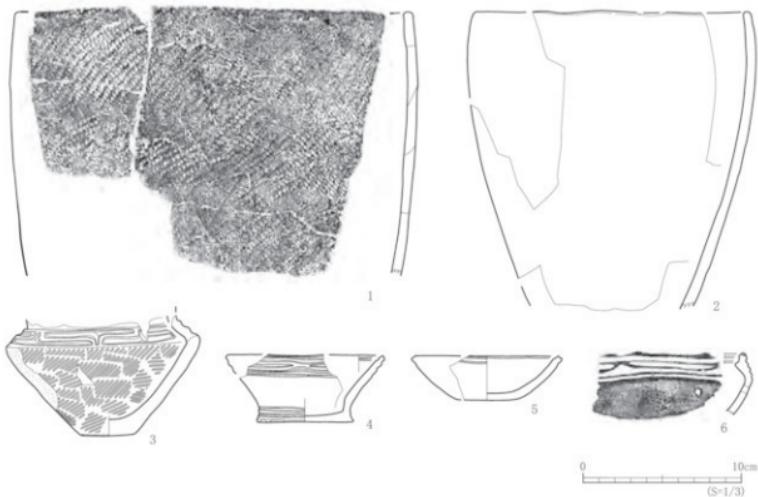


図	区名	遺構・層	器種	特徴	登録	写真
1	A-34区	VIII + IX層	深鉢	口径24.8cm、平縁、LR網文	R72	307
2	A-34区	IX層	深鉢	口径17.4cm、平縁、無文	R79	233
3	A-34区	IX層	浅鉢	底径3.4cm、丁字X6枚足(背面表現)、LR網文	R75	234
4	A-34区	IX層	浅鉢	口径10.0cm、底径6.2cm、器高4.2cm、平縁、工字文(背面表現)、平行沈縫	R69	235
5	A-34区	IX層	浅鉢	口径9.4cm、底径4.2cm、器高3.8cm、平縁か、沈縫	R74	236
6	A-34区	IX層	山形突起(文字・背面表現)、越修正記	ト所	R70	306

第27図 A-34区 VI層出土土器

## (2) B区

遺構にはB-10区東部で検出された土坑2基(SK10・11)がある。

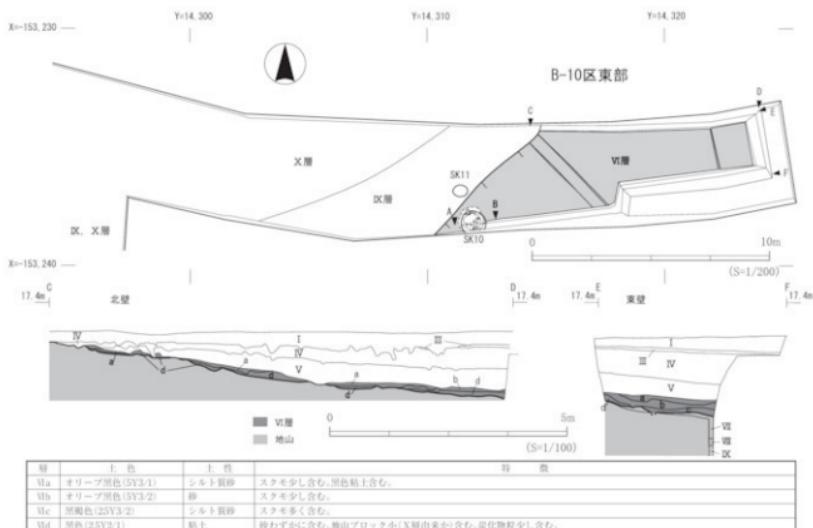
B-10区 (平面・断面図: 第28・29図、遺物: 第30~37図、図版10・23・24・30・31・35~42・44~46)

### 【VI層】

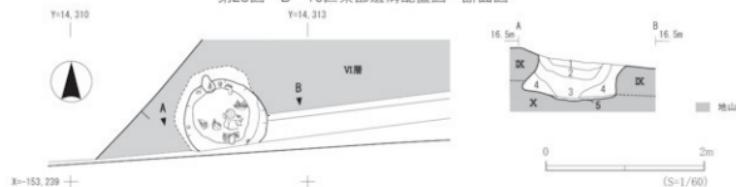
〔遺物〕 東部のa層とb層が比較的多い。土器は深鉢・浅鉢・壺・漆容器、土製品は土偶・土棒・円盤・ミニチュア土器・粘土紐、石器は石礫・尖頭器・石匙・楔形石器・不定形石器・打製石斧・石皿・凹石・磨石・石核・剥片がある。土器はd層の深鉢(第30図1)・口縁部に工字文がある浅鉢(第30図2)・壺(第30図3・4)・漆容器(第30図5)、c層の口縁部に工字文がある浅鉢(第30図6)・壺(第30図7)、b層の深鉢(第30図8~11・第31図1~3)・口縁部に工字文がある深鉢(第30図12)・浅鉢(第31図10・図版30~23)・口縁部に工字文がある浅鉢(第31図4~6)・台部に工字文がある浅鉢(第31図9)・壺(第31図7)・漆容器(第31図8・図版39~1~6)、a層の胎土に纖維を多く含む深鉢(第32図1)・深鉢(第32図2~5)・浅鉢(第32図6)・口縁部に工字文がある深鉢(第32図7・8・第33図1・2)・漆容器(写真39~7・8・10~12)、土製品はb層の土偶(第31図11)・ミニチュア(図版38~7・8)・焼けた粘土紐(図版38~12・13)・不明土製品(第31図12)、a層の土偶(第33図4)・円盤(第33図3)・

焼けた粘土縄（図版38-11）・不明土製品（図版38-14・15）がある。他にミニチュア土器（第33図5）がある。石器はd層の楔形石器（第34図5）、c層の凹石（図版44-9）、b層の尖頭器（第34図2）・楔形石器（第34図3）・不定形石器（第34図6・7・9）・打製石斧（第35図1）・凹石（第35図3・4）、剥片（図版46-5・6）、a層の石鏃（第34図1）・楔形石器（第34図3）・不定形石器（第34図8・10、図版42-5）・石皿（第35図5・6、図版45-1）がある。他に不定形石器（図版42-6）を示した。

〔年代〕出土土器の時期から縄文時代晩期後葉と考えられる。



第28図 B-10区東部遺構配置図・断面図



層	上色	下性	特徴	備考
1	黒褐色(2SY3/1)	シルト質粘土	植物遺存体少し含む。	自然堆積
2	黒褐色(2SY3/1)	シルト質粘土	地山ブロック(X層由来)多く含む。植物遺存体少し含む。	自然堆積
3	黒(2SY2/1)	砂質シルト	灰骨含む。	人為堆積
4	褐色(10Y6/1)	粘土	地山ブロック大(X層由来)・黒色粘土ブロック中非常に多く含む。地山崩落。	自然堆積
5	黒色(2SY2/1)	シルト質粘土	炭化物種・燒土粒非常に多く含む。	人為堆積

第29図 SK10平面・断面図



図	区名	遺構・層	器種	特徴	登録	写真
1	B-10東	Vld層	深鉢	平縁、沈縁、LR調文	R431	36-9
2	B-10東	Vld層	浅鉢	山形突起、丁字文(鋸齒表現)、LR調文、外面に赤漆	R439	30-9
3	B-10東	Vld層	壺	直径5.3cm、LR調文、門型の柱窓あり	R442	23-7
4	B-10東	Vld層 + b層	壺	山形突起、ハリ字状文と平行洗継、内外面に赤漆、胎土に赤色粒含む	R484	30-10
5	B-10東	Vld層	漆容器	直径4.0cm、LR調文、内部に黒漆	R440	23-8
6	B-10東	Vlc層 + b層	浅鉢	平縁、丁字文(鋸齒表現)、外面に赤漆	R461	30-11
7	B-10東	Vlc層	壺	口径10.8cm、山形突起+小突起、小突起4つ、表面に連続する三角形状の隠縫	R426	30-12
8	B-10東	Vlb層 + a層	浅鉢	口径25.0cm)、小底付縁、沈縁、LR調文、内部に炭化物	R459	24-5
9	B-10東	Vlb層 + a層	深鉢	小底付縁、沈縁、LR+対角加条調文、内部に炭化物	R465	30-13
10	B-10東	Vlb層	深鉢	小底付縁、LR調文、内部に炭化物	R466	30-14
11	B-10東	Vlb層	深鉢	平縁(刷みあり)、沈縁、B無鉛調文	R437	30-16
12	B-10東	Vlb層	深鉢	山形突起、丁字文(鋸齒表現)、LR調文	R438	30-15

第30図 B-10区東部Vld,c,b層出土土器

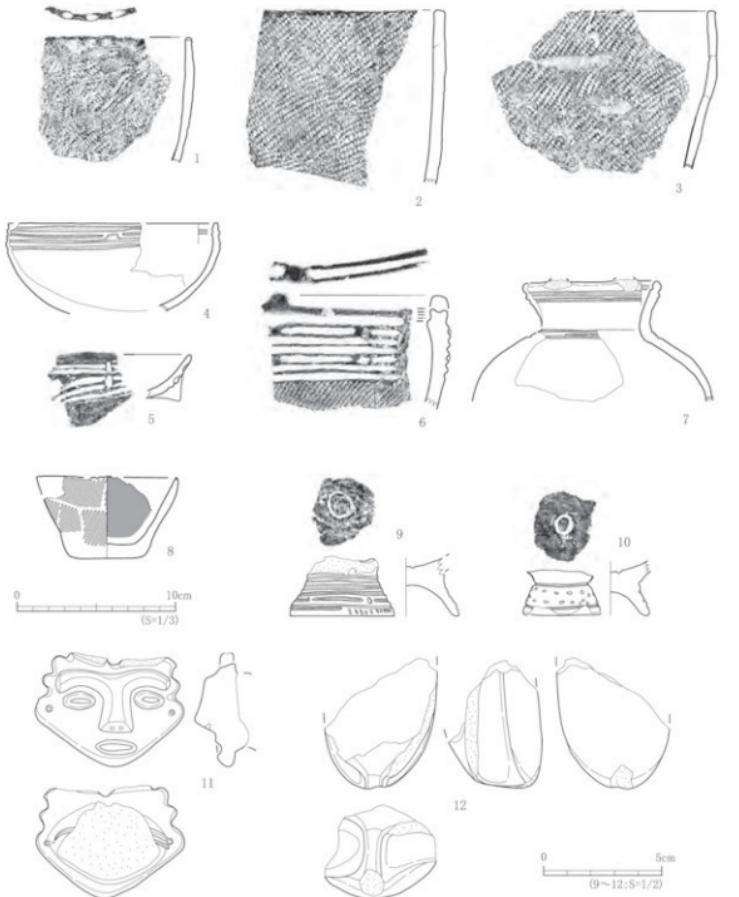


図	区名	遺構・層	器種	特徴	登録	写真
1	B-10東	Vib層	深鉢	平縁(刷毛あり), LR+R付加条調文?	RC63	30-17
2	B-10東	Vib層	深鉢	平縁, LR調文	RC57	30-19
3	B-10東	Vib層+a切	深鉢	平縁, LR調文	RC50	30-18
4	B-10東	Vib層+a切	浅鉢	口径(12.0cm), 平縁, 工字文(隕面表現), 外面に赤漆, 内面に炭化物	RC15	30-21
5	B-10東	Vib層	浅鉢(脚付)	平縁か, 工字文(隕面表現)と刻文	RC47	30-22
6	B-10東	Vib層	浅鉢	山形突起, 工字文2段(隕面表現), LR調文, 内外面に赤漆	RC77	30-20
7	B-10東	Vib層+a切	壺	口径(8.8cm), 山形突起か, 下行沈底, 脚付に骨針合む	RC28	24-4
8	B-10東	Vib層	漆容器	口径(8.8cm), 瓶径(4cm), 高さ(2.5cm, 平縁あり?), LR調文, 内外面に赤漆	RC99	24-1
9	B-10東	Vib層	浅鉢(台付)	口底径(4.6cm, 工字文5半径) (隕面表現と刻文, 台点), 内面に円形沈底, 脚付に骨針合む	RC42	24-2
10	B-10東	Vib層	浅鉢(台付)	口底径(3.6cm, 沈底と連続斜尖, 内面に円形沈底, 脚付に骨針合む)	RC44	24-3
11	B-10東	Vib層	土偶(頭部)	高6.3cm, 幅(3cm, 帯・眉・鼻・耳付け), 口(隕面表現), 頭面に貫通孔(耳孔), 頭面は複合模で塑造	RC49	37-4
12	B-10東	Vib層	不明土製品	厚4.0cm, 褐色あり, 脊上に鱗石多い	RC10	38-1

第31図 B-10区東部 Vib層出土土器・土製品

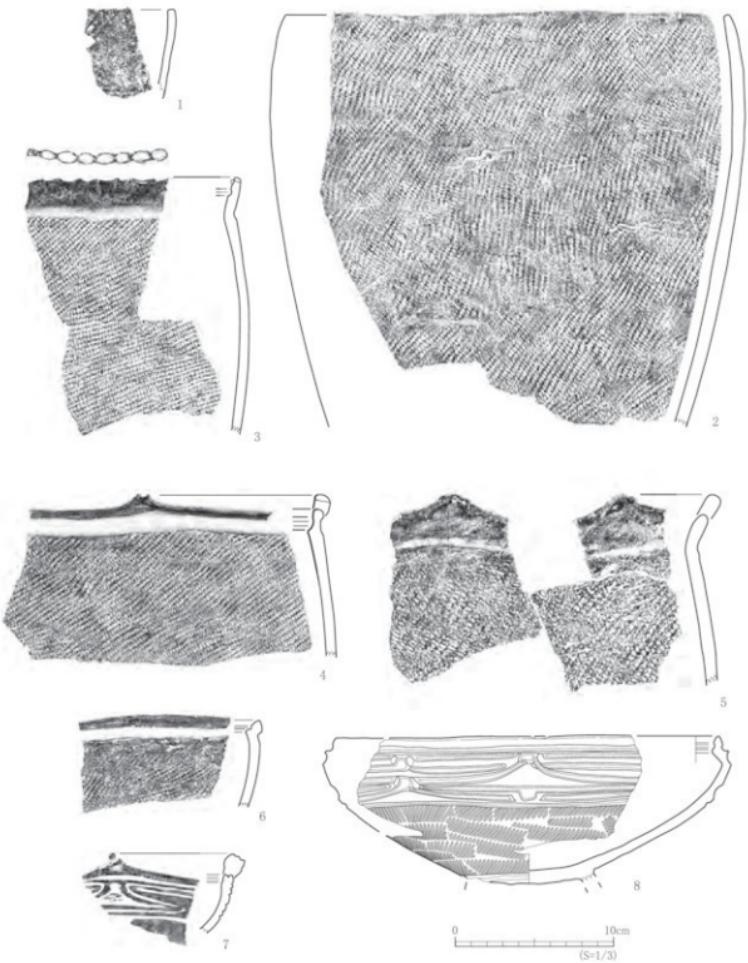


図	区名	遺構・層	器種	特徴	登録	写真
1	B-10東	Vla層	深鉢	平縁少、LR網文、胎土に礫岩を含む	R304	31.7
2	B-10東	Vla層	深鉢	口付(28.0cm)、平縁、LR網文(末端に筋目あり)、外面に炭化物、胎土に鮮石多い	R287	31.1
3	B-10東	Vla層	深鉢	小底状縁、LR網文、外面に炭化物	R288	31.4
4	B-10東	Vla層	深鉢	山形突起、LR網文→沈縁、胎土に骨針含む	R289	31.2
5	B-10東	Vla層	深鉢	山形突起、沈縁、LR網文	R308	31.3
6	B-10東	Vla層	深鉢	平縁、沈縁、LR網文、外面に赤漆	R286	31.5
7	B-10東	Vla層	浅鉢	山形突起、丁字文(隠微表現)、外面に赤漆	R293	31.6
8	B-10東	Vla層	浅鉢(台付)	口付(24.3cm)、平縁、LR網文→変形丁字文(隠微表現)、内外面に赤漆	R422	24.6

第32図 B-10区東部Vla層出土土器 (1)

【SK10】(平面・断面図: 第29図・遺物: 第35~37図、図版10-4・35・36)

〔位置・検出面〕東部のⅤ層上面で検出した。Ⅵa層に覆われる。

〔平面・断面形〕平面形は円形で、断面形は逆台形状である。底面付近がややオーバーハングする。その形状から、本来は貯蔵穴であったとみられる。

〔規模〕南北約1.3m以上、東西約1.2m、深さ約0.6m。

〔堆積土の状況〕5層に細分できる。5層は貯蔵穴が機能していた時の人为堆積土、4層は貯蔵穴の壁が崩落した自然堆積土、3層は多くの遺物がまとめて廃棄された人为堆積土、2・1層は自然堆積土である。

〔遺物〕土器は深鉢・浅鉢・壺・石器は石鏡・剥片がある。土器は5層の深鉢(第36図1・2)、3層の深鉢(第36図3)・浅鉢(第36図4・5、第37図1)・壺(第37図2・3)、1層の工字文がある浅鉢(第37図4)がある。他に深鉢(図版36-10)・浅鉢(第37図5・6)がある。石器は3層の石鏡(第35図2)を示した。なお、動植物遺存体として3層からイノシシの軸椎と焼けたシカの椎骨が出土した。

〔年代〕縄文時代晚期後葉のⅥa層に覆われることや、出土土器の時期から縄文時代晚期後葉と考えられる。

【SK11】(平面図: 第28図)

〔位置・検出面〕東部のⅤ層上面で検出した。

〔重複関係〕なし

〔規模・平面形〕東西約0.6m、南北約0.5mの楕円形である。

〔堆積土の特徴〕黒色粘土が自然堆積している。

〔遺物〕なし

〔年代〕V層に覆われることや堆積土の特徴から縄文時代晚期後葉とみられる。

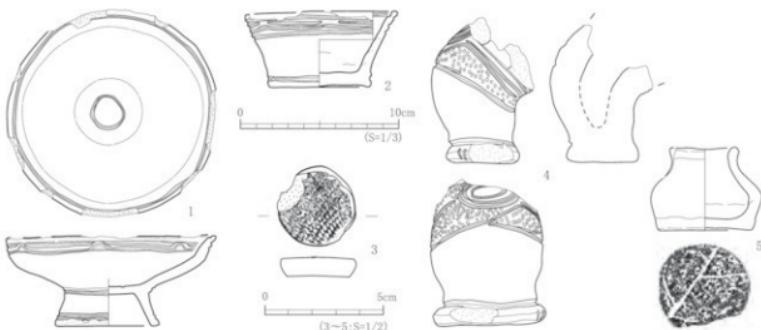


図	区名	遺物・層	器種	特徴	登録	写真
1	B-10東	Ⅵa層	浅鉢(台付)	D13cm, 高6cm, 壁高5cm, 平底, 工字文(済美文), 子口沿, 内面に円形孔, 外面に剥離, 口縁・台部の剥離跡	H292	24.7
2	B-10東	Ⅵa層	浅鉢	D11.5cm, 高5.5cm, 壁高4.8cm, 平底, 工字文(済美文), 内面に剥離	H301	24.8
3	B-10東	Ⅵa層	上質円盤	D3.3cm, 厚さ0.6cm, 工字文	H332	38.11
4	B-10東	Ⅵa層	上質(脚部)	D4.7cm, 高1.1cm, 表面による剥離, 脚部に沈痕(小溝付), 脚部中央, 脚部との境に剥離	H307	37.3
5	B-10東	Ⅵa層	ミニチュア	D2.9cm, 高0.9cm, 壁厚3mm, 平底, 外面に剥離, 底部木葉痕	H436	38.5

第33図 B-10区東部Ⅵa層出土土器 (2)・土製品



図	区名	遺構・層	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石材	備考	登録	写真
1	B-10東	Vla層	石鏃	19.9	11.6	3.7	1.4	珪質隕石岩		67	40.5
2	B-10東	Vlb層	尖頭器	(24.0)	21.8	8.7	(32)	珪質頁岩	尖頭部欠 アスファルトか	619	40.11
3	B-10東	Vla層	楔形石器	24.5	26.0	4.5	42	珪質頁岩		644	41.8
4	B-10東	Vlb層	楔形石器	45.0	38.5	18.0	304	珪質頁岩		645	41.4
5	B-10東	Vld層	楔形石器	40.0	24.5	9.5	99	珪質隕石岩		648	41.11
6	B-10東	Vlb層	不定形石器	66.0	23.0	13.5	61	珪質頁岩		640	42.2
7	B-10東	Vlb層	不定形石器	50.0	21.0	7.0	86	珪質頁岩		632	41.14
8	B-10東	Vla層	不定形石器	37.5	22.0	9.0	70	珪質頁岩		629	42.3
9	B-10東	Vlb層	不定形石器	69.0	49.0	12.0	416	頁岩	右端未削品か	633	41.16
10	B-10東	Vla層	不定形石器	61.0	42.0	18.0	377	矽灰岩		6244	42.1

第34図 B-10区東部VI層出土石器・石製品(1)

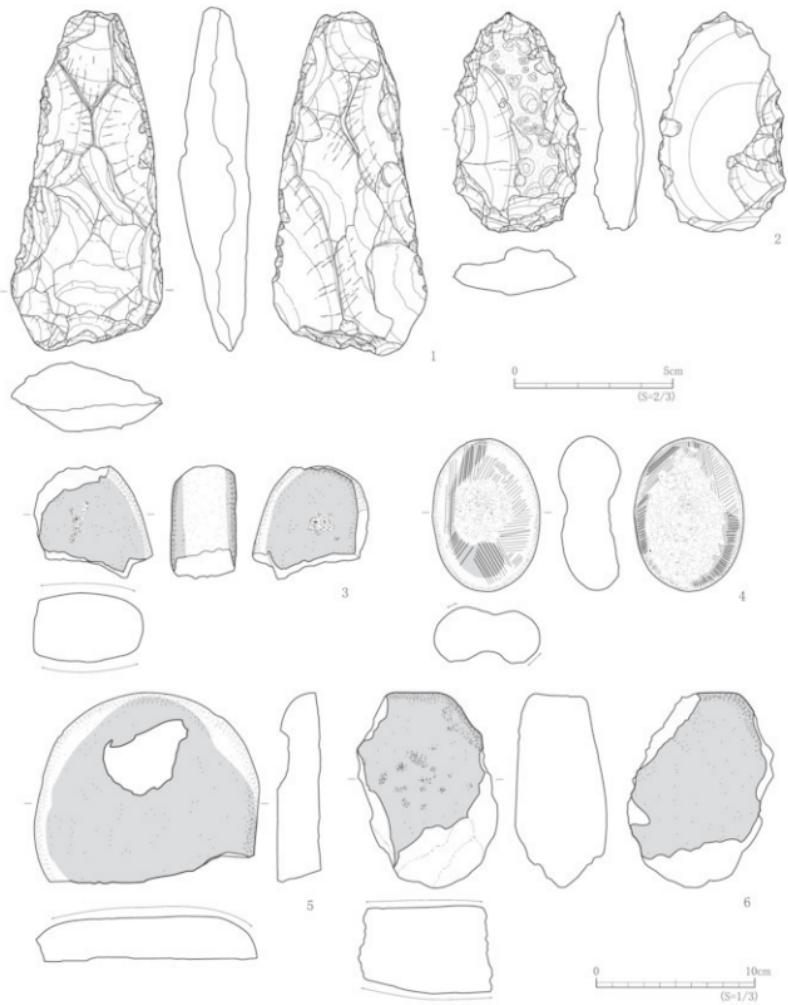
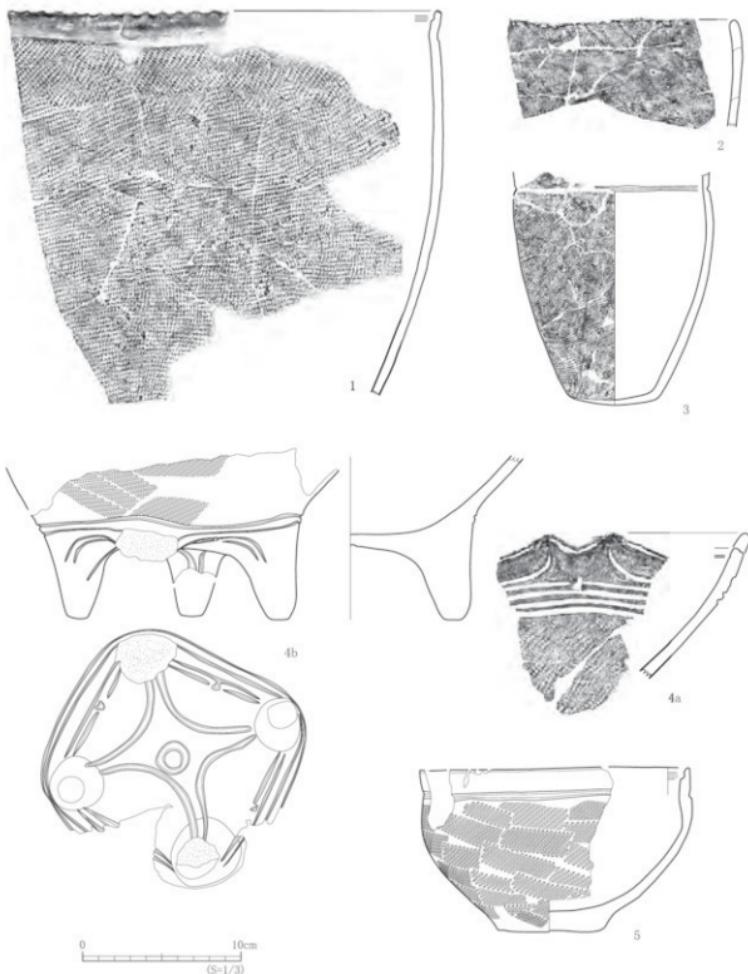


圖	區名	遺構・層	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石材	備考	登録	写真
1	B-10東	VIIb層	打制石斧	107.0	49.0	22.0	1145	粘板岩		G156	42.9
2	B-10東	SK10 球3層	石斧	69.5	40.0	15.5	403	球頁岩		G128	40.19
3	B-10東	VIIb層	凹石	(70.0)	(74.0)	44.0	(3225)	安山岩	破片	G109	44.8
4	B-10東	VIIb層	凹石	97.0	68.0	38.5	177.6	凝灰岩		G178	44.6
5	B-10東	VIIa層	石板	(121.0)	140.0	(29.0)	(267.0)	安山岩	破片	G122	45.4
6	B-10東	VIIa層	石板	(123.5)	(91.0)	57.5	(960.0)	玄武岩	破片	G118	44.11

第35図 B-10区東部VI層出土石器・石製品 (2)・SK10出土石器



第36図 SK10出土土器 (1)

固	区名	遺構・層	器種	特徴	登録	写真
1	B-10裏	SK10 50 + 4層	深鉢	小波状縁、LR調文、船上に骨針合存	R149	36-6
2	B-10裏	SK10 50#	深鉢	平縁、外面に炭化物、輪積み痕跡有	R148	36-7
3	B-10裏	SK10 50#	深鉢	直拌5.6cm、LR調文→沈底、船上に赤色粒合存	R151	35-3
4	B-10裏	SK10 30#	浅鉢(内輪付)	山形突起、丁字文小(沈面表現)、底部に「」字文(沈面表現)、LR調文、内外面に赤漆	R154	36-8
5	B-10裏	SK10 30#	浅鉢	口幅(17.0cm)、底径6.6cm、高さ10.5cm、平縁、LR調文→沈面	R152	35-4

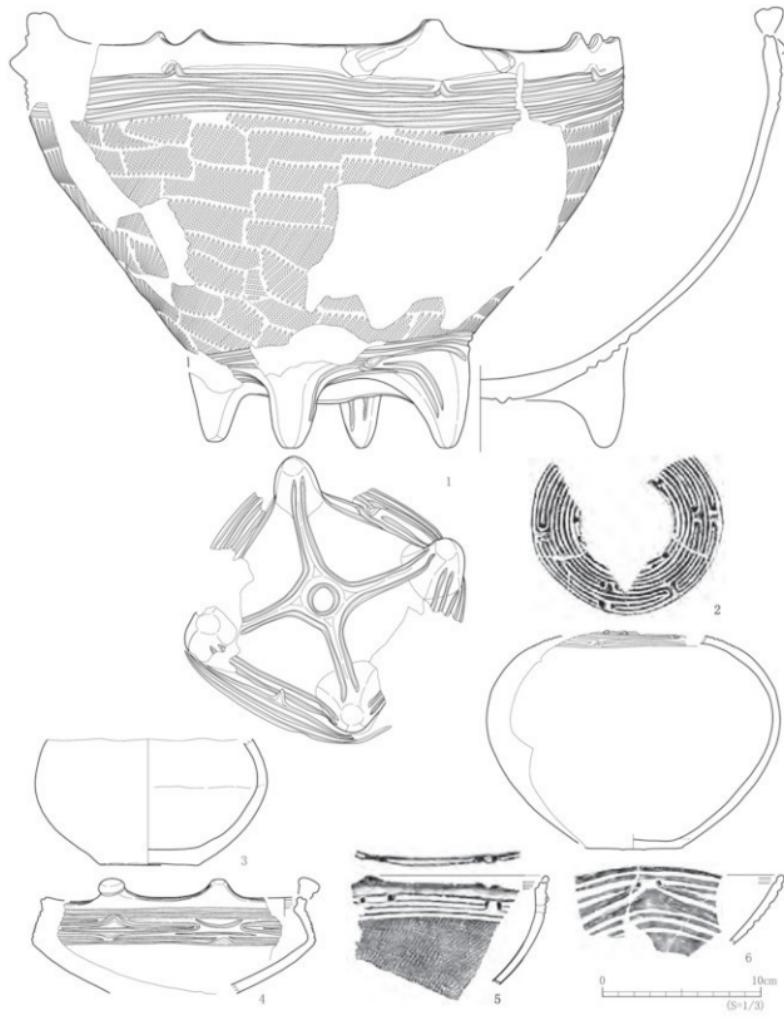


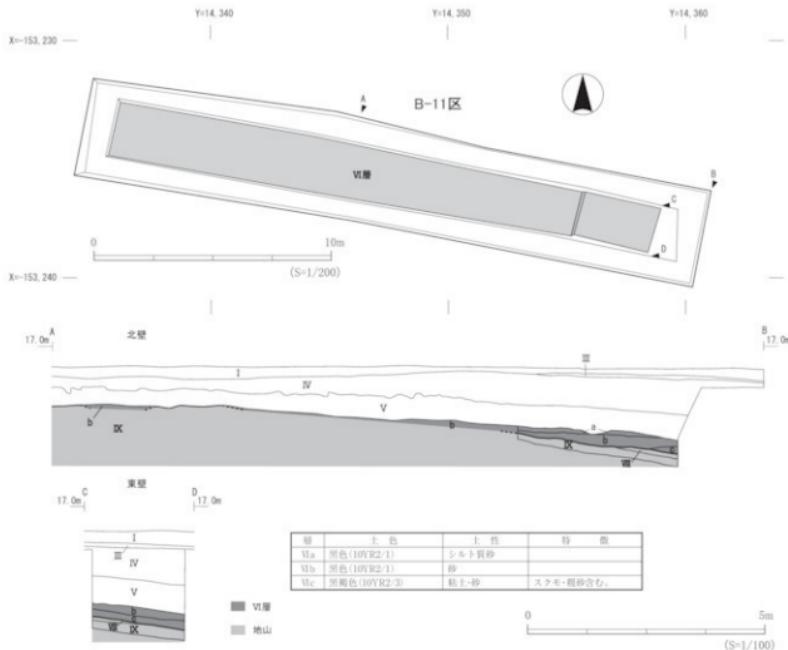
図	区名	遺構・層	器種	特徴	登録	写真
1	B-10裏	SK10-3#8	浅钵(内腹面)	山形突起(大突起4、小突起1、L字彫文→U字彫文)、乳頭2個(背面表現)、乳頭1個(正面表現)、表面に赤漆	R450	35-5
2	B-10裏	SK10-3#8-VII前+腹	壺	底径6.3cm、L字文(正面・背面)・連續刺突・點上粘付	R455	35-6
3	B-10裏	SK10-3#8	壺小	底径6.3cm、L字文赤色较多い	R453	35-7
4	B-10裏	SK10-1#8	浅钵	口径16.7cm、山形突起と円形突起、L字文(背面表現)	R457	36-1
5	B-10裏	SK10	浅钵	山形突起、L字文(背面表現)、LR彫文、被移孔1+面	R458	36-9
6	B-10裏	SK10-VII前+腹	浅钵	平縁、彫形L字文(背面表現)、内外面に赤漆	R432	30-8

第37図 SK10出土土器 (2)

B-11区（平面・断面図：第38図・遺物：第39～43図、図版11・25～27・31・32・38～46）

#### 【VI層】

〔遺物〕 a層とb層が比較的多い。土器は深鉢・浅鉢・壺・漆容器、土製品はスプーン形土製品、石器は石錐・石匙・楔形石器・不定形石器・磨製石斧・磨石・砥石、石製品は石刀がある。土器はc層の口縁部に工字文がある浅鉢（第39図1）、b層の頸部に工字文がある深鉢（第40図2・3）・口縁部に工字文がある深鉢（第40図4～6）・浅鉢（第40図7）・体部に工字文がある壺（第41図4・5）・壺（第41図2）、壺の蓋（第41図1）・漆容器（図版39～9）、a層の口縁部に工字文がある深鉢（第41図6）・深鉢（第41図7・8・第42図1・2）・口縁部に工字文がある浅鉢（第42図3・4）・浅鉢（第42図5）・口縁部内面は工字文で外面は変形工字文である壺（第42図7）・漆容器（第42図6）がある。土製品はミニチュア（図版32～8）がある。他に深鉢（第42図9）・口縁部に工字文がある浅鉢（第42図8）・スプーン形土製品（第42図10）がある。石器はb層の石錐（第43図1）・石匙（第43図2）・楔形石器（第43図3）・磨製石斧（第43図4）・磨石（第43図7、図版43～6）・砥石（第43図8）、剥片（図版46～8）、a層の不定形石器（図版41～17）・磨石（第43図6、図版44～3）、石製品はb層の石刀（第43図5）を示した。他に動物遺存体としてイノシシの歯が出土している。



第38図 B-11区平面・断面図

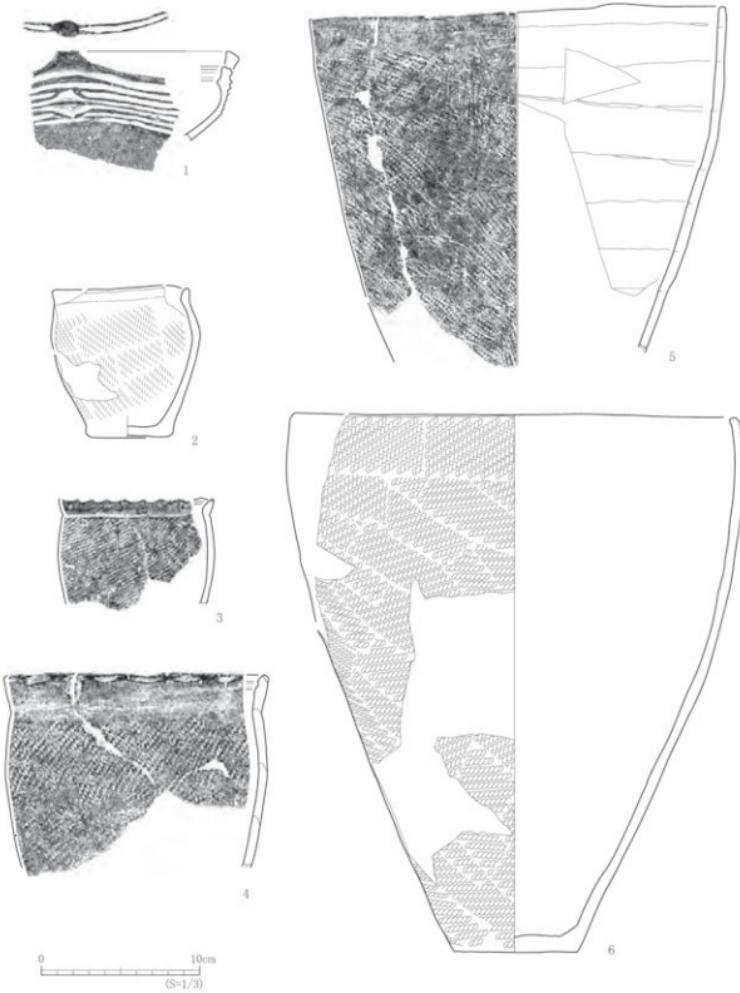


圖	區名	遺構・層	器種	特徵	登錄	写真
1	B-11	Vlc層	浅鉢	山形突起,丁字文(背面表現),内外面に赤鉄	R600	31.8
2	B-11	Vlb層	深鉢	口径8.6cm,底径5.5cm,器高9.6cm,平縁,LR無刷繪文	R532	25.1
3	B-11	Vlb層	深鉢	口径9.8cm,小腹状縁,沈縁,LR無文,内外面に炭化物	R533	31.9
4	B-11	Vlb層	深鉢	口径16.6cm,小腹状縁,LR無文,内外面に炭化物	R537	25.2
5	B-11	Vlb層	深鉢	口径26.4cm,平縁,RL+R付加条繩文(熱り印し), 内面に炭化物, 内面に輪組み直済者	R591	25.4
6	B-11	Vlb層+a層	深鉢	口径27.8cm,底径7.8cm,器高34.2cm,平縁,LR無文,外面に炭化物	R492	26.4

第39図 B-11区 Vlc,b層出土土器

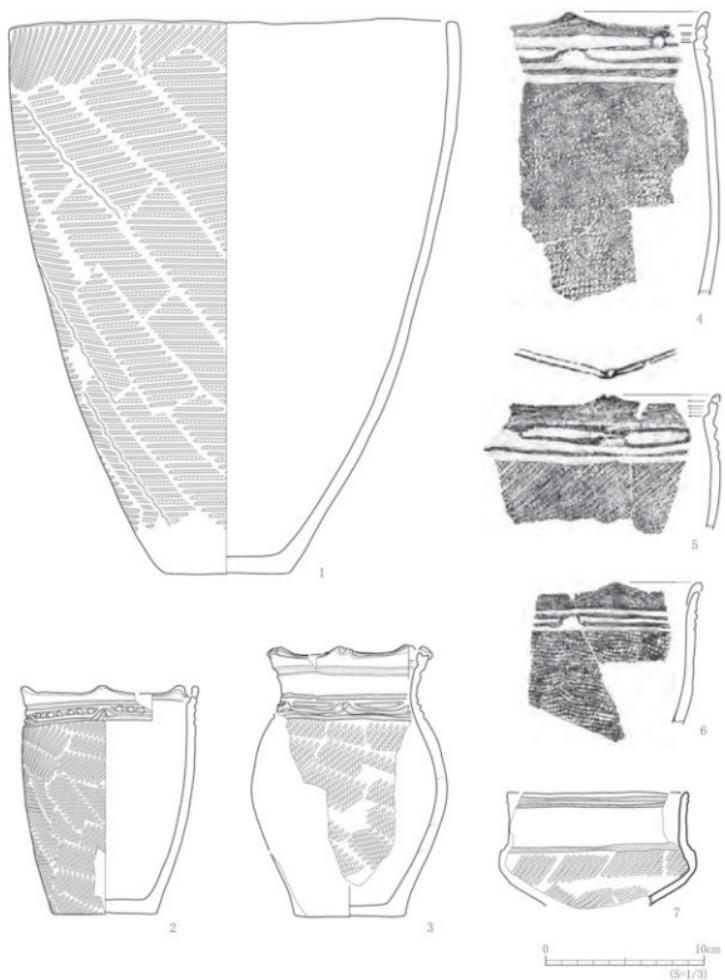


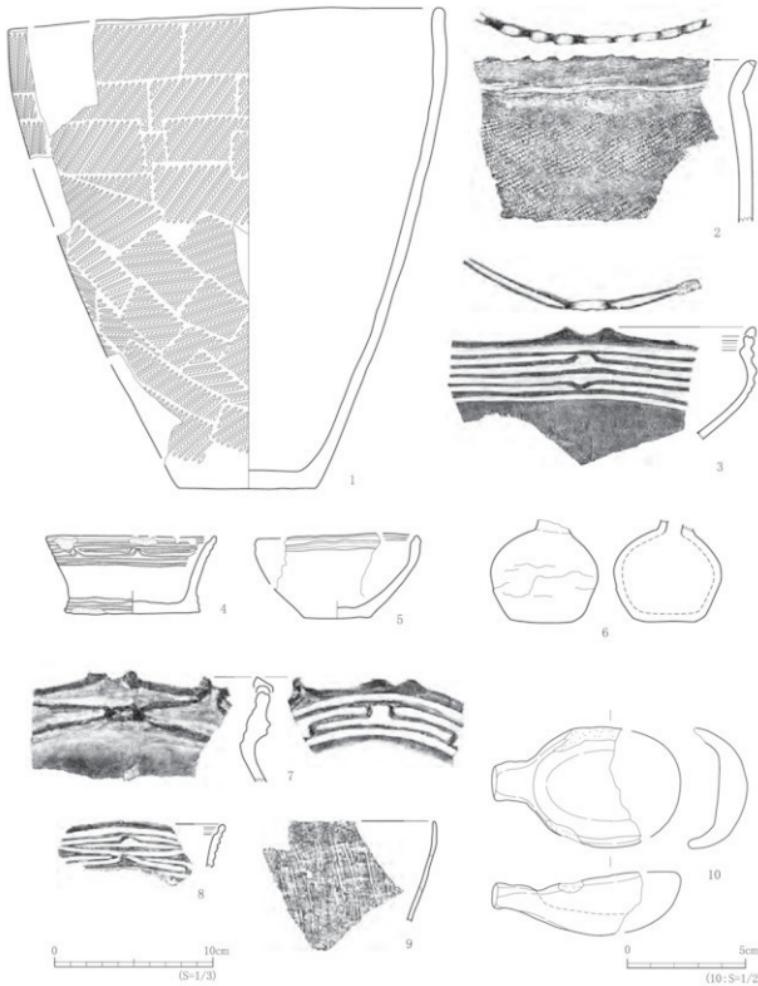
図	区名	遺構・層	器種	特徴	登録	写真
1	B-11	Vb層	深鉢	口径28.2cm、底径8.0cm、器高35.0cm、平縁、LR+平行加巣、縄文の末期に相当あり、外面上化物	R533	25-5
2	B-11	Vb層	深鉢	口径16.2cm、底径6.0cm、器高14.0cm、山形突起6箇所、丁字文(単位)×(波面表現)→LR縄文	R576	25-3
3	B-11	Vb層	深鉢	口径5.0cm、底径3.0cm、器高17.0cm、山形突起単位、丁字文(単位)×(波面表現)→LR縄文、内面に赤漆	R534	25-6
4	B-11	Vb層	深鉢	山形突起、丁字文(波面表現)、LR縄文、外面上化物、縫合孔1ヶ所	R582	31-10
5	B-11	Vb層	深鉢	山形突起、LR縄文→丁字文(波面表現)、内外面上化物	R554	31-11
6	B-11	Vb層	深鉢	山形突起、丁字文(波面表現)、内外面上化物	R603	31-12
7	B-11	Vb層	浅鉢	口径13.0cm)、平縁、平行沈縁、LR縄文	R579	31-13

第40図 B-11区Vb層出土土器



図	区名	遺構・層	器種	特徴	登録	写真
1	B-11	Vlb層	盞	径17.6cm、同心円文、平行沈痕、内外面に赤褐色、後成窓穿孔3ヶ所	R411	25.7
2	B-11	Vlb層	盞	口径8.4cm、平縁	R535	26.1
3	B-11	Vlb層	盞	口径8.2cm、平縁、楕円形の隆起5単位	R531	26.3
4	B-11	Vlb層	盞	「工字文」隠線表現と連続斜刻文、LR端S字状沈痕、外面上に火照け色跡者	R556	31.14
5	B-11	Vlb層	盞	「工字文」隠線表現と連続斜刻文、連続S字状沈痕、外面上に火照け色跡者	R516	32.1
6	B-11	Vla層	深鉢	山形突起、「工字文」隠線表現、LR端文、外面上に灰化物	R482	32.2
7	B-11	Vla層	深鉢	平縁、口縁内側に折り返し、LR+R付細条溝文、外面上に灰化物	R474	32.3
8	B-11	Vla層	深鉢	平縁、「工字文」外面上に灰化物、外面上に輪組み痕残る	R497	32.4

第41図 B-111 VIb,a層出土土器



第42図 B-11区VIa, VI層出土土器・土製品

図	名	遺構・層	器種	特徴	登録	写真
1	B-11	Va層	深鉢	口径27.0cm、底径8.8cm、高さ30.5cm、平縁、LR調文、内外面に炭化物、胎土に赤色含む	R464	26-2
2	B-11	Va層	深鉢	小底状形、浅縁、LR調文	R470	32-5
3	B-11	Va層	浅鉢	山形突起、工字文(隠面表現)、内外面に赤漆	R471	32-6
4	B-11	Va層	浅鉢	口径10.4cm、底径4cm、高さ5.0cm、平縁、工字文6單位(隠面表現)、平行沈縁	R499	26-5
5	B-11	Va層	浅鉢	口径10.0cm、底径4.2cm、高さ5.3cm、平縁、沈縁	R504	26-6
6	B-11	Va層	漆容器	底径3.8cm、外側に赤漆、内有物あり	R499	27-1
7	B-11	Va層	壺	山形突起(大突起と小突起)、先端に連なる△形形状の後縫、内外面に工字文(隠面表現)、内外面に黒漆	R498	32-7
8	B-11	Va層	深鉢	平縁、工字文(隠面表現)、外側に赤漆	R499	32-9
9	B-11	Va層	深鉢	平縁、ケズリ、施墨土器小	R602	32-10
10	B-11	Va層	37-2型(基盤)	底径8.0cm、高さ3.1cm、深さ25cm	R532	38-2

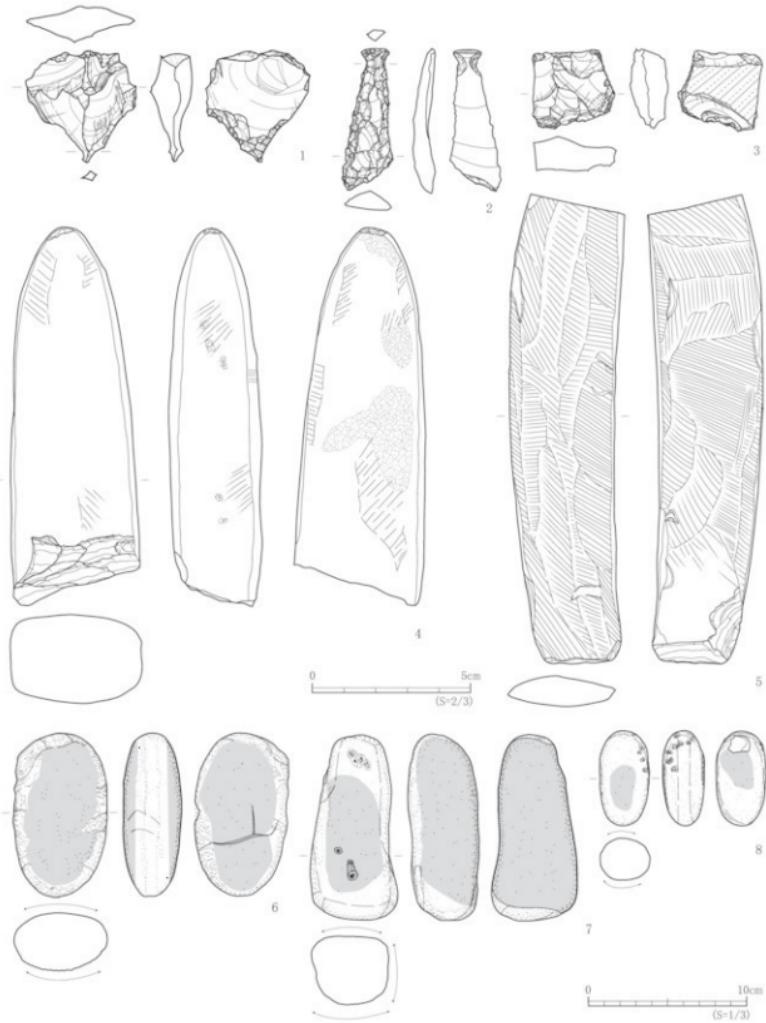


图	区名	遗物·组	器 种	长(㎜)	宽(㎜)	厚(㎜)	重(㎏)	石 材	参 考	登 录	写 真
1	B-11	Vlb组	石锥	35.0	34.5	13.5	.96	玛雅砾冰岩		6.20	40.10
2	B-11	Vlb组	石锥	45.0	15.0	6.0	.38	玛雅砾石岩		6.24	40.16
3	B-11	Vlb组	刮削石器	25.0	27.0	11.5	.81	玛雅砾冰岩		6.49	41.0
4	B-11	Vlb组	磨制石斧	(120.0)	41.0	29.0	(245.9)	安山岩	刃部欠 缺片	6.58	42.10
5	B-11	Vlb组	石刀	148.0	34.0	.90	(.804)	粘板岩		6.128	45.6
6	B-11	Vla组	磨石	102.0	58.0	37.0	239.5	安山岩		6.60	43.7
7	B-11	Vlb组	磨石	117.0	56.0	45.5	455.0	安山岩		6.87	43.10
8	B-11	Vlb组	砾石	59.5	31.5	27.5	.361	砾灰岩		6.88	44.4

第43图 B-11区VI层出土石器·石制品

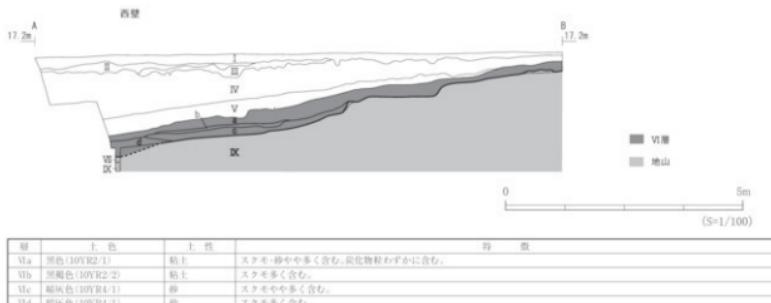
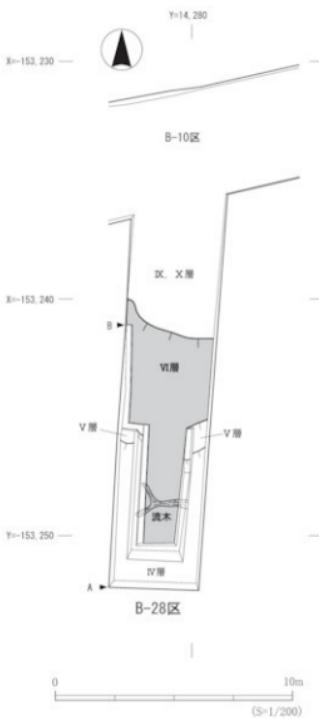
〔年代〕出土土器の時期から縄文時代晩期後葉と考えられる。

B-28区（平面・断面図：第44図・遺物：第45～47図、図版13・27・32・33・37・38・40～42・44・46）

#### 【VI層】

〔遺物〕a層が比較的多い。土器は深鉢・浅鉢・壺、土製品はミニチュア土器・スタンプ形土製品、石器は石錐・石籠・楔形石器・不定形石器・凹石・磨石・石核・剥片がある。土器はd層の口縁部に工字文がある深鉢（第45図1）・口縁部に工字文がある浅鉢（第45図2～3）・浅鉢（第45図4）、c層の浅鉢（第45図5）、a層の深鉢（第45図6～10、図版33～5）・口縁部に工字文がある浅鉢（第46図1・2・5・6）・浅鉢（第46図3・4）・台部に工字文がある浅鉢（第46図7）・体部に工字文のある壺（第46図8）・壺（第46図9・10）、土製品はa層の土偶（第46図11）・漆のパレットとみられるミニチュア土器（第46図12）・スタンプ形土製品（第46図13）、石器はa層の石錐（第47図1）・石籠（第47図2）・楔形石器（第47図3～6）・不定形石器（第47図7～9）・凹石（第47図10）・剥片（図版46～9～11）を示した。

〔年代〕出土土器の時期から縄文時代晩期後葉と考えられる。



第44図 B-28区平面図・断面図

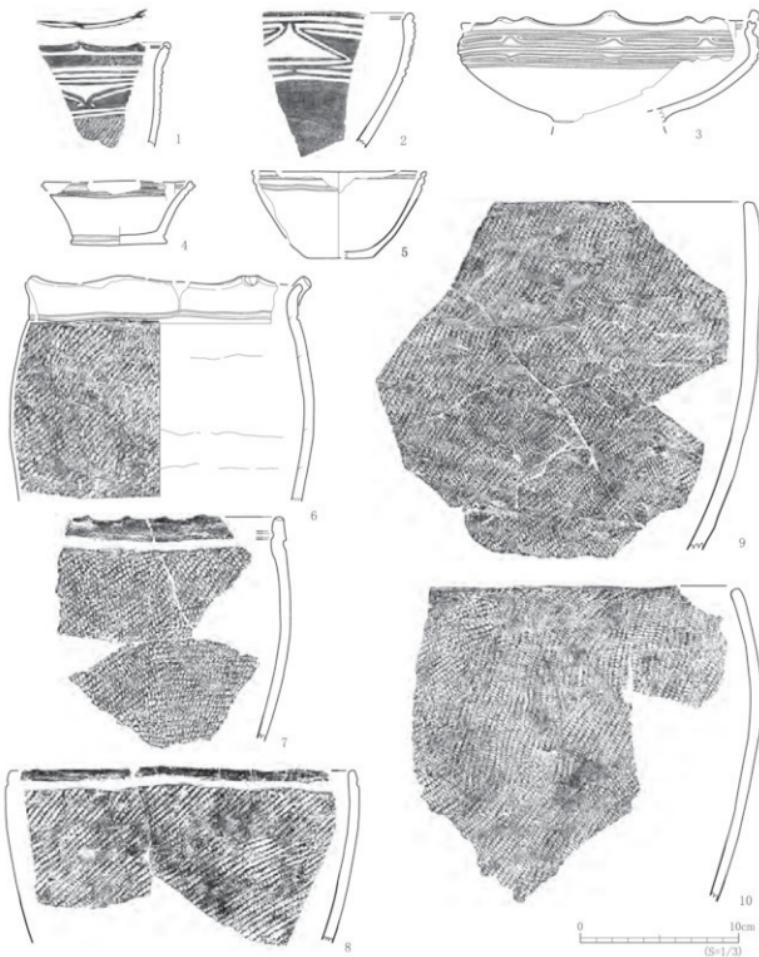


图	区名	层位·期	器 种	特 征	登记	写真
1	B-28	VId层	深钵	山形突起,丁字文(深瓣表现),LR绳文,外面前有灰化物	H281	32.13
2	B-28	VId层	浅钵	平缘,丁字文(深瓣表现),外面前有小漆	H280	32.14
3	B-28	VId层+a层	浅钵(台形)	DH(18.0cm),山形突起,大突起4,小突起4,丁字文(深瓣表现),外面前有水迹	H275	27.3
4	B-28	VId层	浅钵	DH(9.2cm),底径6.1cm,器高9.0cm,平缘,平行弦棱	H283	27.2
5	B-28	VId层	浅钵	DH(11.4cm),底径7.0cm,器高5.5cm,平行弦棱	H268	32.15
6	B-28	Va层	深钵	DH(17.0cm),山形突起,沈瓣,上无深瓣文,外面前有灰化物,胎稍有灰残	H246	32.16
7	B-28	Va层	深钵	小横状孔,沈瓣,LR绳文	H214	32.17
8	B-28	Va层	深钵	DH(21.6cm),平缘,LR绳文→沈瓣	H213	32.18
9	B-28	Va层	深钵	平缘,LR绳文,外面前有灰化物,胎上有砾石多	H212	33.1
10	B-28	Va层	深钵	平缘,LR绳文,外面前有灰化物,胎上无砾石多	H247	33.2

第45図 B-28区 VId,c,a層出土土器

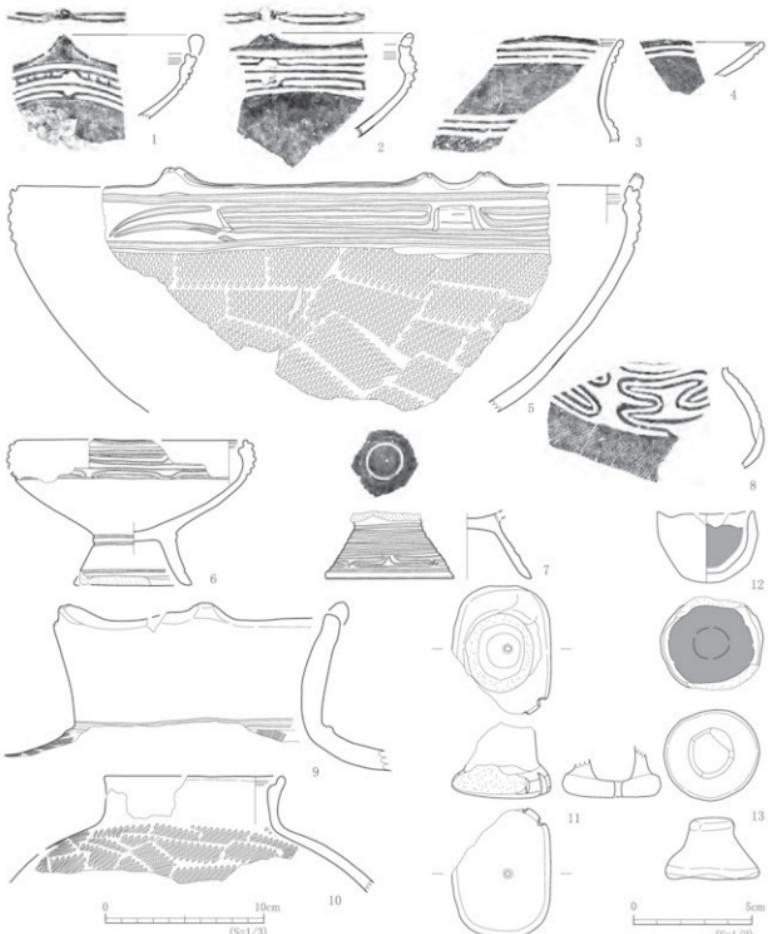


図	区名	遺構・層	器種	特徴	登録	写真
1	B-28	V1a層	浅钵	山形尖底、工字文(隠面表現と連續刻文)、外側に赤漆	H260	32-19
2	B-28	V1a層	浅钵	山形尖底、工字文(隠面表現)	H228	32-21
3	B-28	V1a層	浅钵	平底、平行沈縁、LR彌文、筋三に脊付含む	H226	32-22
4	B-28	V1a層	浅钵	平底、平行沈縁	H241	32-20
5	B-28	V1a層	浅钵	口径38.0cm、山形尖底、LR彌文→工字文(隠面表現)、内外面に赤漆	H249	33-3
6	B-28	V1a層	浅钵(台付)	口径14.9cm、底直径7.4cm、器高9.3cm、平底小、工字文(隠面表現)、内外面に黒漆と赤漆	H259	27-4
7	B-28	V1a層	浅钵(台付)	台底径23.5cm、工字文(隠面表現)、LR彌文、内面に円形凹溝	H220	27-5
8	B-28	V1a層	壺	工字文(隠面表現)、LR彌文、輪柄入痕残る	H255	33-4
9	B-28	V1a層	壺	口径17.8cm、山形尖底、LR彌文・沈縁、内面に黒漆	H258	27-6
10	B-28	V1a層	壺	口径11.2cm、山形尖底、LR彌文、骨針含む	H218	27-7
11	B-28	V1a層	土偶(脚部)	高5.5cm、幅4.2cm、沈縁による指表窓、足裏に貫通孔、脚部は中空、足首に複合痕残る	H266	37-2
12	B-28	V1a層	ミニチュア	口径4.0cm、器高3.0cm、内面に黒漆、漆パレット小	H285	38-6
13	B-28	V1a層	ミニチュア	口径9.9cm、高2.6cm、底面に黒漆	H267	38-4

第46図 B-28区 V1a層出土土器・土製品

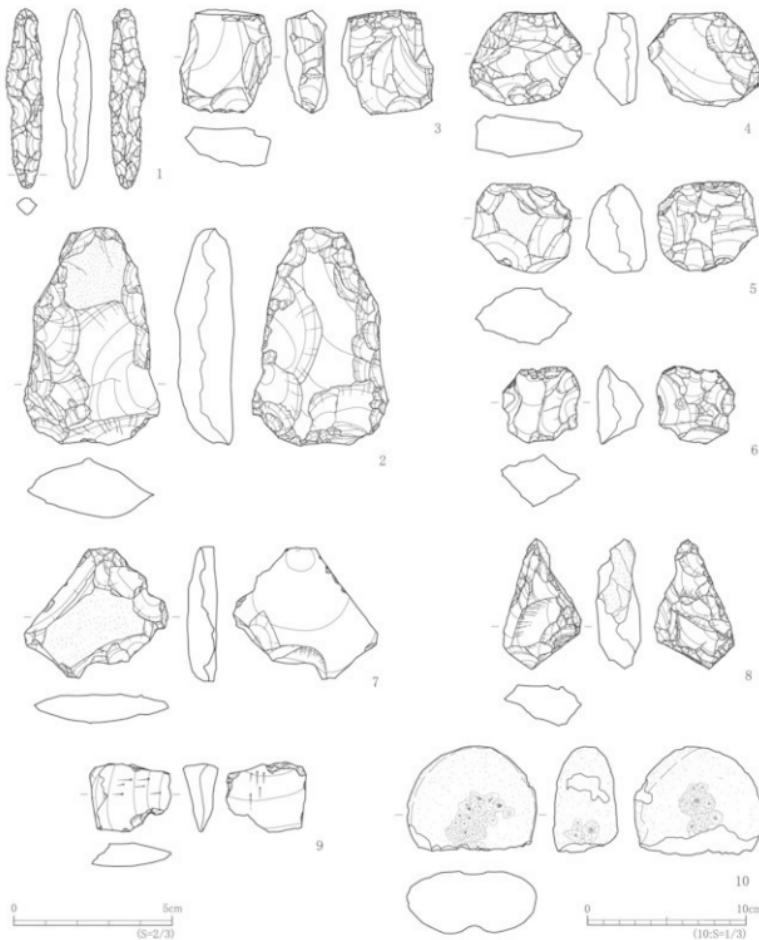


图	区名	遗物·组	器 种	长 (mm)	宽 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石 材	备 考	登记	写真
1	B-28	Vla组	石片	55.8	11.2	10.5	57	砾灰岩	先端磨圆	621	40.15
2	B-28	Vla组	石片	68.5	43.0	19.0	544	砾灰岩		630	40.20
3	B-28	Vla组	楔形石器	32.0	29.0	13.0	159	砾质砾灰岩		654	41.6
4	B-28	Vla组	楔形石器	29.5	37.0	13.0	138	砾质砾灰岩		652	41.7
5	B-28	Vla组	楔形石器	28.5	31.0	18.5	157	砾质砾灰岩		653	41.5
6	B-28	Vla组	楔形石器	24.0	24.0	16.5	67	砾质砾灰岩		655	41.10
7	B-28	Vla组	不定形石器	41.0	42.0	9.0	151	砾质砾灰岩		6349	41.12
8	B-28	Vla组	不定形石器	41.0	24.0	13.0	110	黑色页岩		634	41.15
9	B-28	Vla组	不定形石器	22.0	26.0	7.0	43	琥珀石		6332	42.8
10	B-28	Vla组	凹石	(66.0)	81.0	40.0	(271.5)	砾灰岩	一部欠	672	44.7

第47图 B-28区VI层出土石器

(3) C区

遺構は検出されていない。

C-2区（平面・断面図：第48・

49図、遺物：第50～53図、図版：

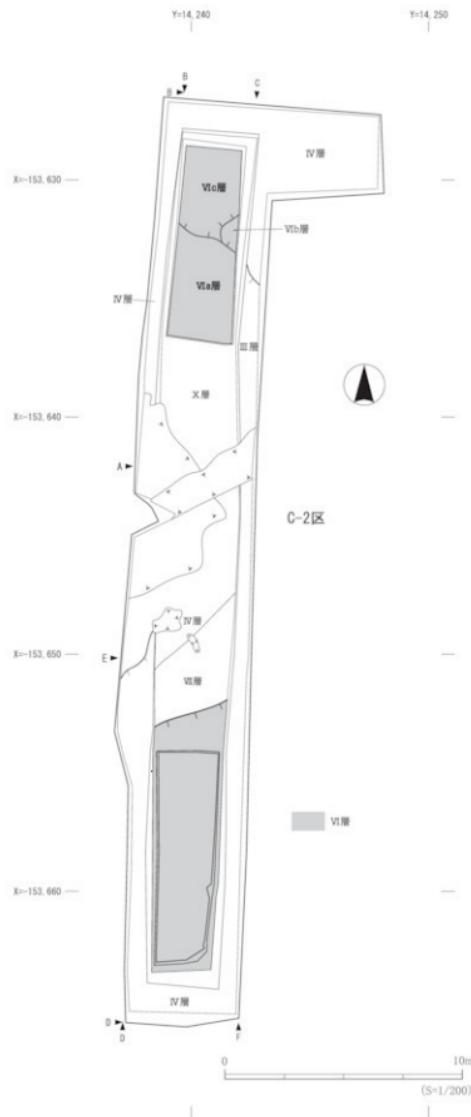
15・33・34・43）

【VI層】

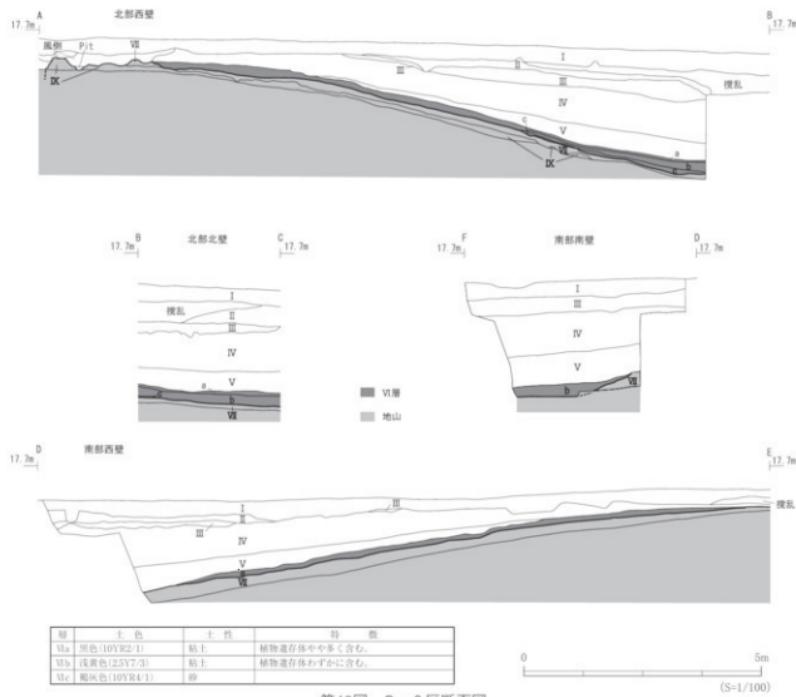
〔遺物〕 a層が比較的多い。土器は深鉢・浅鉢・壺、石器は石皿・磨石がある。土器はc層の深鉢（第51図1・2）、b層の浅鉢（第51図3）、a層の深鉢（第51図4・5・第52図1～3・第53図1～6）、口縁部に雲形文がある浅鉢（第53図7）・口縁部に工字文がある浅鉢（第53図8）・壺（第53図9）がある。

他に磨石（第50図1・2）を図示した。

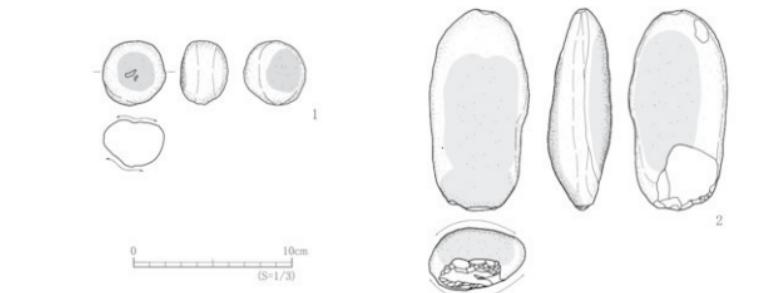
〔年代〕 晩期中葉の遺物が主体となるが、晩期後葉の遺物もわずかにがあるので、縄文時代晩期後葉と考えられる。



第48図 C-2区平面図

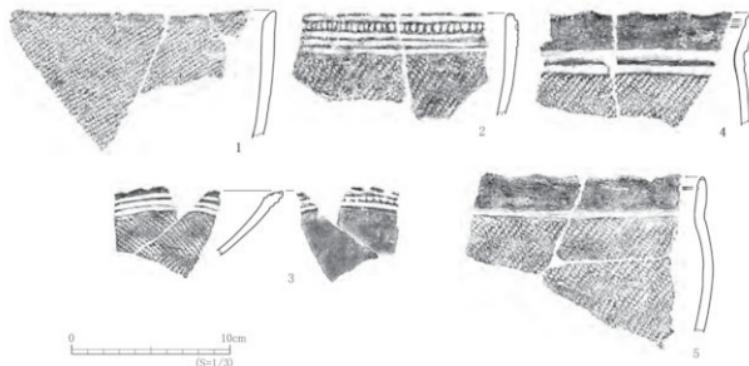


第49図 C-2 区断面図

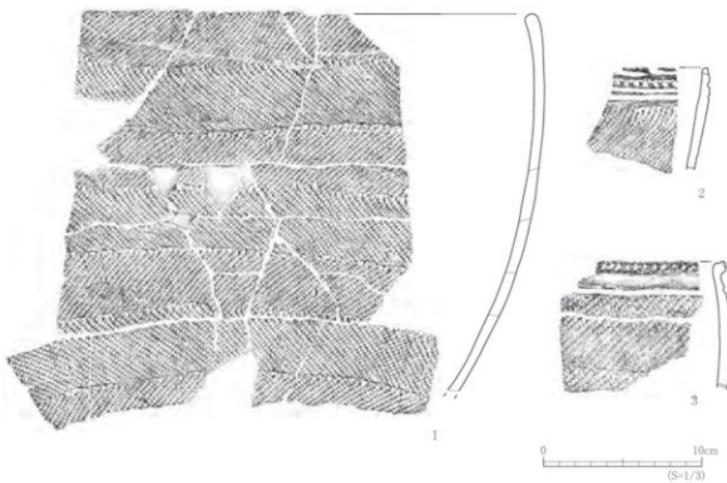


第50図 C-2 区VI層出土石器

回	区名	遺構・層	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石 材	備 考	登録	写真
1	C-2 南	VI層	磨石	41.0	40.0	30.0	53.9	安山岩		6/96	43.2
2	C-2 南	VI層	磨石	127.0	63.0	39.0	395.5	安山岩	最古の軽用	6/84	43.8



第51図 C-2区北部VI層出土土器



第52図 C-2区南部VI層出土土器（1）

図	区名	遺構・層	器種	特徴	登録	写真
1	C-2南	Ma層+a切	深鉢	平縁, LR網文	10634	33-6
2	C-2北	Ma層+a切	深鉢	平縁(刷みあり), 平行沈継と連續刺突, LR網文, 刷毛剥落	10641	33-7
3	C-2北	Vb層	浅鉢	平縁(刷みあり), 平行沈継→RLLR羽状網文, 内面に沈継と連續刺突	10642	33-8
4	C-2北	Va層	深鉢	小波状縁, 平行沈継+LR網文	10636	33-9
5	C-2北	Va層	深鉢	小波状縁, 沈継→LR網文	10640	33-10

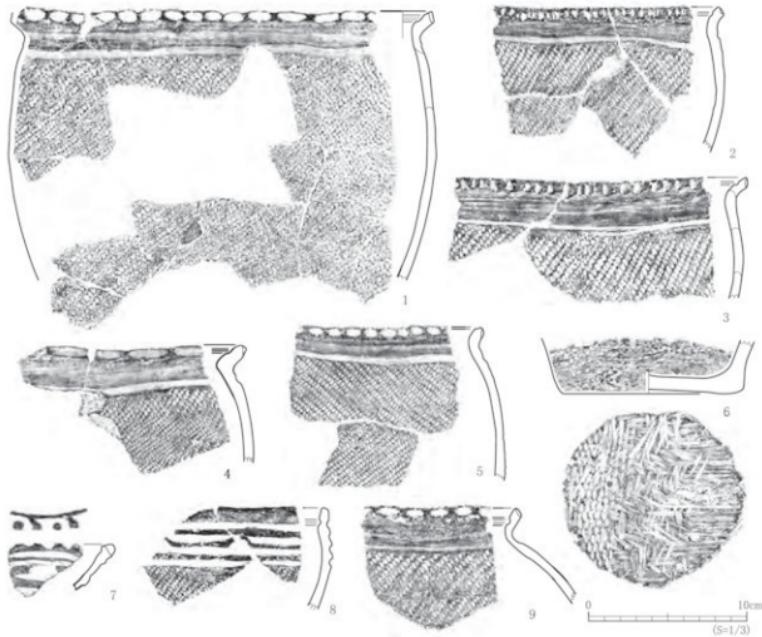


図	区名	遺構・層	器種	特徴	登録	写真
1	C-21区	Ma層	深鉢	口径26.4cm, 小底状縁, 沈縁, LR繩文, 外面に灰化物	30967	34-1
2	C-21区	Ma層	浅鉢	平縁(刷みあり), 沈縁, LR繩文	30948	34-2
3	C-21区	Ma層	浅鉢	平縁(刷みあり), 沈縁→LR繩文	30952	34-4
4	C-21区	Ma層	浅鉢	小底状縁, 沈縁, LR繩文	30960	34-3
5	C-21区	Ma層	浅鉢	小底状縁, 沈縁, LR繩文	30949	34-5
6	C-21区	Ma層	浅鉢	底径11.5cm, LR繩文か, 内面に灰化物, 底部網代縁(方向の異なる2種類が重複)	30962	34-6
7	C-21区	Ma層	浅鉢	平縁, 小底割りだし, 正軒文, LR繩文	30954	34-7
8	C-21区	Ma層	浅鉢	平縁, 上字文(縦縁表裏), LR繩文	30955	34-8
9	C-21区	Ma層	壺	小底状縁, 沈縁, LR繩文	30961	34-9

第53図 C-2区南部VI層出土土器(2)

C-21区(平面・断面図: 第54図、遺物: 第55図、図版16・27・34)

#### 【VI層】

〔遺物〕 b層が比較的多い。深鉢・浅鉢・壺がある。b層の深鉢(第55図1~3)・浅鉢(第55図4・5)を図示した。

〔年代〕 出土土器の時期から繩文時代晩期後葉と考えられる。

#### (4) D区

遺構は検出されず、VI層からの出土遺物もなかった。

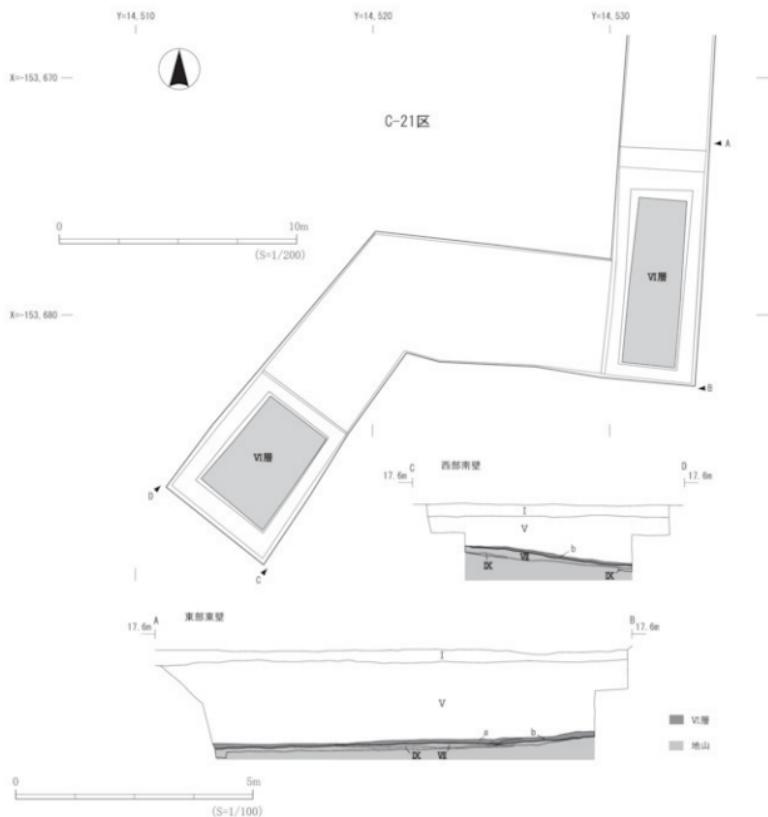
#### (5) その他の繩文時代の遺物

① その他の調査区のVI層出土遺物(第57図、図版29・32・34・37・40・41・44~46)

VI層が検出されたが、遺物がごくわずかであった調査区の特筆すべき遺物として、土器は深鉢（第56図3）・口縁部に工字文がある浅鉢（第56図1・2）、土製品は土偶（第56図4）、石器は石鎌（第57図1・2）・石匙（第57図3）・石籠（図版41-2）・砥石（第57図5）、剥片（図版46-7）、石製品は円盤（第57図4）を示した。

② I～V層の縄文時代の出土遺物（第58図、図版40～42・44・45）

I～V層から出土した特筆すべき縄文時代の遺物として、石鎌（第58図1、図版40-2・7）、石



第54図 C-21区平面・断面図

層	上色	下色	特徴
VIa	オリーブ黒色(SY3-1)	粘土質シート	
VIb	黒褐色(10YR3-2)	シート質粘土	西区では炭化物や砂多く含む。

錐（図版40-12）・石鎧（第58図2・3）・磨製石斧（第58図4）・磨石（第58図5）・敲石（図版45-3）・砥石（第58図6）を示した。

## 2. 弥生時代以降の遺構と遺物

弥生時代以降とみられる遺構として、D区の古代の河川1条（SX1000）と近世以降のA・D区の溝5条（SD1001～1005）を検出した。

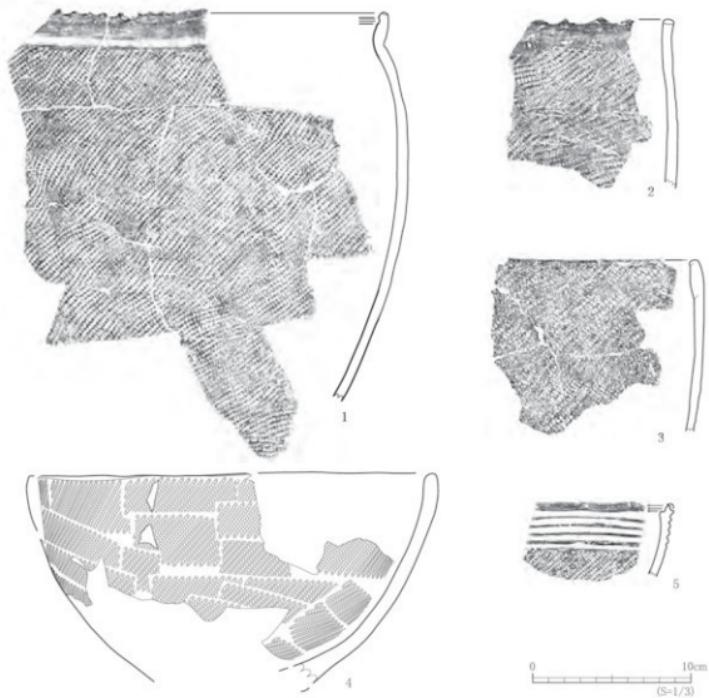


図	区名	遺構・層	器種	特徴	登録	写真
1	C21東	Mb層	深鉢	小波状縞、沈縞、LR網文	8695	34-11
2	C21西	Mb層	深鉢	小波状縞、LR網文、外面に炭化物、鉢上に釋石多い	8698	34-13
3	C21西	Mb層	深鉢	平縞、LR網文、外面に炭化物、内面に輪稍み痕残る	8691	34-12
4	C21西	Mb層	浅鉢	口径(25.5cm)、平縞、LR網文	8697	27.8
5	C21西	Mb層	浅鉢	山形突起、平行沈縞、LR網文、内外面に炭化物	8704	34-14

第55図 C-21区VI層出土土器

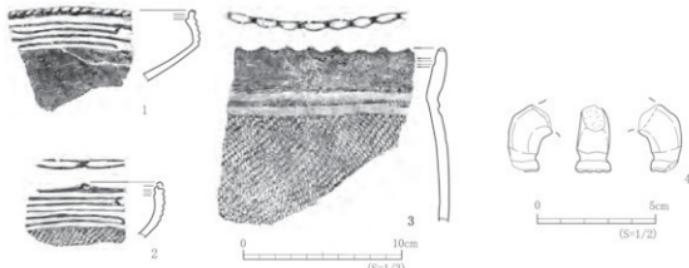


図	区名	遺構・層	器種	特徴	登録	写真
1.	A-26	Ⅵ層	浅鉢	平行(解釈あり), 上文(隕面表現), 外側面に赤漆, 脱土に骨封合む	R161	29-13
2.	B-22	Ⅵ層	浅鉢	山形突起, 上文(隕面表現), LR網文, 外側面に赤漆	R612	32-11
3.	C-7	Ⅵb層	深鉢	小底柱縁, 平行沈縫, LR網文, 外側面に炭化物	R703	34-10
4.	B-22	Ⅵ層	1段階小鉢形	長さ28cm, 中央, 鉄棒との境で剥落	R609	37-6

第56図 その他の区のVI層出土土器・土製品

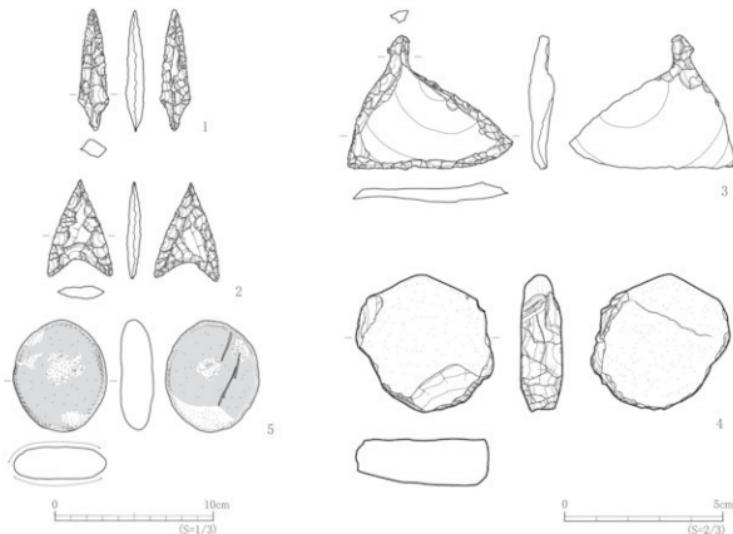


図	区名	遺構・層	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石材	備考	登録	写真
1	A-23	VIb層	石鉢	38.2	9.6	5.9	1.5	珪質頁岩		R1	40-1
2	C-15	VI層	石鉢	30.0	20.2	3.2	1.8	弱玉		R13	40-8
3	C-15	VI層	石鉢	42.0	52.0	5.5	8.9	珪質頁岩		R127	40-18
4	C-13	VI層	円盤状石製品	43.0	44.0	17.0	35.4	珪質頁岩		R129	45-7
5	C-20	VIa層	砾石	71.5	39.0	21.0	106.9	ダイサイト		R79	44-5

第57図 その他の区のVI層出土石器・石製品

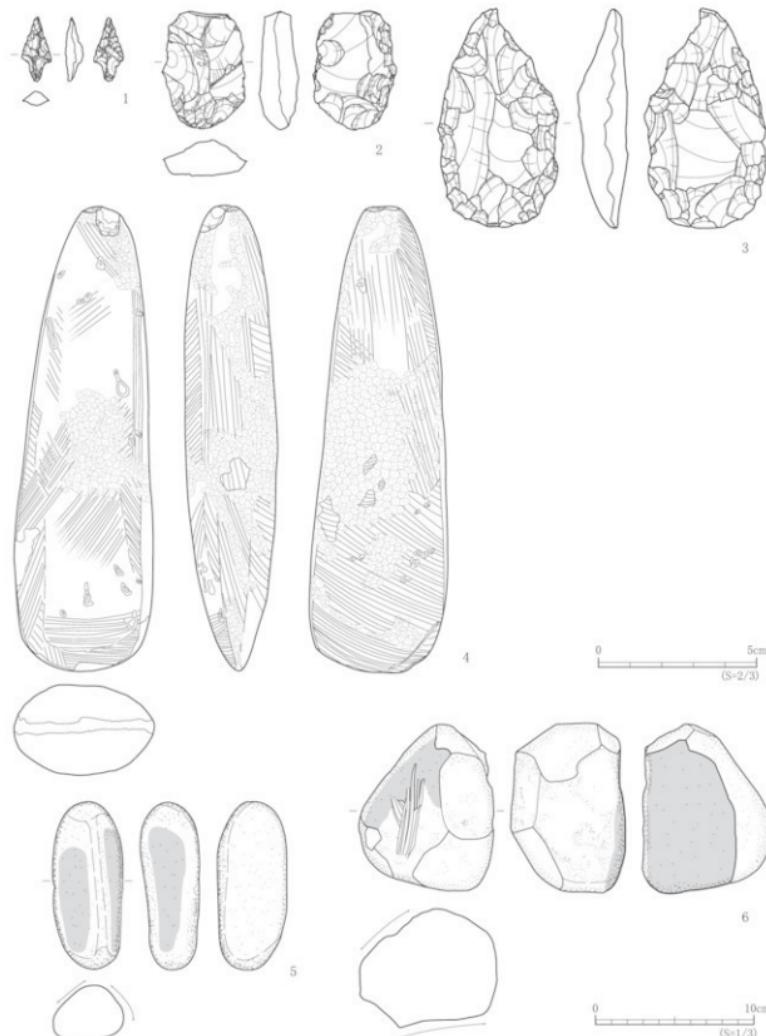


圖	名	遺構・層	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石材	備考	登録	写真
1	A-29	I層	石核	20.4	9.5	4.4	65			615	40-3
2	B-10裏	I層	石核	(37.0)	26.5	13.0	(120)	黑色頁岩	基部欠	629	41-3
3	A-28	Vc層	石核	45.5	25.5	11.0	106	絆頁岩		626	41-1
4	C-2	I層	碧製石斧	147.0	44.0	28.0	2785	月彌石		637	42-11
5	A-28	V層	碧石	106.0	44.0	36.5	2434	安山岩		639	44-1
6	B-10裏	V層	砾石	(107.0)	(87.0)	(73.5)	(901.0)	安山岩	一部欠	6117	44-10

第58図 I ~ V層出土石器・石製品

(1) A区

A-6・8区

【SD1001溝】(平面・断面図: 第59図、図版8)

〔位置・検出面〕A-8・A-6区中央部のV層上面で検出した。

〔検出した長さ〕南北溝で長さ約29m検出した。

〔方向〕ほぼ真北である。

〔規模・形状〕上幅約1.8m、下幅約1.4m。深さ約0.2mで、断面形は皿形である。

〔堆積土の状況〕2層に分かれ、1層はにぶい黄橙色シルト質粘土、2層は黒褐色シルト質粘土で、いずれもV層由来の粘土ブロックを含む人為堆積土である。

〔遺物〕なし。

〔年代〕不明確だが、形状や堆積土から近代以降とみられる。

A-29・34区

【SD1004溝】(平面・断面図: 第60図、図版8)

〔位置・検出面〕A-29区南部・A-34区西部のV層上面で検出した。

〔検出した長さ〕東西溝で長さ約4.3m検出した。

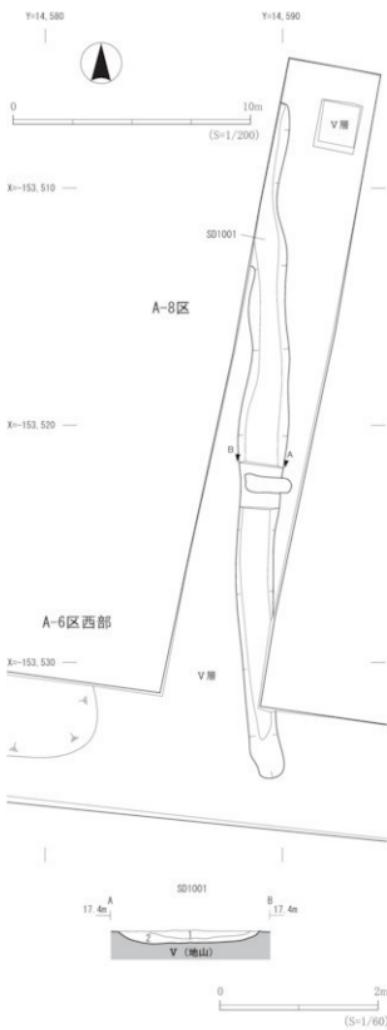
〔方向〕真北に対して東で北に約17° 傾る。

〔規模・形状〕上幅約1.2mである。平面の確認に留めたため下幅・深さと断面形は不明である。

〔堆積土の状況〕灰黄褐色シルトが自然堆積している。

〔遺物〕なし。

〔年代〕不明確だが、形状や堆積土から近代以降とみられる。



	土 色	土 性	特 殖	備 考
1	に赤V・黄橙(10YR7/3)	シルト質粘土	黒褐色粘土ブロック少し含む。	
2	黒褐色(10YR3/1)	シルト質粘土	に赤V・黄橙色粘土ブロック少し含む。	人為堆積

第59図 A-6・8区構造配置図・SD1001断面図

### A-30区

【SD1002溝】(平面図: 第61図、図版9)

〔位置・検出面〕東部のV層上面で検出した。

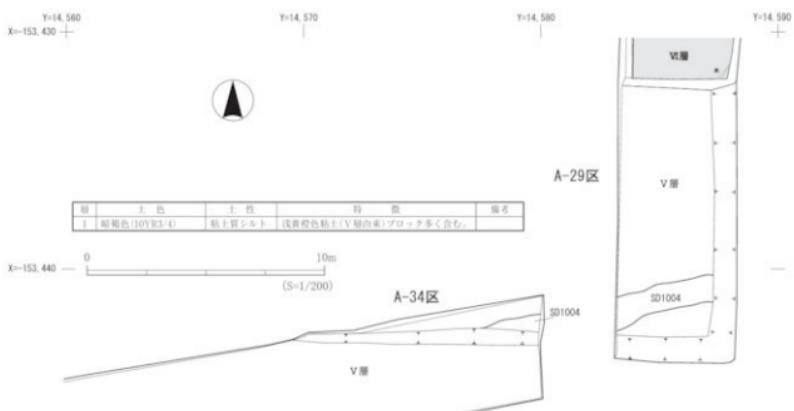
〔重複関係〕SD1003と北西部で重複しこれより古い。

〔検出した長さ〕南北溝で長約5m検出した。

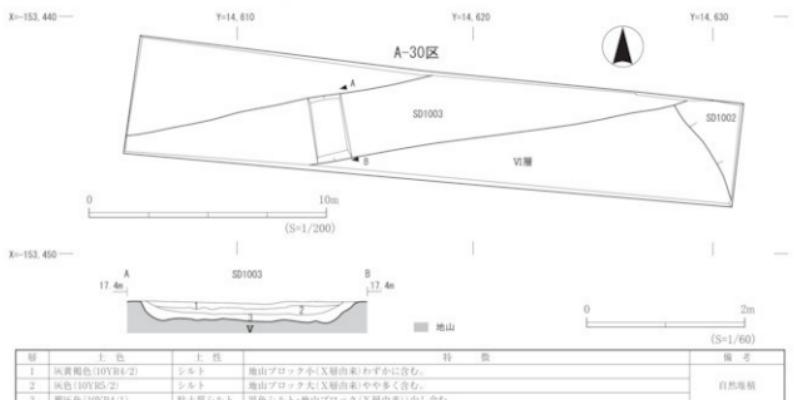
〔方向〕真北に対して北で西に約36°偏る。

〔規模・形状〕上幅約2.2m以上ある。平面の確認に留めたため下幅と深さ、断面形は不明である。

〔堆積土の状況〕灰黄褐色シルトの自然堆積層である。



第60図 A-29・34区遺構配置図



第61図 A-30区遺構配置図・SD1003断面図

〔遺物〕なし。

〔年代〕不明確だが、形状や堆積土の近代以降とみられる。

【SD1003溝】(平面図:第61図、図版9)

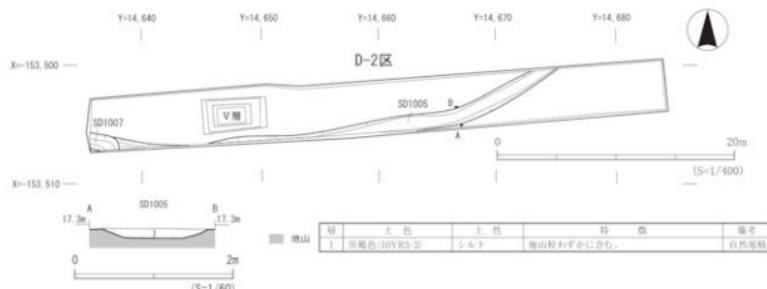
〔検出面〕V層上面で検出した。

〔重複関係〕SD1002と北東部で重複しこれより新しい。

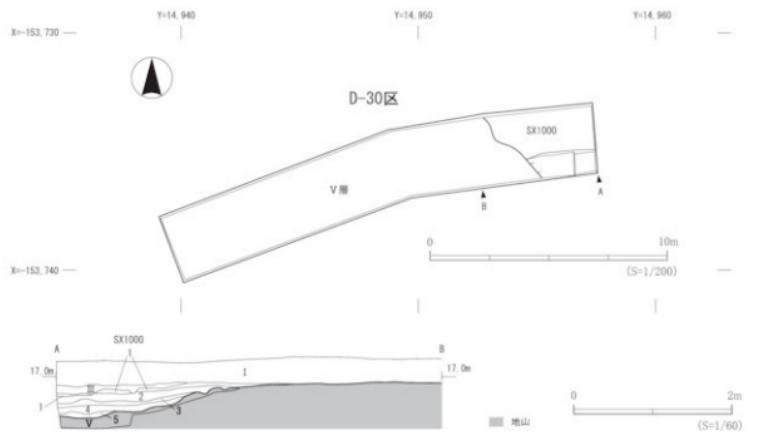
〔検出した長さ〕東西溝で長さ約16.5m検出した。

〔方向〕真北に対して東で北に約20°偏る。

〔規模・形状〕上幅約2.6m、下幅約2.3m、深さ約0.3mある。断面形は皿形である。



第62図 D-2区遺構配置図・SD1005断面図



第63図 D-30区遺構配置図・SX1000断面図

層	上・色	土性	特徴	備考
1	黄褐色(25Y5-3)	シルト	粘少少し含む。	
2	褐オリーブ色(5Y6-2)	シルト	粘少少し含む。	
3	オリーブ色(5Y2-2)	粘土質シルト	4層由来多く含む。3白色シルトブロック(4層由来)含む。	自然堆積
4	褐オリーブ色(5Y4-2)	粘土質シルト	4白色ブロック含む。炭化物粒多く含む。	
5	褐オリーブ色(5Y4-2)	粘質シルト	炭化物粒・植物遺存体多く含む。	

〔堆積土の状況〕 土色や土性、地山ブロックの大きさや量比などによって1～3層に細別できるが、すべて自然堆積層である。

〔遺物〕 土師器甕の口縁・体部小片がわずかにある。

〔年代〕 不明確だが、形状や堆積土から近代以降とみられる。

## (2) D区

### D-2区

【SD1005溝】(平面・断面図：第62図、図版19)

〔検出面〕 V層上面で検出した。

〔検出した長さ〕 東西溝で長さ約34.5m検出した。

〔方向〕 真北に対して東で北に約14° 傾る。

〔規模・形状〕 上幅約1.3m、下幅約0.7m、深さ約0.1mある。断面形は皿形である。

〔堆積土の状況〕 黒褐色シルトが自然堆積している。

〔遺物〕 なし。

〔年代〕 不明確だが、形状や堆積土から近代以降とみられる。

【SD1007】(平面・断面図：第62図、図版19)

〔位置・検出面〕 西部のV層上面で検出した。

〔検出した長さ〕 L字に曲がる溝で長さ約2.5m検出した。

〔規模・形状〕 上幅約1.3m、下幅約0.4m、深さ約0.2mある。断面形は皿形である。

〔堆積土の状況〕 黒褐色粘土質シルトが自然堆積している。

〔遺物〕 なし。

〔年代〕 不明確だが、形状や堆積土から近代以降とみられる。

### D-30区

【SX1000】(平面・断面図：第63図、図版19)

〔位置・検出面〕 東部のV層上面で検出した。

〔検出した長さ〕 南北の河川で、長さ約3.6m検出した。

〔方向〕 真北に対して北で東に約45° 傾る。

〔規模・形状〕 上幅3.7m以上、下幅1.6m以上、深さ約0.2m以上ある。断面形は不明である。

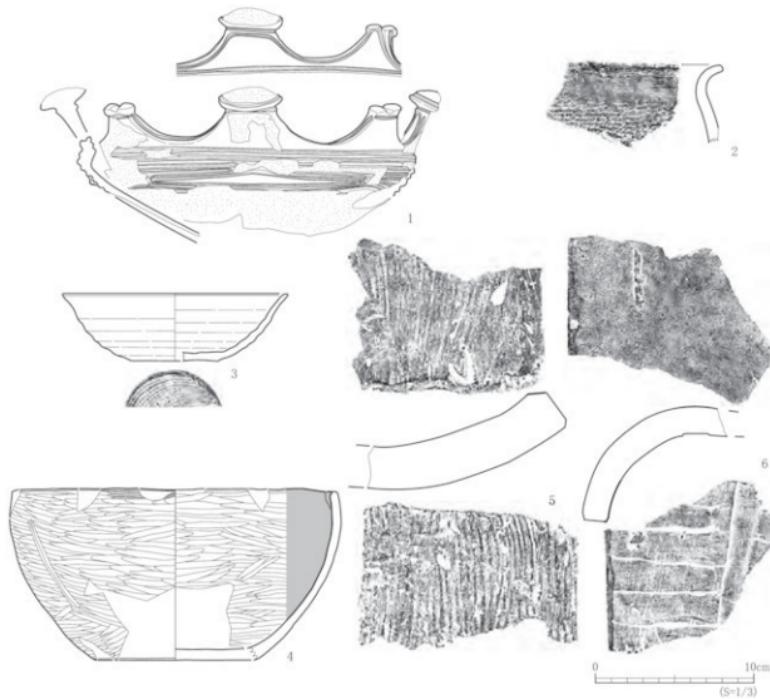
〔堆積土の状況〕 土色や土性、砂や灰白色シルトブロックの大きさや量比などによって1～5層に細別できるが、すべて自然堆積層である。

〔遺物〕 なし。

〔年代〕 1層の上にはⅢ層が堆積するので、10世紀前葉以前とみられる。

## (3) 弥生時代以降の遺物（遺物：第64図、図版39）

I～V層などから出土した特筆すべき遺物として、弥生時代の青木畠式の高环（第64図1）・樹形甕式の甕（第64図2）、古代の須恵器（第64図3）・土師器（第64図4）・灰釉陶器（図版39-19）・平瓦（第64図5）・丸瓦（第64図6）を示した。



第64図 弥生時代以降の出土遺物

図	区名	遺構・層	器種	特　　性	登録	写真
1.	B-22	V層上部	骨1基-齿	(頭骨21.8cm), 山形型船形頭位, 円形兜形(单孔), 長軸L字支承位(沈没表面と船子頭位), 頭上に骨針合む, 溝痕網状	620	39-14
2.	C-17	複数	骨1基-骨	骨縫, 無脊文(帆船合子)	6981	39-19
3.	C-27	B層	頭骨-2枚	口縫(14.3cm), 頭縫(5.6cm), 頭高(4.2cm), 頭部回転系切口	8700	39-16
4.	C-22	B層	上加藤-跡	口縫(26cm), 乳突(4cm), 脊高(1.8cm), 外縫口縫カコナギ, 多面-底面ハラケイリ→ウエーブセキ, 内縫-ハラニゼキ-深色処理	8628	39-15
5.	C-22	B層	平丸	一枚作り	8632	39-17
6.	C-15	表1	丸丸	粘土被含み作り, 外面に施り消し, 黒な焼き痕	8675	39-18

## 第V章 総括

遺物・遺物包含層（VI層）・遺構の順に検討し、その形成環境について総括する。縄文時代と弥生時代以降に分けて記述する。

### 1. 縄文時代

#### （1）遺物

縄文時代の早期末から前期初頭、後期中葉・後葉、晩期前葉・中葉と晩期後葉の土器が整理用平箱で1箱、後期後葉の土器・土製品・石器・石製品・動植物遺存体が整理用平箱で計43箱ある。本製品は出土しなかった。以下、主体となる晩期後葉の遺物の特徴を整理しておく。

##### ①土器・土製品（第65～69図）

###### 土器

###### A. 器種の構成

全体の器形を復元できる30点の器高と口径の比を分析した（第65図）。ただし、台や脚が付いた土器の器高はそれを除いたものである。このグラフによると、器高/口径=1/1以上または2/3以上とそれ以下に大別できる。そこで、ここででは器高/口径=1/1以上を深鉢、それ以下を浅鉢と区別するにとどめたい。

他には壺・蓋・注口土器（図版32～12）があるが、壺と注口土器は全体を復元できる個体はない。また、器高・口径とともに5cm以下の土器は「ミニチュア」の土製品として区別した。なお、破片は器形や文様などの特徴から、以上で区分した器種を推定した。

###### B. 器種の特徴

###### 【深鉢】

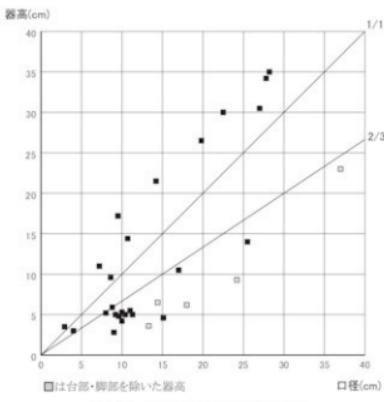
口縁部の形状から大きく2つに分けられる。

###### I類 口縁部が内湾するもの（第66図1～3）

口径18cm以上、高さ25cm以上である。器形は底部から口縁部まで緩やかに内湾する。口縁から体下部は縄文のみの例が主体である。口縁部は平縁で、施文は器面全体にLR単節を横に回転させたり、口縁部は横で体部以下は斜めに回転させたりする例がほとんどで、付加条縄文や羽状縄文はわずかである。なお、第66図3は無文の深鉢で器壁が薄く、外面は粗いヘラケズリや輪積み痕、内面はミガキやナデ調整がみられる。B-10・11区出土の類品の破片には被熱痕もみられ、東松島市里浜貝塚の製塩土器の特徴と共に通する（東北歴史資料館1983）。

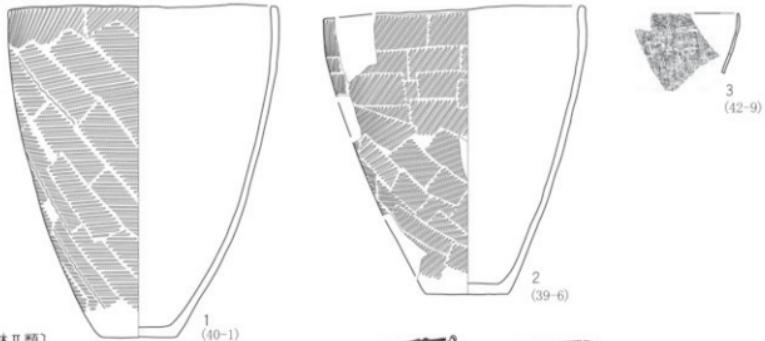
###### II類 口縁部が直立または外反するもの（第66図4～9）

口径8cm～27cm、器高は9cm～30cmである。器形は体部と口縁部の境で屈曲し、口縁部が直立また

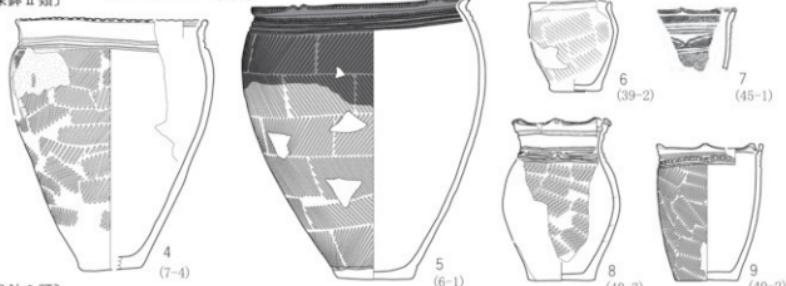


第65図 復元土器の器高と口径

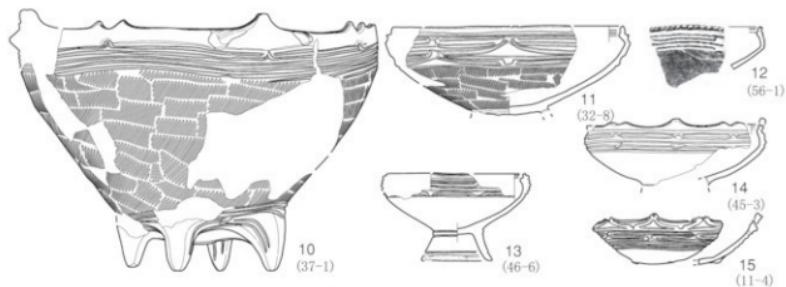
〔深鉢 I 類〕



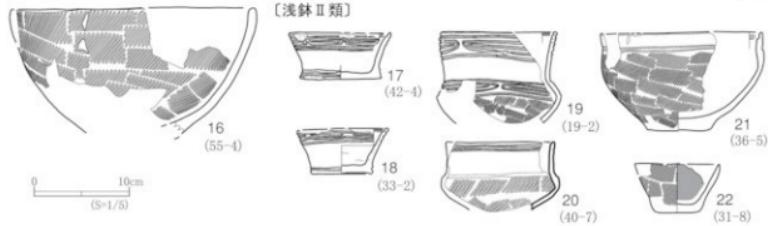
〔深鉢 II 類〕



〔浅鉢 I 類〕

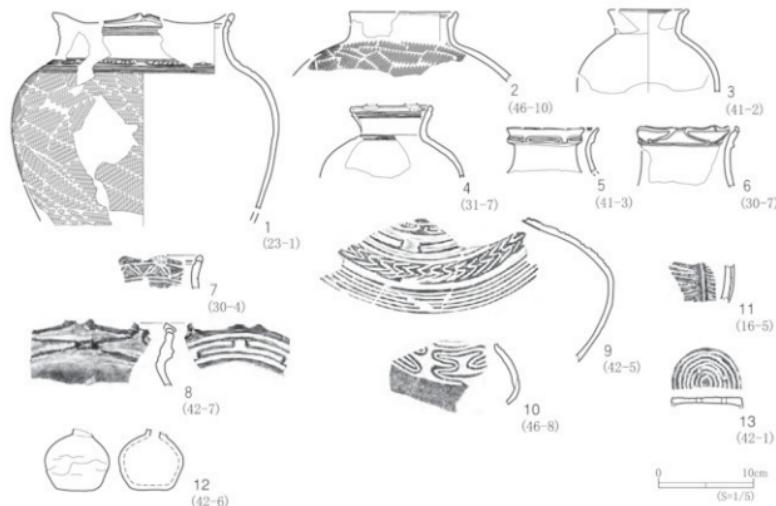


〔浅鉢 II 類〕



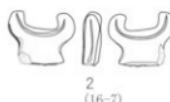
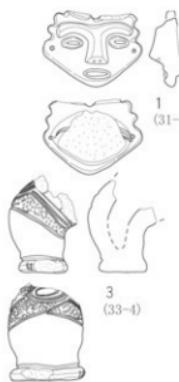
0  
10cm  
(S=1/6)

第66図 深鉢・浅鉢の種類

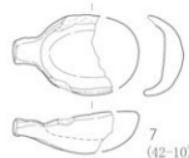


第67図 壺・蓋の種類

土偶



スプーン形土製品

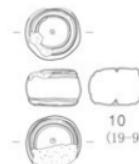
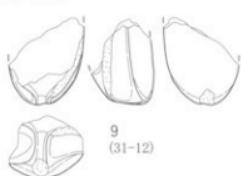


スタンプ形土製品

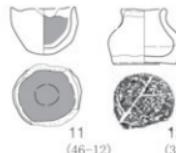


ミニチュア

不明土製品



土製円盤



第68図 土製品の種類

はやや外反する。口縁部は平縁・小波状縁・山形状突起や刻みがある例など多様である。口縁部は無文で体部外面にはLR単節を横に回転させる例がほとんどである。ただし小形品には、体上部に工字文が表現される例もある（第66図7～9）。

#### 【浅鉢】

口縁部の形状から大きく2つに分けられる。

##### I類 口縁部が内彎または内に屈曲するもの（第66図10～16）

器形は底部から口縁部まで緩やかに内湾したり、体部と口縁部の文様帯との境で内に屈曲したりする。口縁部は平縁や山形状突起となる。山形状突起は1単位＝1山と1単位＝2山とがあり、1個体に2種類を組み合わせてある例がほとんどである。口縁部や体上部の多くは文様帯となっており、工字文が表現される（第66図10～15）。また文様帯より下部は無文が多いが、LR単節の繩文が施される大型品（第66図10・11）や、全体が繩文のみの例（第66図16）もわずかにある。なお、底部は平底と脚や台がつくものがある。

##### II類 口縁部が直立または外反するもの（第66図17～22）

器形は底部から口縁部まで緩やかに外反したり、（第66図17・18）、丸みをもつ体部の上部で屈曲し、口縁部が直立・外反したりする（第66図19～22）。a類と比較して小形品が多い。すべての口縁部は平縁で、口縁部や体上部に文様帯があり、工字文や沈線が表現される。これより下部は、無文（第66図17・18）とLR単節の繩文が施される例（第66図19～22）がほとんどであるが、工字文がみられる例もわずかにある（第66図19）。なお、第66図22は内面の表面に漆の縮み皴がみられる漆容器である。

#### 【壺】（第67図1～13）

全体を復元できる個体はない。器形は底部から頸部まで緩やかに内湾し、頸部から口縁部にかけて緩やかに外反する。体上部が最大径となるようである。口縁部は無文（第67図2）と梢円形の隆線（第67図5）・三角形状の隆線または沈線（第67図6～8）・平行沈線（第67図1・4）の例がある。第67図8は口縁部外面に三角形状の隆線、内面に上下交互の工字文と内外面で文様が異なる珍しい例である。体部について、無文（第67図3・4）と有文があり、有文には繩文（第67図1・2）・工字文（第67図10）、工字文と連続S字状文（第67図9）、隆帶と沈線（第67図11）などがみられる。また第67図12は、内面に漆が厚く付着した漆容器である。

#### 【蓋】（第67図13）

第67図13は4ヶ所の穿孔がある逆皿状の蓋で、口縁部に穿孔がある壺の蓋とされる（佐藤2008）。

#### C. 文様の特徴

##### 【文様の分類】（第69図）

晩期後葉（大洞A・A'式）の文様の大きな特徴は工字文と変形工字文である。本書で「工字文」・「変形工字文」としたものは、以下のように細分できる。

##### a類 流水状の工字文（第69図1～3）

体部に連続した工字文が隆線で表現される。

##### b類 平行沈線と刺突文（第69図4～6）

平行沈線を刺突で区切った例で、工字文を簡略に表現したとみられる。すべて沈線表現である。

c類 匹字文（第69図7～14）

平行沈線の一部を台形状に彫去し、漢字の「匹」字状の文様を表現する。彫った粘土を両脇に盛り上げ、瘤状にする例もみられる。「匹」字が表現される方向には、下向き（第69図7～10）、上下対向（第69図11・12）、上下交互（第69図13・14）などがある。隆線表現が主体であるが、沈線表現の例や連続刺突の例もわずかにみられる。

d類 三角形状の匹字文（第69図15・16）

「変形匹字文」とも呼ばれる（鈴木1988）。匹字文が上下にやや広がり、沈線を途中で折り返して三角形を描く。三角形を彫去して、隆線表現にするものが多い。基本単位文の三角形と、補助単位文の斜線・弧線などで構成される。三角形の下に上向きの匹字文を配する例もある（第69図16）。

e類 変形工字文（第69図17・18）

沈線表現で三角形を繋ぎあわせた文様。

本報告の資料のうち、主体となるのはc類、次いでb・d類で、a・e類は少ない。なお、a類は山内清男が大洞諸型式を設定した時のA式、e類は大洞A'式にあたる（山内1932）。b～d類は、氏がその後に細分した大洞A1・A2・A'式のいづれかにあたるが（山内編1964）、その具体的な内容と比定については諸説あり、議論されている（藤村1980・飯塚1980・鈴木1987・中村1988・設楽1991など）。

【文様の変遷】

検出した遺物包含層の土器のほとんどは、丘陵や微高地から少しづつ流入したとみられる土砂とともに出土したもので、廃棄された原位置を保っていない。したがって前述した文様の変遷を層位別に検討することは難しい。ただしB-10区のSK10は土器がまとめて捨てられた土坑で、その後にVIa層が形成されたことがわかっており、それぞれの層から出土した遺物を堆積順に検討することができる。そこで、ここでは前述した文様の変遷を、土器の特徴を示しながら分析してみたい。

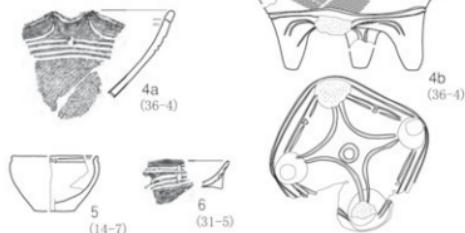
まず3層の浅鉢について、口縁部には1単位=2山の山形状突起となっており、口縁部と底部には平行沈線と刺突による工字文がみられる（第36図4）。第37図1の口縁部は1単位=1山と1単位=2山の2種の山形状突起が計8つみられ、口縁部と底部には隆線表現による匹字文がみられる。第37図2の体上部には沈線・粘土瘤・連続刺突による隆線表現の流水状の工字文がみられる。1層について、第37図4の口縁部は1単位=1山の山形状突起と円形突起となっており、口縁部の文様は、沈線で三角形を彫去した匹字文と弧状の沈線で構成される。また詳しい出土層位は不明であるが、SK10の直上を覆うVIa層やVIb層と接合した第37図6の口縁部には沈線と粘土瘤による変形工字文がみられる。

以上を整理すると、文様は3層：a類（第37図2）・b類（第36図4）・c類（第37図1）→1層：d類（第37図4）→SK10+VIb+VIa層：e類（第37図6）と変遷する。また、浅鉢の口縁部突起の組み合わせは、山形状のみ（第36図4）から山形状と円形（第37図4）になるようである。なおこの3層の遺物と比較できる出土例には、色麻町香ノ木遺跡5号土坑（宮城県教育委員会1985）、栗原市山王園遺跡VC-7・m・n層とその上下の層であるVa・k層、VI層が挙げられる（伊藤・須藤1985・

a類. 流水状の工字文

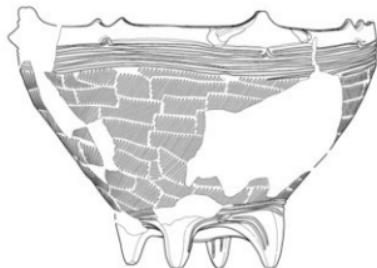
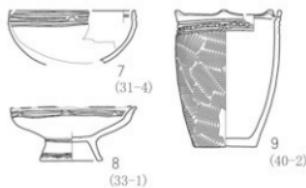


b類. 平行沈線と刺突

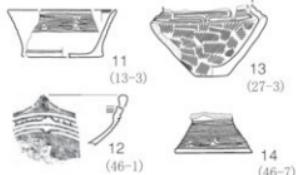


c類. 匹字文

下向きの匹字文

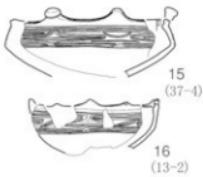


上下対向の匹字文

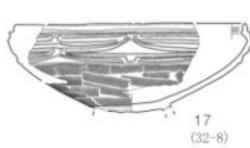


上下交互の匹字文

d類. 三角形状の匹字文



e類. 変形工字文



0      10cm  
(S=1/5)

第69図 工字文・変形工字文の種類

須藤1998)。

#### 土製品（第68図）

土偶 6 点、装飾品・スプーン形土製品・スタンプ形土製品の各 1 点、ミニチュア土器 2 点・土製円盤 1 点、不明土製品 2 点を図示したほか、火を受けた粘土維（図版38-12~14）も出土している。土偶は全体を復元できる個体はないが「結髪文土偶」「刺突文土偶」（会田1979）の、頭頂部の突起（第68図1）、顔（第68図2）、脚（第68図3~5）がある。第68図2の頭頂部は二又となり、扁平な顔には眉・目・鼻・口が隆線で表現される。第68図3の脚部は細い沈線の同心円文と刺突で「パンツ状」に表現されている。また第68図4の扁平な脚には中空で中央に小さな穿孔がみられる。

なお不明土製品について、その大きさと形状から第68図9は土棒、第68図10は装身具の可能性を考えられる。

#### ②石器・石製品（図版40~46）

出土した遺物包含層の石器は、廃棄された原位置を保っていないため、その変遷を層位別に検討することは難しい。また出土点数も少ないので、平成20・21年度調査資料とあわせて分析し、後日に報告したい。

##### 石器

石鏸 5 点、尖頭器 2 点、石匙 3 点、石錐 4 点、石箋 2 点、楔形石器 8 点、不定形石器 12 点、石斧 2 点、礫石器類の石皿 3 点・円石 3 点・砥石 2 点、磨石 9 点を図示したほか、石核 11 点、剥片 199 点がある。剥片石器の石材には頁岩・珪質頁岩・黒色頁岩・珪質凝灰岩・黒曜石・碧玉・鉄石英・玉髓などがあり、うち珪質頁岩・黒色頁岩・珪質凝灰岩が多用される。また、礫石器の石材には安山岩・石英安山岩・凝灰岩・玄武岩・凝灰質安山岩・片麻岩・ディサイトなどがあり、うち安山岩・石英安山岩・凝灰岩が多用される。

##### 石製品

石刀 2 点、円盤 1 点を図示したほか、石棒 1 点と剥片がある。石材は粘板岩・凝灰岩がみられる。

#### ③動植物遺存体

動物はシカの歯 2 点・四肢骨 3 点、イノシシの歯 3 点・椎骨 1 点があるのみである。樹種・種実の同定と花粉・珪藻分析の詳細は、平成20・21年度調査資料とあわせて報告するが、植物は自然木のほか、クルミ・ドングリ・トチ・ニワトコなどの種実や種子が出土している（古代の森研究会2008b）。

#### （2）遺構・遺物包含層（第4図）

##### ①VI層の時期・その遺物の分布と出土量

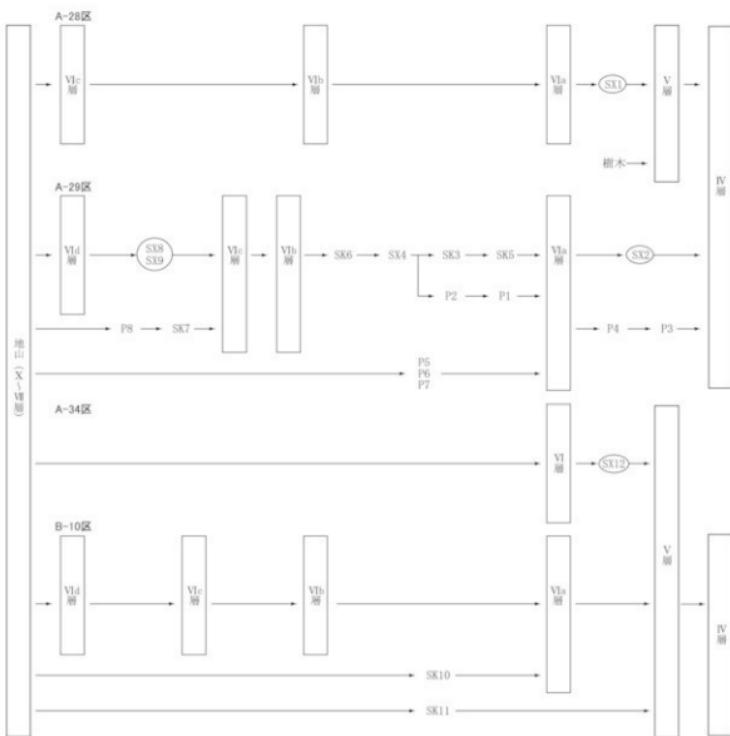
すべて晩期後葉に堆積したものである。ただし C-2 区は晩期前葉と中葉の土器が主体で晩期後葉の遺物が少ない点で特筆される。遺物の量は、愛宕山遺跡東部（B-10・11・28区）が最も多く、次いで諏訪遺跡東部（A-25・28・29区）、諏訪遺跡中央部（A-1・20区）・南部（C-2 区）、宮沼遺跡北東部（C-21区）の順となる。丘陵部・微高地の突端部付近の裾部に遺物の分布が集中し、遺構の分布とも重なる傾向がみられる。その一方で、諏訪遺跡中央部の北・南斜面や C-21 区以外の宮沼遺跡北斜面には遺物が少ない傾向がみられる。なお、特定の遺物や器種が特定の地点に集中してい

ると考えられた例はなかった。

一方、VI層に含まれていた晩期後葉より古い遺物は、C-2区を除いてわずかであり、他には早期末から前期初頭の土器（B-10区東部）、後期中葉の土器（A-28区）、後期後葉の土器（A-29区）、晩期前葉（A-1・A-20区）と中葉の土器（A-1）などがわずかにあるだけである。

#### ②遺構の時期とその分布（第70図）

第70図は遺構と遺構面との重複関係を整理したものである。遺構はすべて晩期後葉と考えられる。A-28区ではVIa層上面で焼面1箇所（SX1）、A-29区ではVIa層上面で土坑1基（SK7）とピット4基（Pit 5～8）、VIb層上面で焼面2箇所（SX8・9）、VIb層上面で土坑3基（SK3・5・6）・堅穴



※SKは土坑。○は焼面。Pはピット。SX4は堅穴状遺構である。  
※各調査区のVI層の細分層は各々異なり、同一の層ではない。

第70図 遺構とVI層の重複関係

状遺構 1 基 (SX4)、ピット 2 基 (Pit1・2)、VI a 層上面で焼面 1 箇所 (SX2)・ピット 2 基 (Pit3・4) を、A-34 区は VI 層上面で焼面 1 箇所 (SX12)、B-10 区は IX 層上面で貯蔵穴を再利用した土坑 1 基 (SK10) と土坑 1 基 (SK11) をそれぞれ検出した。A-28 区 SX1 焼面と A-34 区 SX12 焼面は、丘陵に近い緩斜面に形成されている。SX1 は遺物が多い範囲よりも丘陵側に、SX12 は遺物が多い範囲と重なる位置にある。

### (3) 遺物包含層・遺構の形成環境

#### ①廃棄の場の位置

出土したほとんどの遺物は、付近の丘陵や微高地の土砂などとともに流されてきたもので、廃棄された原位置を特定するのは難しい。ただし、A-29 区北部の SK5 は土器、B-10 区東部の SK10 は土器・石器・焼けた獸骨などがまとめて捨てられていた土坑で、A-25 区東部の VIc 層はニワトコなどの加工後の種実が廃棄されており、食糧残渣の廃棄の場であったと考えられている（古代の森研究会 2008 b）。すなわち A-29 区北部や B-10 区東部、A-25 区は晩期後葉の廃棄の場であったと考えられる。そして、この A-25 区 VIc 層では、多くの遺物が微高地や丘陵に近い範囲にまとまるので、微高地や丘陵側から廃棄されたと考えられる。さらにこのような、微高地や丘陵に近い範囲に磨耗の少ない遺物がまとまるという状況は A-1 区 VIa 層・A-28 区 VIa 層、B-10 区東部 VIa 層・28 区 VIa 層、C-2 区 VIa 層、C-21 区西部 VIb 層でもみられるので、各面は微高地や丘陵側にあった晩期後葉の廃棄の場に近接していた可能性が高いと考えられる。一方で、少量の遺物が散在してそのまとまりが明確でない地点のように、上記のような傾向が確認されなかった地点は、より廃棄の場までの距離が遠かったと推定されるが、各調査区内では明確にできず詳細は不明である。今後の調査成果ともあわせて再検討したい。

#### ②集落の立地

一方、VI 層から出土した多くの晩期後葉の遺物や、A-29 区のように各遺構面で晩期後葉の土坑や焼面・ピットが検出されたという状況は、晩期後葉を通じていろいろな場所で人々が継続的に活動していたことを反映しているとみられる。また前述したように、低丘陵や微高地側の裾部に廃棄の場や貯蔵穴・焼面などの遺構が集中している状況とあわせると、その低丘陵や微高地上には集落が営まれていたと考えられる可能性が高い。

そこで集落が営まれていた場所を検討すると、愛宕山遺跡東部 (B-10・11・28 区) では B-10 区の西隣の丘陵平坦面や B-10 区の北隣の沖積地、諏訪遺跡東部 (A-25・28・29 区) では中央の微高地平坦面、諏訪遺跡中央部 (A-1・20 区) では諏訪神社がある丘陵平坦面、諏訪遺跡南部 (C-2 区) では西隣の宅地がある丘陵平坦面、宮沼遺跡北東部 (C-21 区) では南隣の丘陵平坦面などの可能性が考えられ、丘陵部や微高地の突端部付近に集落が分布するという傾向がみられる。そしてその集落は、廃棄された遺物の時期が諏訪遺跡南部 (C-2 区) を除くほぼすべての地点で晩期後葉が主体となるので、晩期後葉が最盛期であったと考えられる。また時期別にみると、晩期中葉の集落は諏訪遺跡南部 (C-2 区) だけであったが、後葉の集落は他の各地点にも広がるようになる。集落の立地は時期によって多少異なっていたと考えられる。

ただし、愛宕山遺跡東部・諏訪遺跡中央部・南部、宮沼遺跡北東部の丘陵はその一部を造成して田畠や宅地が作られており、その丘陵にあった集落は削平されている可能性もある。さらに諏訪遺跡東部の微高地平坦面についても、平成16年度の旧田尻町教育委員会の確認調査では、表土直下はX層で、遺構や遺物も発見されなかった。おそらくこの微高地にあった集落は過去の開田によって大きく削平されたと考えられる。

なお、これらの集落の周辺にはクリの純林が形成されており（古代の森研究会2008b）、その周囲は湿地（A-1・28区）や湿地・沼沢地（B-28区）、水深2m以上の湖沼（B-10区東部）などとなっていたと考えられている（古代の森研究会2008a・2009）。

## 2. 弥生時代以降

### （1）遺物

古代の土師器・須恵器・瓦などが整理用平箱で1箱出土した。弥生時代の青木烟式の高杯・榊形圓式の甕、古代の灰釉陶器・須恵器・土師器・平瓦・丸瓦を示した。ほとんどは8～9世紀代で、弥生時代は上記の2点のみ、古墳時代の遺物は出土しなかった。遺物の分布は縄文時代晚期後葉と同様に、愛宕山遺跡東部の丘陵東突端付近、諏訪遺跡東部の微高地の東突端付近にあるが、さらに宮沼遺跡北部の北斜面にも広がるようになる。

### （2）基本層・遺構

基本層について、まずV層は短時間に堆積した洪水性の堆積層で、縄文時代晚期後葉と弥生時代前期の遺物が含まれる。次にIV層は沼地の堆積物で（古代の森研究会2008a）、縄文時代晚期後葉から古代の遺物が含まれている。またIII層は10世紀前葉頃に降下した灰白色火山灰とされている（町田1987、宮城県多賀城跡調査研究所1998）。なお、II層はIV層と同様の沼地の堆積物で遺物は出土しなかった。したがってV層は弥生時代前期から古代以前、IV層は古代から10世紀前葉、II層は10世紀前葉以降とすべきであるが、V層はVI層との時間差が短く、比較的短期間で堆積した層と考えられるここと、その上面から弥生時代の青木烟式の高杯が出土していることから、その形成された時期は弥生時代前期とし、IV層はそれ以降から10世紀前葉にかけて形成されたとみておきたい。

なお遺構について、古代の河川がD-30区で検出されたほかはすべて近世以降の溝で、旧耕作地の水路であったとみられる。

### （3）遺物の分布と遺構の形成環境（第70図）

また少量の遺物の分布は、縄文時代晚期後葉ほど活発ではないものの、これらの丘陵や微高地での人々の活動を反映していると考えられる。8～9世紀代の遺物が多い状況は、沖積地を挟んだ東の丘陵にある新田柵跡との密接な関連を想起させる。

なお、その低丘陵や微高地には、縄文時代晚期に形成されたクリを中心とする落葉広葉樹林は衰退し、かわってコナラ亜属を主とする落葉広葉樹林、その後にクマシデ属・アサダ属とコナラ亜属を中心とする落葉広葉樹林が形成され、その周囲は沼や湿地（A-28区）となっていたとの指摘がある（古代の森研究会2008a）。

## 第VI章　まとめ

### 【縄文時代】

1. 低丘陵や微高地などの現地形の出入りは、晩期の地形の出入りをおおよそ反映したものである。周辺の環境は、低丘陵や微高地にはクリの純林が形成され、その周辺で現在の沖積低地下にあたる場所には湿地や沼沢地、湖沼が広がっていたと考えられた。
2. 湖沼や湿地の縁で、低丘陵の斜面の裾部から、晩期の堅穴状遺構1基、土坑6基、焼面5箇所、ピット7基が発見されたほか、低湿性の遺物包含層が多くの地点で検出され、それが沼地へ広がることが判明した。
3. 遺構はすべて晩期後葉である。ほとんどが丘陵に近い緩斜面に形成されており、遺物が多く分布する範囲と近接する傾向がみられる。
4. 遺物包含層（VI層）や遺構から出土した遺物は、深鉢・浅鉢・壺などの土器類、土偶などの土製品、石鎚・石錐・磨石などの石器類、石刀などの石製品類、自然木・種子や種実・獸骨などの動植物遺存体がある。
5. 遺物の多くは廃棄の場の原位置を保ったものではない。ただし、微高地や丘陵側にあった廃棄の場の原位置に近接していたと考えられる例もみられた。
6. 遺物包含層（VI層）はすべて晩期後葉に堆積したもので、遺物の時期はC-2区を除いて晩期後葉が主体となる。C-2区は晩期前葉と中葉の土器で晩期後葉の遺物が主体となる点で特筆される。
7. 集落はいずれも丘陵部・微高地の突端部の平坦面に分布する。
8. 遺構の検出状況や遺物の出土状況の検討から、集落の位置は愛宕山遺跡では東部の丘陵平坦面やB-10区の北隣の沖積地、諏訪遺跡東部では中央の微高地平坦面、諏訪遺跡中央部では諏訪神社がある丘陵平坦面、諏訪遺跡南部ではC-2区西隣の宅地がある丘陵平坦面、宮沼遺跡北部ではC-21区南隣の丘陵平坦面であったと考えられる。
9. 丘陵部・微高地の突端部は遺物量と遺構が多い。
10. 集落は晩期中葉の諏訪遺跡南部（C-2区）を除いて、晩期後葉が最盛期であったと考えられる。時期別にみると、晩期中葉の集落は諏訪遺跡南部（C-2区）だけであったが、後葉の集落は他の各地点にも広がるようになる。集落の立地は時期によって多少異なっていたと考えられる。

### 【弥生時代以降】

1. 低丘陵や微高地などの現地形の起伏は、縄文時代晩期と同様に、地形の起伏をおおよそ反映したものであり、現在の沖積低地の下には、弥生時代前期に起きた洪水のあとに、再び沼や湿地が広がっていた。
2. この低丘陵や微高地にはクリを主体とする落葉広葉樹林は衰退し、かわってコナラ亜属を中心とする落葉広葉樹林、続いてクマシデ属-アサダ属とコナラ亜属を中心とする落葉広葉樹林が形成された。

3. 遺構は古代の河川1条と近世以降の溝4条である。
4. 遺物は弥生時代の青木烟式の高杯・榤形圓式の壺、8~9世紀代の灰釉陶器・須恵器・土師器・平瓦・丸瓦が少量出土したのみである。
5. 遺物の分布は縄文時代晚期後葉と同様に、愛宕山遺跡東部の丘陵東突端付近、諏訪遺跡東部の微高地東突端付近にあるが、さらに宮沼遺跡北部の北斜面でもみられるようになる。

### 引用文献

- 会田容弘 1979 「東北地方における縄文時代終末期以降の土偶の変遷と分布」『山形考古』3巻2号
- 磯崎正彦 1964 「晩期縄文式土器」『日本原始美術』1 講談社
- 伊東信雄 1957 「古代史」『宮城県史』1
- 伊東信雄・須藤隆 1985 「山王圓遺跡調査図録」宮城県一迫町教育委員会
- 岡村道雄 2002 「日本の歴史01縄文の生活誌」(改訂版) 講談社
- 興野義一 1959 「江合川流域の石器時代文化」『仙台郷土研究』19~3
- 古代の森研究会 2008a 「大崎市北小松遺跡ほかにおける土壤試料採取及び採取した試料の花粉・珪藻分析」(未発表:後日報告)
- 古代の森研究会 2008b 「北小松遺跡出土の樹種・種実同定分析」(未発表:後日報告)
- 古代の森研究会 2009 「北小松遺跡より出土した大型植物化石」(未発表:後日報告)
- 佐藤祐輔 2008 「縄文時代晚期後半の蓋形土器」「研究紀要」第5号財團法人山形県埋蔵文化財センター
- 設楽博己 1991 「最古の壺棺再葬墓 - 棚古屋遺跡の再検討 - 」『国立歴史博物館研究報告』第36集
- 鈴木正弘 1987 「続大洞A式考」「古代」84早稲田大学
- 須藤 隆 1998 「東日本における弥生文化の受容」「東北日本先史時代文化変化・社会変動の研究」纂堂
- 高橋 埋 1986 「中沢貝塚及び北小松遺跡出土人骨」「中沢貝塚-第3次調査概報-」東北大文学部考古学研究会 東北歴史資料館
- 1983 「里浜貝塚II」東北歴史資料館資料集7
- 中村五郎 1988 「大洞A式とその周辺」「弥生文化の曙光」未収
- 藤村東男 1980 「大洞諸型式設定に関する二、三の覚書」「考古風土記」5
- 町田 洋 1987 「火山灰とテフラ」「日本第四紀地図」
- 宮城県教育委員会 1980 「宮沢遺跡」「東北自動車道遺跡調査報告書Ⅲ」宮城県文化財調査報告書第69集
- 1985 「香の木遺跡」「色麻古墳群」宮城県文化財調査報告書第103集
- 2005 「北小松遺跡」「壇の越遺跡ほか」宮城県文化財調査報告書第202集
- 宮城県多賀城跡調査研究所 1999 「宮城県多賀城跡調査研究所年報1997」
- 山内清男 1930 「所謂亀ヶ岡式土器の分布と縄文式土器の終末」「考古学」1~3

### 参考文献

- 大阪 拓 2009 「大洞A2式土器の再検討-山形県天童市砂子田遺跡・山形市北柳2遺跡出土土器群の編年的位置-」「考古学集刊」第5号
- 佐藤嘉弘 1996 「東北地方の弥生土偶」「考古学雑誌」81~2
- 田部井功 1993 「大洞A式に関する覚書」「古代」95早稲田大学
- 「土偶とその情報」研究会 1996 「東北・北海道の土偶-亀ヶ岡文化の土偶-」土偶シンポジウム5宮城大会
- 高瀬克範 2000 「東北地方における弥生土器の形成過程」「国立歴史博物館研究報告」第83集
- 日本考古学協会 2001 年度盛岡大会実行委員会2001「亀ヶ岡文化-集落とその実体-晩期遺構集成」I・II
- 宮城県教育委員会 1990 「摺萩遺跡」宮城県文化財調査報告書第132集1994

藤村東男 1994 「縄文土器組成論」「縄文文化の研究」5 雄山閣  
山形県埋蔵文化財センター 2003 「砂子田遺跡第2・3次発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財センター調査報告書第113集  
山内清男 1932 「日本遠古之文化」ドルメン第一巻



現地説明会の様子：遺物説明

調査区	道路 記号	調査 箇所	発掘 面積	調査面	見易い出深 度と標高	土層堆積状況	見易い遺物出土状況	遺構	遺物	備考
A-1	R1	事前	80.4	V層	27.3~14.9 14.55~15.75	耕作土下でⅢ~V層を確認。Ⅲ層は西から東へ傾きに傾斜する山地に沿って、厚さ0.2~0.4mの黒褐色粘土層が自然堆積する。西から東へと厚くなり、土色も黄褐色から黒褐色へと変化する。	Ⅲ層から比較的多く出土した。多くは小破片の状態で縞状面に散らばっている。Ⅲ層では西の丘陵に近い位置にまとまる傾向がみられる。	なし	縞文土器・石器	前期後葉の遺物包含層。
A-2		事前	39.3	V層	確認できず	耕作土下でⅢ~V層を確認。深さ2.88m(標高11.06m)まで見易い層は確認できます。		なし	なし	
A-3		事前	77.8	V層	確認できず	耕作土下でⅢ~V層を確認。深さ0.96m(標高16.17m)まで見易い層は確認できます。		なし	なし	
A-4		事前	64.9	V層	確認できず	耕作土下でⅢ~V層を確認。深さ1.96m(標高15.13m)まで見易い層は確認できます。		なし	なし	
A-5		事前	49.9	V層	確認できず	耕作土下でⅢ~V層を確認。深さ1.16m(標高16.17m)まで見易い層は確認できません。		なし	なし	
A-6		事前	27.5	V層	確認できず	耕作土下でⅢ~V層を確認。深さ5.38m(標高16.01m)まで見易い層は確認できます。		SD1001	なし	
A-7		事前	99.7	V層	確認できず	耕作土下でⅢ~V層を確認。深さ2.01m(標高16.54m)まで見易い層は確認できません。		なし	なし	
A-8		事前	A-6と 統合	V層	確認できず	耕作土下でⅢ~V層を確認。深さ2.09m(標高16.47m)まで見易い層は確認できます。		SD1001	なし	SD1001は近代 以前の水路。
A-9		事前	6.1	V層	確認できず	耕作土下でⅢ~V層を確認。深さ1.50m(標高15.07m)まで見易い層は確認できます。		なし	なし	
A-10		事前	16.5	V層	確認できず	耕作土下でⅢ~V層を確認。深さ1.24m(標高15.89m)まで見易い層は確認できます。		なし	なし	
A-11		事前	16.2	V層	確認できず	耕作土下でⅢ~V層を確認。深さ1.22m(標高15.75m)まで見易い層は確認できます。		なし	なし	
A-12		事前	16.6	V層	確認できず	耕作土下でⅢ~V層を確認。深さ1.16m(標高15.79m)まで見易い層は確認できます。		なし	なし	
A-13		事前	110.9	V層	確認できず	耕作土下でⅢ~V層を確認。深さ1.88m(標高14.97m)まで見易い層は確認できます。		なし	なし	
A-14		確認	99.2	V層	確認できず	耕作土下でⅢ~V層を確認。深さ1.42m(標高15.47m)まで見易い層は確認できます。		なし	なし	
A-15		確認	44.6	V層	確認できず	耕作土下でⅢ~V層を確認。深さ1.45m(標高15.37m)まで見易い層は確認できます。		なし	なし	
A-16		確認	81.1	V層	確認できず	耕作土下でⅢ~V層を確認。深さ1.46m(標高15.44m)まで見易い層は確認できます。		なし	なし	
A-17		確認	83.1	V層	確認できず	耕作土下でⅢ~V層を確認。深さ1.46m(標高15.35m)まで見易い層は確認できます。		なし	なし	
A-18		確認	4.5	V層	確認できず	耕作土下でⅢ~V層を確認。深さ2.04m(標高14.68m)まで見易い層は確認できません。		なし	なし	
A-19		確認	5.2	V層	確認できず	耕作土下でⅢ~V層を確認。深さ2.04m(標高14.68m)まで見易い層は確認できません。		なし	なし	
A-20	R1	確認	51.2	V層	16.6~0.32 15.58~17.00	耕作土下でⅢ~V層を確認。Ⅲ層は植生遺作を含む厚さ3.03m(標高15.15m)で西から東へ傾斜する。西から東にかけて、cの3層間に傾斜して分かれ、それぞれc1、c2、c3の3層に分かれ。それ以上東側ではほとんど認められなかった。	多くは小破片の状態で縞状面に散らばっており、遺物が集まっている場所はほとんど認められなかった。	なし	縞文土器・石器・石製品	前期後葉の遺物包含層。
A-21	R1	確認	13.6	V層	13.2~0.27 15.74~16.36	耕作土下でⅢ~V層を確認。Ⅲ層はハンドスレーパーのデーターリング調査で深さ3.76m(標高15.38m)で確認。厚さ0.16mほどの黒色粘土層で、表面に繊維質で構成している。	数点が散らばっていたのみである。	なし	縞文土器・石器	前期の遺物包含層。
A-22	R1	確認	7.2	V層	1.26 15.38	耕作土下でⅢ~V層を確認。Ⅲ層は厚さ0.10~0.16mほどの黒色粘土層で、表面に繊維質で構成している。		なし	なし	

附表1 調査状況一覧（1）

附表1 調查狀況一覽（2）

調査区	道路 記号	調査 員	発掘 面積	調査面	見跡検出深 度と高さ	土層堆積状況	見跡遺物出土状況	遺構	遺物	備考
B-3	確認	65.9	VI層		0.26	耕作下上でⅢ～Ⅴ層を確認。Ⅴ層は厚さ0.26m（標高17.12m）で確認。厚さ0.09mほど堆積している。		なし	なし	
					17.12					
B-4	確認	20.6	IV層		1.59	耕作下上でⅢ～Ⅴ層を確認。Ⅴ層はハンディドーザによるボーリング調査で厚さ1.59m（標高16.05m）で確認。Ⅳ層とともに厚さ0.14mほど堆積している。		なし	なし	
					16.05					
B-5	確認	17.4	II層	確認できず		耕作下上でⅢ～Ⅴ層を確認。深さ1.0m（標高16.63m）までⅤ層は確認できず。		なし	なし	
B-6	確認	17.2	II層	確認できず		耕作下上でⅢ～Ⅴ層を確認。深さ3.42m（標高13.66m）までⅤ層は確認できず。		なし	なし	
B-7	RJ	確認	24.9	VI層	1.93	耕作下上でⅢ～Ⅴ層を確認。Ⅴ層は厚さ0.93m（標高15.29m）で確認。Ⅳ層を含め厚さ0.28mほど堆積している。		なし	なし	
					15.29					
B-8	RJ	確認	29.5	IV層	1.95	耕作下上でⅢ～Ⅴ層を確認。深さ1.95m（標高15.23m）で確認。深さ2.34mまで調査。		なし	なし	
					15.23					
B-9	RJ	確認	65.1	VI層	1.08	耕作下上でⅢ～Ⅴ層を確認。Ⅴ層は厚さ1.08m（標高16.05m）で確認。Ⅳ層とともに厚さ0.34mほど堆積している。		なし	なし	
					16.05					
B-10W	RJ	確認		VI層	0.57～0.23	耕作下上でⅢ～Ⅴ層を確認。Ⅴ層は赤から青色で地表近くで堆積している。並葉形孢子よりも角形孢子で厚さ0.10～0.15mでスコモを多く含む。	多くは小球形の状態で碳酸鈣に數らばっており、遺物小品は見つかっていない。	非クロロ土器 器・構造土器 器・純土器 器・ニチュア・石 器	晚期後業の遺 物包含層と主 流。	
					16.27～17.02					
B-10東	RJ	確認		VI層	1.33～0.30	耕作下上でⅢ～Ⅴ層を確認。Ⅴ層は南東方向へ傾斜する地形上にあって厚さ0.30～0.35mで堆積している。土色・土質によりa～dの4種に分離される。	a層とb層から比較的多く出土した。多くは小球形の状態で碳酸鈣に數らばっており、c層とd層ではa層より多く出土する。	非クロロ土器 器・構造土器 器・純土器 器・上鏡・粘土 器・石器	晚期後業の遺 物包含層と主 流。	
					15.36～16.49					
B-11	RJ	確認	1117	VI層	1.75～0.68	耕作下上でⅢ～Ⅴ層を確認。Ⅴ層は厚さ0.2～0.3mで表面へ碳酸鈣が析出しながら堆積している。	a層とb層から比較的多く出土した。多くは小球形の状態で碳酸鈣に數らばっており、c層とd層ではa層より多く出土する。	魂文土器 器・ノーン型土 器・石器・石製品 ・イノシシの 歯	晚期後業の遺 物包含層。	
					14.72～15.86					
B-12	RJ	確認	24.2	V層	確認できず	耕作下上でⅢ～V層を確認。深さ2.38m（標高14.16m）までⅤ層は確認できず。		なし	なし	
B-13	RJ	確認	25.8	IV層	確認できず	耕作下上でⅢ～V層を確認。深さ2.04m（標高14.47m）までⅤ層は確認できず。		なし	なし	
B-14	確認	22.5	V層	確認できず		耕作下上でⅢ～V層を確認。深さ1.3m（標高15.21m）までⅤ層は確認できず。		なし	なし	
B-15	事前	16.4	II層	確認できず		耕作下上でⅢ～V層を確認。深さ2.08m（標高14.87m）までⅤ層は確認できず。		なし	なし	
B-16	事前	10.8	II層	確認できず		耕作下上でⅢ～V層を確認。深さ2.26m（標高14.38m）までⅤ層は確認できず。		なし	なし	
B-17	事前	7	II層	確認できず		耕作下上でⅢ～V層を確認。深さ2.36m（標高14.18m）までⅤ層は確認できず。		なし	なし	
B-18	事前	6.5	II層	確認できず		耕作下上でⅢ～V層を確認。深さ2.02m（標高14.42m）までⅤ層は確認できず。		なし	なし	
B-19	確認	15.6	II層	確認できず		耕作下上でⅢ～V層を確認。深さ2.02m（標高15.22m）までⅤ層は確認できず。		なし	なし	
B-20東	RJ	確認		VI層	0.83～0.56	耕作下上でⅢ～V層を確認。Ⅴ層は厚さ0.05～0.10mでやや花崗岩に堆積している。やや砂の混じった黑色粘土層である。	頂点が数らばっていいたのみである。	魂文土器	晚期の遺物混 合層か。	
					16.40～16.54					
B-20西	RJ	確認		VI層	0.45～0.28			魂文土器		
					16.65～16.88					

附表1 調査状況一覧（3）

調査区	道路 記号	調査 員	発掘 面積	調査面	見跡検出深 度と高さ	土層堆積状況	見跡遺物出土状況	遺構	遺物	備考
B-21	R1	確認	589	VI層	0.40~0.16 16.26~17.02	耕作土下でV~Ⅲ層を確認。VI層は厚さ0.1~0.3mでやや北西に傾斜している。黒色の粘土層である。	點が散らばっていたのみである。	なし	調文土器	前期の遺物含層か。
B-22	R1	確認	564	VI層	0.72~0.31 16.28~16.94	耕作土下でV~Ⅲ層を確認。VI層は厚さ0.1~0.2mでやや北東に傾斜している。砂を少し含む黒色の粘土層である。	點が散らばっていたのみである。	なし	調文土器・歩道 上・土偶・石器	前期後葉の遺 物含層。
B-23	R1	確認	666	VI層	0.65~0.17 16.30~17.05	耕作土下でⅢ~Ⅳ層を確認。VI層は厚さ0.1mでやや北西に傾斜して堆積している。砂を少 し含む黒色の粘土層である。	點が散らばっていたのみで ~0.2mで北西に傾斜して堆積している。砂を少 し含む黒色の粘土層である。	なし	調文土器	前期の遺物含 層か。
B-24	R1	確認	1218	VI層	218~0.13 14.88~16.85	耕作土下でⅢ~Ⅴ層を確認。VI層は厚さ0.1m以 て東方に傾斜している。黒褐色の粘土層である。	點が散らばっていたのみで ある。	ピット	調文土器	時期不明の Pit。
B-25	R1	確認	87	II層	確認できず	耕作土下でⅡ~Ⅲ層を確認。深さ1.97m(標高14.55m)まで目視は確認できず。		なし	なし	
B-26	確認	9.3	II層	確認できず	耕作土下でⅡ~Ⅲ層を確認。深さ2.04m(標高 14.58m)までVI層は確認できず。			なし	須恵器	
B-27	RJ	確認	B10と 統合	IV層 VI層	0.11 16.74	耕作土下でⅢ~VI層を確認。VI層は標高16.70m前 後に地山に沿って堆積している。	點が散らばっていたのみで ある。	なし	調文土器・石器	前期の遺物含 層か。
B-28	RJ	確認	B10と 統合	VI層	1.7~0.18 15.20~16.78	耕作土下でⅢ~VI層を確認。VI層は厚さ0.1~ 0.35mで北東へ傾斜しながら堆積している。砂を含む土色。上質によつてcal2dateの6層 に細分される。	点から比較的多く出土した。 多くは小粒片や砂粒で、耕作面 には多少の堆積している。VI層では 砂を含む土色。上質によつてcal2dateの6層に 細分される。	なし	土師器・調文土 器・土偶・土器 チア・無品・石 器・石製品	前期後葉の遺 物含層。
B-29	RJ	確認	B10と 統合	IV層 VI層	0.24 16.86	耕作土下でⅢ~VI層を確認。VI層は標高16.96m前 後に地山に沿って堆積している。	點が散らばっていたのみで ある。	なし	調文土器・土師 器・石器	前期の遺物含 層か。
C-1	RJ	季前	24.2	VI層	1.87~1.31 15.39~16.16	耕作土下でⅢ~Ⅳ層を確認。VI層はV~Ⅳ層と ともに北東へ傾斜しながら堆積している。厚さ0.20~ ~0.30mで2層に細分される。	點が散らばっていたのみで ある。	なし	調文土器	前期の遺物含 層か。
C-2北	RJ	季前		VI層	2.21~0.47 14.79~17.03 214.7	北側:耕作土下でⅢ~Ⅳ層を確認。VI層は薄青 色の無釉陶片から北東に傾斜しながら堆積して いる。厚さ0.05~0.20mの粘土層上で白色 の土の反覆に近く、範囲にま とまる傾向がある。	点から比較的多く出土した。 多くは小粒片や砂粒で、耕作面 には多少の堆積している。VI層では 砂を含む土色。上質によつてcal2dateの6層に 細分される。	なし	須恵器・土師 器・土偶・土器 チア・無品・石 器	前期後葉の遺 物含層。
C-2南	RJ	季前		VI層	2.30~0.37 14.86~17.03	南斜面:耕作土下でⅢ~Ⅳ層を確認。VI層は薄青 色の無釉陶片から北東に傾斜しながら堆積して いる。厚さ0.05~0.20mの粘土層上で白色 の土の反覆に近く、範囲にま とまる傾向がある。	点から比較的多く出土した。 多くは小粒片や砂粒で、耕作面 には多少の堆積している。VI層では 砂を含む土色。上質によつてcal2dateの6層に 細分される。	なし	須恵器・土師 器・土偶・土器 チア・無品・石 器	前期後葉の遺 物含層。
C-3	RJ	季前	12.2	IV層	確認できず	耕作土下でⅢ~IV層を確認。深さ1.94m(標高 14.72m)までVI層は確認できず。		なし	なし	
C-4	季前	10.7	II層	確認できず	耕作土下でⅢ~IV層を確認。深さ2.10m(標高 14.36m)までVI層は確認できず。			なし	須恵器	
C-5	季前	6.8	II層	確認できず	耕作土下でⅢ~IV層を確認。深さ2.30m(標高 14.01m)までVI層は確認できず。			なし	なし	
C-6	季前	5.2	II層	確認できず	耕作土下でⅢ~IV層を確認。深さ2.08m(標高 14.34m)までVI層は確認できず。			なし	なし	
C-7	RJ	確認	33	VI層	2.20~1.50 14.68~15.22	耕作土下でⅢ~Ⅳ層及び表層を確認。VI層は北 から南へ傾斜しており、厚さ0.30mほどで 堆積している。みづの2層に細分されおり 灰黄色の土色を含む粘土層の層である。	点が散らばっていたのみで ある。	なし	調文土器	前期の遺物含 層か。
C-8	RJ	確認	30.8	VI層	2.30 14.49	耕作土下でⅢ~IV層を確認。VI層は厚さ2.40m (標高14.49m)で確認。VI層とともに厚さ0.1m以 て堆積している。		なし	なし	
C-9	RJ	確認	23.7	VI層	確認できず	耕作土下でⅢ~IV層を確認。深さ1.30m(標高 15.56m)までVI層は確認できず。		なし	なし	
C-10	季前	9.4	II層	確認できず	耕作土下でⅢ~IV層を確認。深さ2.10m(標高 14.72m)までVI層は確認できず。			なし	なし	

附表1 調査状況一覧 (4)

調査区	道路 記号	調査 箇所	発掘 面積	調査面 積	見付埋蔵深 度と標高	土層堆積状況	見付遺物出土状況	遺構	遺物	備考
C-11		事前	13.5	V層	確認できず	耕作土下でⅡ～V層を確認。深さ2.50m(標高14.50m)まで見付は確認できず。		なし	土器器	
C-12		事前	37.5	V層	1.60	耕作土下でⅢ～V層を確認。V層は軟ねじ層		なし	なし	範囲の遺物含層か。
					15.30	で厚さ約1.50m(標高15.50m)で確認。厚さ約0.38mほど堆積し、3層に細分されている。				
C-13	RK	確認	104.8	V層	1.13～0.37	耕作土下でⅢ～V層を確認。V層は軟ねじ層と堆積の間に厚さ0.10～0.14mでやや北西に傾斜している。	数点が散らばっていたのみである。	なし	織文土器・石器・石製品	範囲の遺物含層か。
					16.21～17.53					
C-14	RK	確認	62.2	V層	1.36～0.53	耕作土下でⅢ～V層を確認。V層は南から北へ傾斜しており、厚さ約0.15～0.30m層である。	数点が散らばっていたのみである。	なし	遺壙・平瓦・織文土器・石器	範囲後業の遺物含層。
					16.30～17.20					
C-15	RK	確認	140	V層	0.96～0.21	耕作土下でⅢ～V層を確認。V層は耕作区の内側に位置し、南から北へ傾斜している。厚さ約0.10m(標高15.52m)で確認。南から北に地山に沿って傾斜しながら、厚さ約0.16mほど堆積している。黒色の粘土質層である。	数点が散らばっていたのみである。	なし	遺壙・土器器・丸瓦・織文土器・石器	範囲の遺物含層か。
					16.64～17.49					
C-16	RK	確認	79.8	V層	残存せず	耕作土下でⅢ～V層を確認。深さ0.70m(標高16.58m)まで見付は確認できず。	数点が散らばっていたのみである。	なし	織文土器	
C-17	RK	確認	201.1	V層	1.03	耕作土下でⅢ～V層を確認。V層は深さ1.03m(標高15.52m)で確認。南から北に地山に沿って傾斜しながら、厚さ約0.16mほど堆積している。	数点が散らばっていたのみである。	なし	遺壙・灰陶陶器・土器・石器・盆生土器	V層からの出土遺物はない。
					16.32					
C-18	RK	確認	30.7	V層	確認できず	耕作土下でⅢ～V層を確認。深さ2.05m(標高15.16m)まで見付は確認できます。		なし	土器器	
C-19	RK	確認	78.5	V層	2.30	耕作土下でV～VI層を確認。ハンドオーバーによってV層は耕作区の内側に位置する。V層はV層とと思われる層を確認。スカラボを含む上層と砂層の2層に細分される。	数点が散らばっていたのみである。	なし	織文土器	範囲後業の遺物含層。
					14.79					
C-20	RK	確認	42.1	V層	1.28～0.63	耕作土下でV～VI層を確認。VI層は東から西へ傾いて傾きや少し傾斜している。厚さ約2.0～3.0mの黒褐色またはオリーブ色の粘土色及びシルト質粘土の層a～cの間に細分される。	数点が散らばっていたのみである。	なし	遺壙・土器器・織文土器・石器	範囲後業の遺物含層。
					15.81～16.51					
C-21東	RK	確認		VI層	1.97～1.60	耕作土下でV～VI層を確認。VI層は東から西へ傾いて傾きや少し傾斜している。厚さ約2.02～2.06mの黒褐色シルト質粘土の層a～cの間に細分される。	b層から比較的多く出土した。多くは小破片の状態で傾斜面に散らばっており、遺物が集中していた場所はほとんどみられなかった。	なし	織文土器	範囲後業の遺物含層か。
					15.29～15.66					
C-21西	RK	確認		VI層	215.6	耕作土下でV～VI層を確認。VI層は東から西へ傾いて傾きや少し傾斜している。厚さ約2.02～2.06mの黒褐色シルト質粘土の層a～cの間に細分される。	b層から比較的多く出土した。多くは小破片の状態で傾斜面に散らばっている。他の丘陵に比べて組成にまとまる傾向があつた。	なし	織文土器	範囲後業の遺物含層か。
					1.22～0.90					
C-22		事前	34	V層	確認できず	耕作土下でV～VI層を確認。VI層は深さ1.75m(標高14.80m)まで見付は確認できず。		なし	土器器	
C-23		事前	81.5	V層	確認できず	耕作土下でV～VI層を確認。深さ1.82m(標高15.15m)まで見付は確認できず。		なし	なし	
C-24		確認	87.8	V層	確認できず	耕作土下でV～VI層を確認。深さ2.28m(標高14.71m)まで見付は確認できず。		なし	なし	

附表1 調査状況一覧（5）

調査区	道路 記号	調査 員	発掘 面積	調査面	見積り地盤深 度と地盤	土層堆積状況	見積り遺物出土状況	遺構	遺物	備考
C-25		確認	98.3	V層	確認できず	耕作土下でⅢ・V層を確認。深さ215m(標高1490m)まで見層は確認できず。		なし	なし	
C-26	R1	確認	44.9	V層	335 13.53	耕作土下でⅢ・V層を確認。Ⅲ層はハンドオーラーによるボーリング調査で厚さ3.35m(標高13.53m)で確認。Ⅲ層とともに厚さ0.08mほど堆積している。		なし	土層	
C-27西	R1	確認		V層	320 13.66	耕作土下でⅢ～Ⅴ層を確認。Ⅴ層はハンドオーラーによるボーリング調査で厚さ3.20m(標高13.66m)で確認。Ⅳ層とともに厚さ0.10mほど堆積している。		なし	鉄器・クロ 上部器	
C-27東	R1	確認		V層	833 284 14.05	耕作土下でⅢ～Ⅴ層を確認。Ⅴ層はハンドオーラーによるボーリング調査で厚さ5.24m(標高14.05m)で確認。Ⅳ層とともに厚さ0.40mほど堆積している。		なし		
C-28		確認	16	II層	確認できず	耕作土下でⅢ～Ⅴ層を確認。深さ1.87m(標高14.62m)までⅤ層を確認できず。		なし	なし	
C-29		確認	16.5	II層	確認できず	耕作土下でⅢ～Ⅴ層を確認。深さ1.98m(標高14.61m)までⅤ層を確認できず。		なし	なし	
C-30		確認	16.1	II層	確認できず	耕作土下でⅢ～Ⅴ層を確認。深さ1.74m(標高15.26m)までⅤ層を確認できず。		なし	なし	
C-31		確認	31.9	Ⅲ層	132 15.97	耕作土下でⅢ～Ⅴ層を確認。Ⅲ層は深さ1.32m(標高15.97m)で確認。厚さ0.15mほど堆積している。		なし	なし	
C-32	R1	確認	24.5	Ⅲ層	0.74 16.95	耕作土下でⅢ・Ⅳ層を確認。Ⅳ層は深さ0.74m(標高16.95m)で確認。厚さ0.36mほど堆積している。		なし	鐵文土器	
C-33	R1	確認	19.2	Ⅲ層	1.16 16.43	耕作土下でⅢ・Ⅳ層を確認。Ⅳ層は深さ1.16m(標高16.43m)で確認。厚さ0.22mほど堆積している。		なし	石器	晚期の遺物含むか。
D-1	事前	24.3	V層	確認できず	耕作土下でⅣ層を確認。深さ0.44m(標高17.00m)まで見層は確認できず。			なし	なし	
D-2	事前	22.5	V層	確認できず	耕作土下でⅣ層を確認。深さ2.02m(標高15.46m)まで見層は確認できず。			SD1005	なし	近世以降の赤 跡か。
D-3	事前	16.88	V層	確認できず	耕作土下でⅣ層を確認。深さ1.94m(標高15.39m)まで見層は確認できず。			なし	なし	
D-4	確認	19.6	V層	確認できず	耕作土下でV層を確認。深さ1.30m(標高15.74m)まで見層は確認できず。			なし	なし	
D-5	確認	38.2	V層	確認できず	耕作土下でV層を確認。深さ2.65m(標高14.30m)まで見層は確認できず。			なし	なし	
D-6	事前	18.5	V層	確認できず	耕作土下でV層を確認。深さ1.84m(標高15.29m)まで見層は確認できず。			なし	なし	
D-7	事前	48.6	V層	230 14.96	耕作土下でV・Ⅲ層を確認。Ⅲ層はハンドオーラーのボーリング調査で深さ3.20m(標高14.95m)で確認。Ⅲ・Ⅳの2層に細分されるが、堆积は深さ2.84m(標高14.41m)より下層に限る。			なし	なし	
D-8	事前	17.1	V層	確認できず	耕作土下でV層を確認。深さ1.06m(標高16.53m)まで見層は確認できず。			なし	なし	
D-9	事前	22.1	V層	確認できず	耕作土下でV層を確認。深さ1.20m(標高16.00m)まで見層は確認できず。			なし	なし	
D-10	事前	46.6	V層	確認できず	耕作土下でV層を確認。深さ1.48m(標高15.74m)まで見層は確認できず。			なし	なし	
D-11	事前	94.7	V層	200 15.18	耕作土下でV・Ⅲ層を確認。Ⅲ層はハンドオーラーのボーリング調査で深さ2.00m(標高14.95m)で確認。Ⅲ・Ⅳの3層に細分されるが、堆积は深さ2.40m(標高14.78m)より下層に限る。			なし	なし	

附表1 調査状況一覧 (6)

調査区	道路 記号	調査 箇所	発掘 面積	調査面	見易い堆积 深度と標高	土質堆积状況	見易い遺物出土状況	遺構	遺物	備考
D-12		事前	100.4	V層	確認できず	耕作土下でⅢ～V層を確認。Ⅲ層は5148m(標高15.77m)まで見易いは確認できず。		なし	縄文土器	縄文土器はV層から出土。
D-13		事前	84.9	V層	180 15.41	耕作土下でⅢ～V層を確認。Ⅲ層はハンドドリガーゲによるボーリング調査で深さ180m(標高15.41m)で確認。a-bの2層に細分されるが、堆积は深さ2.40m(標高14.81m)より下層に続く。		なし	なし	
D-14		事前	41.6	V層	184 15.39	耕作土下でⅢ～V層を確認。Ⅲ層はハンドドリガーゲによるボーリング調査で深さ184m(標高15.39m)で確認。a-bの2層に細分されるが、堆积は深さ2.94m(標高14.81m)より下層に続く。		なし	なし	
D-15		事前	69.5	V層	195 15.37	耕作土下でⅢ～V層を確認。Ⅲ層はハンドドリガーゲによるボーリング調査で深さ195m(標高15.37m)で確認。a-bの2層に細分されるが、堆积は深さ2.67m(標高14.67m)より下層に続く。		なし	なし	
D-16		事前	18.6	V層	238 15.06	耕作土下でⅢ～V層を確認。Ⅲ層はハンドドリガーゲによるボーリング調査で深さ238m(標高15.06m)で確認。a-bの4層に細分されるが、堆积は深さ2.67m(標高14.37m)より下層に続く。		なし	なし	
D-17		事前	57.1	V層	243 14.86	耕作土下でⅢ～V層を確認。Ⅲ層はハンドドリガーゲによるボーリング調査で深さ243m(標高14.86m)で確認。a-bの5層に細分されるが、堆积は深さ3.12m(標高14.75m)より下層に続く。		なし	なし	
D-18		事前	62.9	V層	276 14.43	耕作土下でⅢ～V層を確認。Ⅲ層はハンドドリガーゲによるボーリング調査で深さ276m(標高14.43m)で確認。a-bの4層に細分されるが、堆积は深さ3.28m(標高13.81m)より下層に続く。	Pt	なし		
D-19		確認	25	V層	309 14.35	耕作土下でⅢ～V層を確認。Ⅲ層はハンドドリガーゲによるボーリング調査で深さ309m(標高14.35m)で確認。a-bの6層に細分されるが、堆积は深さ3.56m(標高13.66m)より下層に続く。		なし	なし	
D-20		確認	27.6	V層	確認できず	耕作土下でV層を確認。標高17.104mまで見易いは確認できず。		なし	なし	
D-21		確認	38.5	V層	225 15.30	耕作土下でⅢ～V層を確認。Ⅲ層はハンドドリガーゲによるボーリング調査で深さ225m(標高15.30m)で確認。a-bの6層に細分されるが、堆积は深さ3.75m(標高13.75m)より下層に続く。		なし	なし	
D-22		確認	64.1	V層	218 15.30	耕作土下でⅢ～V層を確認。Ⅲ層はハンドドリガーゲによるボーリング調査で深さ218m(標高15.30m)で確認。a-bの4層に細分されるが、堆积は深さ2.74m(標高14.74m)より下層に続く。		なし	なし	
D-23		確認	53.3	V層	確認できず	耕作土下でV層を確認。		なし	なし	
D-24		確認	43.6	V層	254 14.64	耕作土下でⅢ～V層を確認。Ⅲ層はハンドドリガーゲによるボーリング調査で深さ254m(標高14.64m)で確認。a-bの4層に細分されるが、堆积は深さ3.32m(標高13.97m)より下層に続く。		なし	なし	
D-25		確認	27.9	V層	確認できず	耕作土下でⅢ～V層を確認。		なし	なし	
D-26		確認	32.2	V層	220 14.31	耕作土下でⅢ～V層を確認。Ⅲ層はハンドドリガーゲによるボーリング調査で深さ220m(標高14.31m)で確認。a-bの3層に細分されるが、堆积は深さ3.44m(標高13.77m)より下層に続く。		なし	なし	

附表1 調査状況一覧 (7)

調査区	道路 記号	調査 箇所	発掘 面積	調査面	見易い堆积 度と標高差	土層堆積状況	見易い遺物出土状況	遺構	遺物	備考
D-27	確認	633	V層		2.46	耕作土下でV～見易層を確認。見易層はハンドオーバーによるボーリング調査で深さ5.246m(標高14.69m)で確認。a～eの5層に細分されるが、堆积は深さ3.10m(標高14.00m)より下層に続く。		なし	なし	
					14.69					
D-28	確認	47.1	V層		2.25	耕作土下でV～見易層を確認。見易層はハンドオーバーによるボーリング調査で深さ5.225m(標高14.84m)で確認。a～bの2層に細分されるが、堆积は深さ3.28m(標高13.81m)より下層に続く。		なし	なし	
					14.84					
D-29	確認	249	V層	確認できず		耕作土下でV層を確認。(見易層は2.8m?)		なし	なし	
D-30	確認	556	V層	確認できず		耕作土下で第1～V層を確認。		SX1000	ロクロ土加器	古代の河川鋪石。
D-31	確認	29.1	V層	確認できず		耕作土下で第1～V層を確認。		SX1000	領應器・土加器	古代の河川鋪石。
D-32	確認	64.6	V層		2.45	耕作土下でV～見易層を確認。見易層はハンドオーバーによるボーリング調査で深さ5.245m(標高15.15m)で確認。a～eの5層に細分されるが、堆积は深さ3.75m(標高13.85m)より下層に続く。		なし	なし	
					15.15					
D-33	事前	387	V層	確認できず		耕作土下でV層を確認。深さ3.78m(標高13.75m)まで見易層は確認できます。		なし	なし	
D-34	事前	37.5	V層	確認できず		耕作土下で鉄研磨土、V層を確認。		なし	なし	
D-35	事前	57.3	V層	確認できず		耕作土下でV層を確認。深さ2.33m(標高14.73m)まで見易層は確認できます。		なし	なし	

附表1 調査状況一覧 (8)

# 写 真 図 版



1. 北小松遺跡ほかの位置 (縮尺: 1/10,000)



2. 遺跡遠景 (南東から)

図版 1 北小松遺跡ほかの周辺の遠景



1. 全景（西から）



2. 西部北壁（南から）



3. VI層遺物出土状況



4. 壺

図版2 A-1区



1. 全景（北西から）



2. 東壁（西から）



3. VI層遺物出土状況（北西から）



4. VI層遺物出土状況（東から）

図版3 A-20区



1. 全景（北東から）



2. 東部南壁（北から）



3. Vlc層遺物出土状況（北から）



4. ニワトコ

図版4 A-25区



1. 木の根（北東から）



2. 西壁（東から）



3. SX1 焼面（東から）



4. 磨石

図版5 A-28区



1. 全景（南東から）



2. 西壁（東から）



3. VI層遺物出土状況（南東から）



4. VI層遺物出土状況詳細

図版6 A-29区（1）



1. 北部全景（南東から）



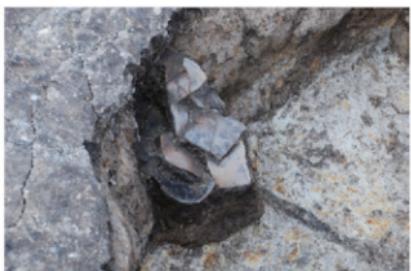
2. SX2 焼面（南から）



3. SK3 土坑断面（東から）



4. SX4 穴状遺構断面（西から）



5. SK5 土坑の深鉢と壺

図版7 A-29区 (2)



1. 全景（南西から）



2. 東部西壁（東から）



3. SX12焼面・VI層遺物出土状況（南から）



4. 浅鉢

図版8 A-34区



1. A-8区全景（南から）



2. A-21区東壁（西から）



3. A-23区全景（南西から）



4. A-24区全景（北東から）



5. A-26区全景（西から）



6. A-30区全景（南西から）

図版9 A-8・21・23・24・26・30区



1. 全景（東から）



2. 東部北壁（南から）



3. 東部VI層遺物出土状況（南から）



4. SK10土坑3層の遺物出土状況（東から）

図版10 B-10区



1. 全景（西から）



2. 東部北壁（南から）



3. Vib層遺物出土状況（南西から）



4. 浅鉢の台部

図版11 B-11区



1. 全景（南西から）



2. 東部北壁（南から）



3. 東部VI層遺物出土状況（南西から）



4. V層上面の青木舟式の高坏

図版12 B-22区



1. 全景（南東から）



2. 南部西壁（東から）



3. VI層遺物出土状況（南東から）



4. VI層遺物出土状況詳細

図版13 B-28区



1. B-1区全景（南西から）



2. B-1区東部（南から）



3. B-2区全景（南西から）



4. B-3区全景（南西から）



5. B-9区全景（西から）



6. B-20区全景（南西から）

図版14 B-1・2・3・9・20区



1. 北部全景（北から）



2. 南部全景（北から）



3. 南部西壁（東から）



4. 北部VI層遺物出土状況（北東から）



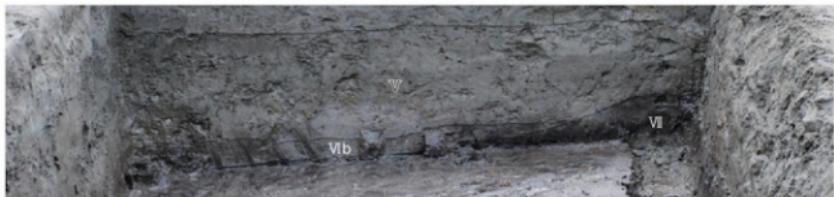
5. 南部VI層遺物出土状況（北東から）



1. 東部（北西から）



2. 西部（北東から）



3. 東部北壁（南から）



4. 東部VI層遺物出土状況



5. 東部VI層遺物出土状況詳細

図版16 C-21区



1. C-1区全景（東から）



2. C-7区全景（南西から）



3. C-8区全景（北東から）



4. C-12区全景（南東から）



5. C-13区全景（東から）



6. C-14区全景（西から）

図版17 C-1・7・8・12・13・14区



1. C-15区全景（東から）



2. C-16区全景（南東から）



3. C-17区全景（南西から）



4. C-20区全景（南西から）



5. C-32区全景（南東から）



6. C-33区全景（南東から）

図版18 C-15・16・17・20・32・33区



1. D-2区全景（西から）



2. D-7区全景（南から）



3. D-15区南部（北東から）



4. D-21区南部（北西から）



5. D-30区全景（北西から）



6. D-30区SX1000（北西から）

図版19 D-2・7・15・21・30区



縄文土器の器種



SK10出土縄文土器

図版20 北小松遺跡ほか出土の縄文土器



1  
(6-1)



2  
(7-4)



3a  
(6-5)



3b  
(6-5)



4  
(6-2)



5  
(8-3)

図版21 VI層出土土器 (1)



図版22 VI層出土土器 (2)



1  
(19-3)



2  
(19-6)



3  
(27-2)



4  
(27-3)



5  
(27-4)



6  
(27-5)



7  
(30-3)



8  
(30-5)

図版23 VI層出土土器 (3)



1  
(31-8)



2  
(31-9)



3  
(31-10)



4  
(31-7)



5  
(30-8)



6  
(32-6)



7  
(33-1)



8  
(33-2)

図版24 VI層出土土器 (4)



図版25 VI層出土土器（5）



図版26 VI層出土土器 (6)



図版27 VI層出土土器 (7)



図版28 VI層出土土器 (8)



図版29 VI層出土土器 (9)



図版30 VI層出土土器 (10)



図版31 VI層出土土器 (11)



図版32 VI層出土土器 (12)



図版33 VI層出土土器 (13)



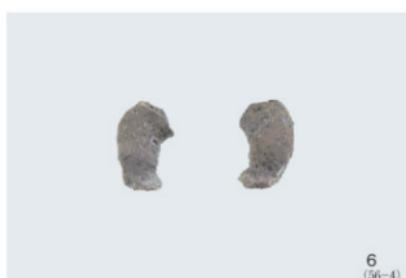
図版34 VI層出土土器 (14)



図版35 SK・SX出土土器（1）



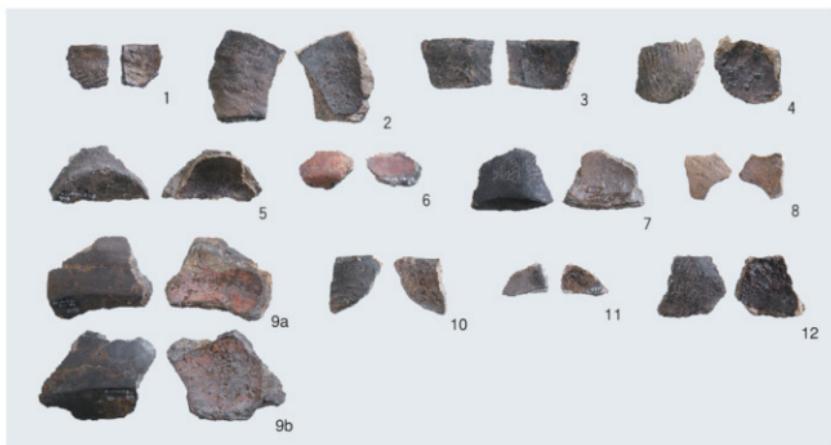
図版36 SK・SX出土土器 (2)



図版37 VI層出土土製品 (1)



図版38 VI層出土土製品 (2)



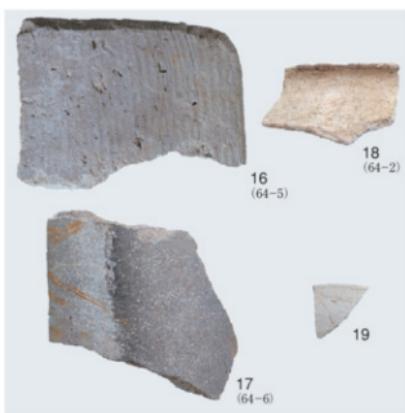
13  
(64-1)



14  
(64-4)



15  
(64-3)



16  
(64-5)

18  
(64-2)

17  
(64-6)

19

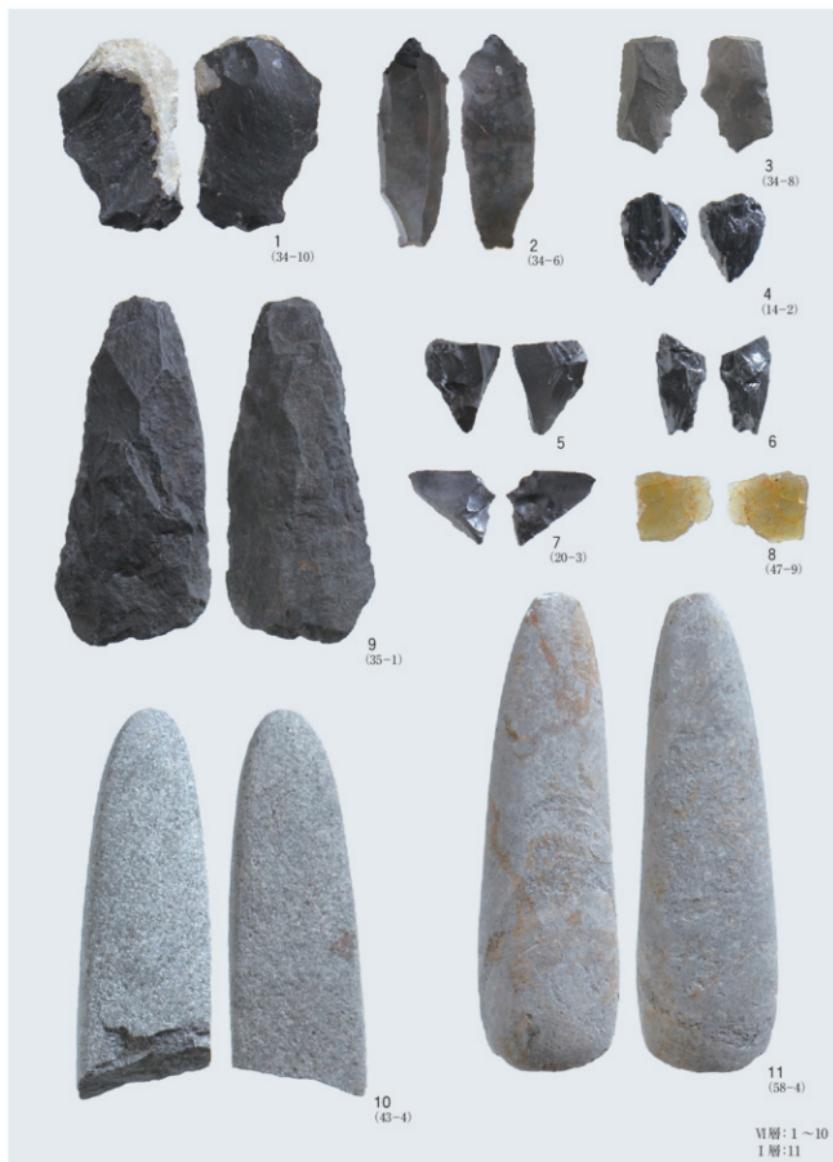
図版39 漆壺・弥生時代以降の出土遺物



図版40 石器（1）（石鎌・尖頭器・石錐・石匙・石範）



図版41 石器（2）石箋・楔形石器・不定形石器)



図版42 石器 (3) (不定形石器・石斧)

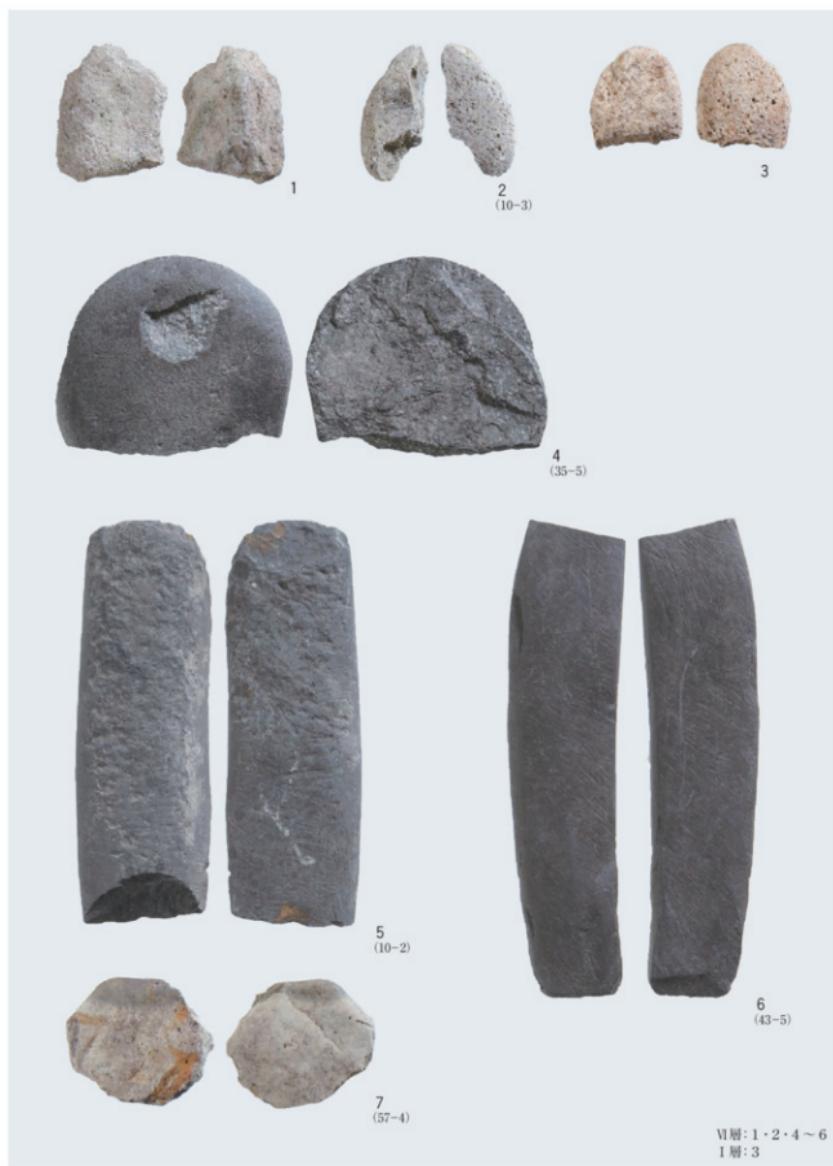


図版43 石器 (4) (不定形石器・磨石)



VI層: 2 ~ 9・11・12  
I ~ V層: 1・10

図版44 石器 (5) (磨石・凹石・砾石・石皿)



図版45 石器（6）（石皿・敲石）・石製品（1）（石刀・円盤状石製品）



VII層: 1 ~ 11

図版46 石製品(2)(石刀・石棒)・剥片

## 報告書抄録

ふりがな	きたこまついせきほか										
書名	北小松遺跡ほか										
副書名	田尻西部地点は場整備事業に係る平成19年度発掘調査報告書										
巻次											
シリーズ名	宮城県文化財調査報告書										
シリーズ番号	第223集										
編著者名	生田和宏										
編集機関	宮城県教育委員会										
所在地	〒980-8423 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8-1 TEL 022-211-3682										
発行年月日	西暦 2010年3月26日										
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	世界測地系	調査期間	調査面積	調査原因					
北小松遺跡	大崎市田尻小松字屋敷裏	42153	38005	38°37'00"	141°00'30"	2007.5.21 ~112	7.961m <sup>2</sup>	ほ場整備 事業			
愛宕山遺跡	大崎市田尻諏訪字諏訪	42153	38047	38°37'9"	140°59'42"						
諏訪遺跡	大崎市田尻諏訪字諏訪	42153	38096	38°37'3"	140°59'49"						
宮沼遺跡	大崎市田尻諏訪字宮沼	42153	38046	38°36'51"	140°59'52"						
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項						
北小松遺跡	散布地(泥炭層)	縄文時代晚期・弥生時代前期・古代	堅穴状遺構・溝・土坑・焼面・ピット	縄文土器・土製品・石器・石製品・動植物遺存体・弥生土器・土師器・須恵器・瓦							
愛宕山遺跡											
諏訪遺跡											
宮沼遺跡											
要約	<p>北小松遺跡ほかの周辺の地形は、複雑に開折された微高地・低丘陵とそれに開まれる沖積低地から構成されるが、この地形の出入りは縄文時代晚期の地形をほぼ反映したもので、晚期の微高地・低丘陵にはクリの純林が形成され、その周辺で現在の沖積低地下にあたる場所には、湿地や沼沢地、湖沼が広がっていると考えられた。その湿地や湖沼の縁辺で、微高地や低丘陵の裾部から裾部にあたる位置から、縄文時代晚期の堅穴状遺構が基、土坑6基・焼面5箇所、ピット基と多くの低湿度性の遺物包含層を検出し、遺物包含層は沼地へ広がっていくことが判明した。また遺構のほとんどが丘陵に近い緩斜面に形成されており、遺物が多く分布する範囲と近接する傾向がみられた。出土した遺物には土器類・土偶などの土製品・石器・石錐・磨石などの石器類・石刀などの石製品類・自然木・種子や種実・獸骨などの動植物遺存体がある。なお遺物包含層の出土遺物の多くは廃棄の場の原位置を保ったものではなかったが、微高地や低丘陵側に廃棄の場があったと考えられる状況もいくつかみられた。</p> <p>このような遺構の検出状況や遺物の出土状況から、微高地や低丘陵上、特にその突端付近の平坦面に集落が営まれていたとみられ、その集落は晩期後葉に最盛期を迎えていたと考えられた。</p> <p>なお、弥生時代以降の遺構は古代の河川用1条と溝4条のみで、遺物は弥生時代と古代の土器類と古代の瓦の破片が少量出土したのみであった。</p>										

---

宮城県文化財調査報告書第223集

## 北小松追跡ほか

－平成19年度発掘調査報告書－

平成22年3月19日印刷

平成22年3月29日発行

発行 宮城県教育委員会  
仙台市青葉区本町三丁目8番1号  
印刷 株式会社 東北プリント  
仙台市青葉区立町24-24

---